

法学の力で、社会の諸問題を解決する

法学部

School of Law

法律学科

- ビジネスローコース
- 国際関係法コース
- 法と情報コース
- 公共法務コース
- 法曹コース

明治大学法学部の強み

豊かな法的素養を育む教育プログラム

1

将来が具体的に見えてくる！ 5つのコース制

2年次から「ビジネスロー」「国際関係法」「法と情報」「公共法務」「法曹」の5コースに分かれ、専門性を身につけます。フレキシブルに、コースの垣根を越えて幅広く学べます。

2

まずは六法の読み方、論文の書き方を学ぼう！ リテラシー教育

法律学を学ぶために必要な基礎知識を、1年次の必修科目「法律リテラシー」「法学部生のための日本語」で習得します。法律の調べ方や文章の理解力を高め、論文の書き方を学びます。

3

グローバルな社会で活躍したい！ 外国語教育・外国語による法律授業

国際社会やグローバル企業で活躍する人材を育てる外国語教育や国際交流が充実。海外研修や、海外留学支援など、国際化社会に対応したプログラムを用意しています。

4

先生と一緒に研究を楽しもう！ 多彩な少人数教育

少人数で行われるゼミナール教育は、講義形式の授業と異なる「参加型」。単に知識を吸収するだけでなく、プレゼンテーション能力や問題解決能力の向上を目指します。

さらに詳しい情報は
Step into Meiji Universityまたは
学部ガイドをご覧ください



視野を広げて幅広い知識を吸収。 迷うよりまず行動に移すことで 世界の「今」を知ること。

具体的な目標がなかった私は、昔から興味を持っていた法律を学ぶことを決め、明治大学法学部へ。入学して驚いたのは、科学や文化、心理学など教養科目の多さでした。視野が広がり、将来の選択に活かせるという点は大きなメリットだと感じます。またチャリティー活動には積極的に参加。カンボジアを訪問した際には現地の子どもたちの厳しい生活を目の当たりにし、現場に足を運び確かめる大切さを実感しました。そこから報道やスポーツ実況に携われるアナウンサーを目指すようになり、積極的に世界の「今」を吸収しています。

法律学科法と情報コース3年 藤岡 宗我さん
(山口県私立慶進高等学校卒業)

法律の専門知識と 論理的思考(リーガル・マインド)力を 持って、社会を歩んでほしい。

法学部では、広い教養教育を前提に法律の専門知識を伝授する体制が組まれています。学生諸君が、自ら社会的問題を捉え、自ら徹底的に調べ、検討し、自らあるべき解決方向性を見つけていくという姿勢が重要です。いわゆる論理的思考(リーガル・マインド)力の養成です。各人が大いなる知的好奇心をもって社会を歩んで欲しいと思います。それがまさに自己の持つダイナミズムの発見です。

長坂 純学部長

1983年市立高崎経済大学経済学部卒業。その後、明治大学大学院、日本学術振興会特別研究員、県立九州歯科大学歯学部専任講師、清和大学法学部助教授、帯広畜産大学畜産学部教授を経て、2005年より明治大学法学部教授。主要科目は「民法(財産法)」。

▶ Meiji NOWでは「前へ!」踏み出す法学部生を特集しています

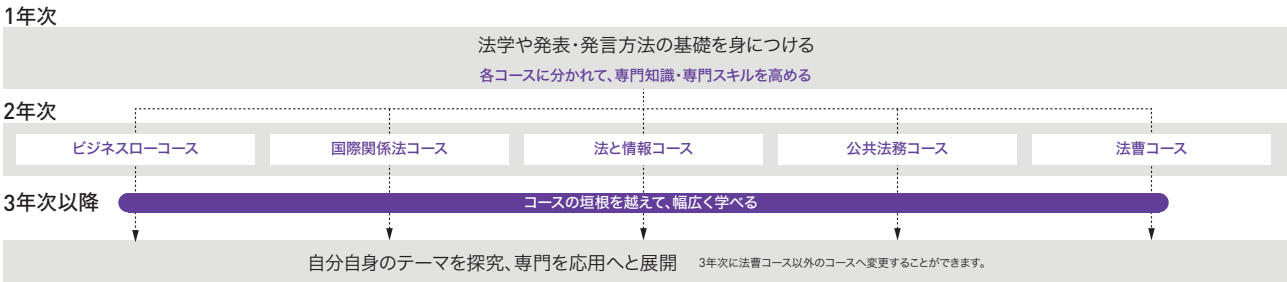


カリキュラム

5コース制で専門性を高めながら、関連分野まで幅広く学べます

学科制とは異なる5つのコース制を採用しています。「法学」の知識は、弁護士や司法書士などの法律関連専門職はもちろん、公務員、金融、マスコミ、情報、通信などあらゆる分野で活かすことができます。入学後、自分の志望に合わせて、その進路に合ったコースを選択し、専門性を高めます。また、コースの枠を超えた授業履修も可能ですので、自分自身のテーマを探究しつつ、関連分野まで幅広く学ぶことができます。

■ 学びとコース選択の流れ



■ カリキュラム体系図

		1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目群		○法律リテラシー ○法学部生のための日本語Ⅰ(リテラシー)・Ⅱ(精読)			
教養科目群	人間と科学	記号論理学、心理学Ⅰ・Ⅱ、法と心理、法と言語Ⅰ・Ⅱ、スポーツと社会A・B、身体活動と健康A・B、身体と環境A・B 物質と宇宙Ⅰ・Ⅱ、生命と人間Ⅰ・Ⅱ、数理と社会Ⅰ・Ⅱ、情報と思考Ⅰ・Ⅱ、エネルギーと環境Ⅰ・Ⅱ、科学と技術Ⅰ・Ⅱ		マインリチの人間学、スポーツとメディア、科学技術と社会、エネルギー・環境政策	
	社会と思想	美術の歴史、哲学Ⅰ・Ⅱ、倫理学Ⅰ・Ⅱ、倫理学基礎論、政治社会学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、歴史学(西洋史)、歴史学(東洋史) ヨーロッパ近現代史概説、アジアの社会と歴史Ⅰ・Ⅱ、社会思想史Ⅰ・Ⅱ、現代世界と社会思想Ⅰ・Ⅱ、映像リテラシーⅠ・Ⅱ		現代哲学、社会思想史Ⅲ・Ⅳ、メディア文化論Ⅰ・Ⅱ、映画論A・B	
	地域と文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ・Ⅱ、フランス語圏の文化Ⅰ・Ⅱ、イギリス文化、スペイン語圏の文化Ⅰ・Ⅱ、アジア文化Ⅰ・Ⅱ イスラム文化Ⅰ・Ⅱ、日本文化A～DⅠ・Ⅱ、異文化理解Ⅰ・Ⅱ		ドイツ語圏の文化Ⅲ・Ⅳ、ヨーロッパ文化Ⅰ・Ⅱ、アメリカ文化Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化 スペイン文化Ⅰ・Ⅱ、ラテンアメリカ文化Ⅰ・Ⅱ、アフリカ文化、アジア文化Ⅲ・Ⅳ イスラム文化Ⅲ・Ⅳ、比較文化AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ	
	共通	テーマ講座			
外国語科目群		■ 外国語科目Ⅰ English AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 初級ドイツ語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 初級ドイツ語実践Ⅰ・Ⅱ 特別ドイツ語(1年)AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 初級フランス語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 初級フランス語実践Ⅰ・Ⅱ 特別フランス語(1年)AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 初級中国語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 初級スペイン語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 初級ロシア語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 日本語(1年)AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ	■ 外国語科目Ⅱ English CⅠ・Ⅱ English Seminar AⅠ・Ⅱ Presentation AⅠ・Ⅱ Media English AⅠ・Ⅱ Writing AⅠ・Ⅱ TOEIC®/TOEFL®講座AⅠ・Ⅱ 中級ドイツ語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 中級ドイツ語実践Ⅰ・Ⅱ ドイツ語ゼミナールAⅠ・Ⅱ 時事ドイツ語AⅠ・Ⅱ 資格ドイツ語AⅠ・Ⅱ 特別ドイツ語(2年)CⅠ・Ⅱ、DⅠ・Ⅱ	■ 外国語科目Ⅲ English Seminar BⅠ・Ⅱ Presentation BⅠ・Ⅱ Media English BⅠ・Ⅱ Advanced ReadingⅠ・Ⅱ Writing BⅠ・Ⅱ ドイツ語ゼミナールBⅠ・Ⅱ 時事ドイツ語BⅠ・Ⅱ 資格ドイツ語BⅠ・Ⅱ 上級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ 上級ロシア語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ	時事フランス語BⅠ・Ⅱ 資格フランス語BⅠ・Ⅱ 上級フランス語Ⅰ・Ⅱ 上級フランス語実践Ⅰ・Ⅱ 上級中国語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 上級スペイン語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ 上級ロシア語AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ
		■ 外国語科目Ⅳ English DⅠ・Ⅱ Presentation DⅠ・Ⅱ Media English DⅠ・Ⅱ Advanced ReadingⅡ・Ⅲ Writing DⅠ・Ⅱ ドイツ語ゼミナールDⅠ・Ⅱ 時事ドイツ語DⅠ・Ⅱ 資格ドイツ語DⅠ・Ⅱ 上級ドイツ語Ⅲ・Ⅳ 上級ロシア語CⅠ・Ⅱ、DⅠ・Ⅱ	■ 外国語科目Ⅴ English EⅠ・Ⅱ Presentation EⅠ・Ⅱ Media English EⅠ・Ⅱ Advanced ReadingⅢ・Ⅳ Writing EⅠ・Ⅱ ドイツ語ゼミナールEⅠ・Ⅱ 時事ドイツ語EⅠ・Ⅱ 資格ドイツ語EⅠ・Ⅱ 上級ドイツ語Ⅴ・Ⅵ 上級ロシア語EⅠ・Ⅱ、FⅠ・Ⅱ	■ 外国語科目Ⅵ English FⅠ・Ⅱ Presentation FⅠ・Ⅱ Media English FⅠ・Ⅱ Advanced ReadingⅣ・Ⅴ Writing FⅠ・Ⅱ ドイツ語ゼミナールFⅠ・Ⅱ 時事ドイツ語FⅠ・Ⅱ 資格ドイツ語FⅠ・Ⅱ 上級ドイツ語Ⅶ・Ⅷ 上級ロシア語FⅠ・Ⅱ、GⅠ・Ⅱ	■ 外国語科目Ⅶ English GⅠ・Ⅱ Presentation GⅠ・Ⅱ Media English GⅠ・Ⅱ Advanced ReadingⅤ・Ⅵ Writing GⅠ・Ⅱ ドイツ語ゼミナールGⅠ・Ⅱ 時事ドイツ語GⅠ・Ⅱ 資格ドイツ語GⅠ・Ⅱ 上級ドイツ語Ⅸ・Ⅹ 上級ロシア語GⅠ・Ⅱ、HⅠ・Ⅱ
保健体育科目群	○基礎運動実習Ⅰ・Ⅱ		スポーツ実習		
法律必修科目群	○憲法(人権)Ⅰ・Ⅱ ○民法(総則)Ⅰ・Ⅱ ○刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		○憲法(統治)Ⅰ・Ⅱ ○民法(債権総論)Ⅰ・Ⅱ ○刑法(各論)Ⅰ・Ⅱ		
演習科目群			○専門演習AⅠ・Ⅱ ○専門演習BⅠ・Ⅱ		
コース科目群	科目詳細は学部ガイドを参照してください				
自由選択科目群	■ 他学部履修科目(各学部のカリキュラムや配当年次に従って60単位まで履修可能) ■ グローバル人材育成プログラム ■ 情報関係科目 ■ 全学共通総合講座			社会政策Ⅰ・Ⅱ、経済政策Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、会計学Ⅰ・Ⅱ	
留学関係科目群	留学関係科目A～EⅠ・Ⅱ、留学関係科目FⅠ・Ⅱ、留学基礎講座 A～DⅠ・Ⅱ(B・Cのみ2～4年次配当)、Legal Studies Abroad A～EⅠ・Ⅱ、Japanese Law Study in English AⅠ・Ⅱ				
資格課程関係科目群	教育職員免許状取得用科目				

※カリキュラムは、一部変更となる場合があります。最新情報は法学部ホームページをご確認ください。

「個」を強くするゼミナール教育

強い「個」を育むために、 法学部は少人数による参加型授業＝ ゼミナールを重視しています。

法学部では、1年次から段階的に履修できる演習形式の授業を設けています。中でも3年次から履修するゼミは受け身で講義を聴くのではなく、学生主体の参加型の授業。少人数の学生が意見交換をしたり、テーマを決めてディスカッションしたり、プレゼンテーションをしたりしながら、「発言」「発表」「探究」することで、コミュニケーション能力や問題解決能力が育われます。



少人数グループで課題に取り組むことで 思考力、判断力、コミュニケーション能力も向上。

ゼミでは、提示される課題をグループごとに1週間でレジュメにまとめます。発表するのは当日指名された1グループのみで、毎回緊張感をもって臨めます。短期間で、判例・学説を用いながら論理的に自説を導き出す課題を毎週実施しているため、法的思考・法的判断力、コミュニケーション能力はかなり鍛えられたと感じます。培われた法的思考は法律問題にかかわらず日常生活にも生かせるので、今後も活用したいと思います。

法学学科ビジネスローコース 3年 山岸 怜子 さん
(石川県立金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校卒業)

ビジネスローコース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.11

企業や社会で役立つ リーガルマインドを養う

「リーガルマインド」を身につけ、企業の法務部門への就職や海外のロースクールへの進学を希望する学生が対象です。基本六法のほか、銀行取引法や金融商品取引法といった多様な法律科目、さらにはBusiness Law in Englishなどの英語科目も配置。きめ細かい教育を行っています。



授業レポート

会社法 柿崎 環 教授

企業の仕組みや活動について、法律がどのように規制しているのか、またなぜそうに規制しているのかを学びます。社会に出てからも、不断に変化する経済社会の最前線に目を向けることができるようになります。

目指す将来イメージ

- ・ 企業経営や経済活動に関する豊富な法的リテラシーを持つビジネスパーソンとして、企業や団体で活躍する
- ・ ソフト商品を扱う企業で知的財産権の管理と活用によって法的観点から経営戦略を立案する
- ・ 企業組織の内部統制システムの構築と実践に取り組み、企業の法務部門で契約を有利に進める戦略を練る
- ・ 海外との取引や海外子会社設立および海外での事業活動の展開など、国際的なビジネス法務に携わる

国際関係法コース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.13

地球規模で通用する 法的ルールを考える

国家間の共通のルールである国際法と、各国が外国との対外関係について定めた国内法の両面から、国際的な活動に関する法律について学びます。特徴的なのは、法律だけでなく文化に関する科目も設置していること。その国の社会を知ることによって国際関係法への理解も深められるようになっています。



授業レポート

フランス法 吉井 啓子 教授

授業では、フランスにおける家族や財産をめぐる法律問題について、日本と比較しながら勉強します。同性婚、遺産相続、動物虐待、高齢者の住居、老朽化マンション、債権担保の仕組みなど様々なテーマを取り上げます。

目指す将来イメージ

- ・ 国連などの国際機関で活躍
- ・ 海外の日系企業で現地のメンバーと協働するビジネスパーソン
- ・ 人権・環境・経済援助などの活動をするNGOで活躍
- ・ メーカー・商社などの輸出入や投資にかかわる部門で活躍

法と情報コース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.15

情報社会における 問題解決能力を養う

インターネットやスマートフォンの普及により情報社会の利便性が飛躍的に拡大する一方、新たな検討課題も出現しています。問題解決に必要な現行法令を正確に理解する能力を養うとともに、IoTやAI等の情報関連の新規立法や内外の最新動向の情報を提供し、これからの社会を力強く生きる人材を育成します。



授業レポート

サイバー法 佐々木 秀智 教授

インターネット上で生じる様々な法的問題について考えていきます。ITの進歩は日進月歩なので、迅速かつ確かな法的対応を行うためには、現行法の理解を前提とした柔軟な思考が必要不可欠になります。

目指す将来イメージ

- ・ 企業の情報財・知的財産の管理・運用担当者
- ・ 国・自治体の電子化された業務の管理・運用担当者
- ・ 企業などの情報セキュリティ・危機管理の担当者、アドバイザー
- ・ 行政機関、企業などにおける個人情報保護担当者

公共法務コース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.17

幅広く活躍する 公務員の土台をつくる

年々希望者が増加している、国家・地方公務員や法律関連専門職を目指すコースです。憲法や民法、行政法を中心に、各種試験の準備に役立つようにカリキュラムが構成されています。一般的な公務員だけでなく、国税専門官や労働基準監督官など、多方面にわたる公務員を目指すことができます。



授業レポート

行政法 下川 環 教授

今日、高度情報化、少子高齢化、地球温暖化などに伴う現代的問題が山積しています。行政は、これらの課題に迅速に対応する必要性に迫られています。その際、法律上専門技術的な数量を与えられていることが少ない(ありま)せん。この最善解の適正な行使を確保し、民主的で国民に対して責任のとれる行政を実現するための法理を探究する学問が行政法学です。

目指す将来イメージ

- ・ 国家・地方公務員として行政に携わる
- ・ 国会の事務局・法制局などに勤務し、立法にかかわる仕事に携わる
- ・ 行政書士の資格を取得する
- ・ 税理士の資格を取得する

法曹コース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.19

第一線の法曹実務家となる 知識と能力を養う

裁判官、検察官、弁護士といった法曹と、その他法律関係の資格取得に特化したコースです。法科大学院入学、司法試験予備試験合格のために、憲法、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法の6科目を中心に学び、基礎的知識とリーガルマインドを身につけます。



授業レポート

刑事訴訟法 黒澤 睦 教授

わが国の犯罪捜査は高い検挙率を誇り、刑事裁判の有罪率も99%を超えます。しかし、捜査・裁判や刑罰は人権制約を伴い、時には「えん罪」も起こります。授業では、効果的でより安全な刑事手続の在り方を考えます。

目指す将来イメージ

- ・ 裁判官、検察官、弁護士、司法書士などの法律専門家
- ・ 明治大学をはじめとする全国の法科大学院への進学
- ・ 大学教員などの法律研究者
- ・ 明治大学をはじめとする全国の大学院法学研究科への進学

教員紹介・研究テーマ

※2024年4月1日現在
※退職等により変更となる場合があります。

科目	氏名・職名	研究テーマ
憲法	大津 浩 教授	国家構造と地方自治の憲法理論、自己決定権、憲法と文化
憲法	江島 晶子 教授	多元的・非階層的・循環的な人権保障システム、グローバル立憲主義
憲法	辻 雄一郎 教授	憲法(司法審査、州際通商)、行政法(行政機関の法的統制)
憲法	江藤 英樹 教授	フランスの違憲立法審査権についての研究
教育法	斎藤 久一 教授	憲法と教育
行政法	下川 環 教授	民主的責任行政の日米比較法研究
行政法	横田 明美 教授	アータ駆動社会における情報行政法、行政訴訟論、リスク制御のための法政策論
租税法	小林 宏之 教授	租税法学の基礎理論、所得課税法、消費課税法に関する研究
民法	林 幸司 教授	契約の不成立、無効、取消、解除の研究
民法	長坂 純 教授	契約責任の構造と射程、民事責任の分化史的諸相、役務提供契約論
民法	川地 宏行 教授	金融サービス業者の民事責任、キャッシュレス支払手段、金銭債権の研究
民法	都筑 満雄 教授	現代における複雑な契約関係、集団的消費者被害の救済、キャッシュレス決済法
民法	有賀 恵美子 教授	契約締結過程における諸問題
民法	星野 茂 准教授	現代社会の家族をめぐる法的諸問題
民法	亀田 浩一郎 准教授	物的担保と公示方法
民法	神田 英明 専任講師	契約の拘束力に関する基礎理論の再検討、善意者保護法理の再検討
刑法	内田 幸隆 教授	刑法総論の理論的枠組みを背景とした財産犯体系の再構築
刑法	川口 浩一 教授	刑法理論の哲学的基礎
刑法	石井 徹哉 教授	古典的自由主義を基礎とする刑法理論
刑事訴訟法	黒澤 睦 教授	刑事司法をめぐる諸問題の理論的検討
刑事訴訟法	石田 倫識 教授	被疑者・被告人の防御権(黙秘権、弁護人の援助を受ける権利)と刑事再審事件の研究
犯罪学・少年法	上野 正雄 教授	犯罪統制活動および少年法・少年事件に関する諸問題
商法	南保 勝美 教授	現代会社法制の基本問題とその比較法的考察
商法	柿崎 環 教授	資本市場法規制におけるコーポレート・ガバナンス・システムのあり方
商法	根本 伸一 教授	少数株主保護、企業買収、取締役の義務
商法	高木 正則 教授	商法上の諸問題、支払決済制度の発展に伴う法制度・法理論の展開
商法	陳 亮 専任講師	保険をめぐる各種の法律問題とその比較法的研究
民事訴訟法	岡田 洋一 教授	知的財産をめぐる訴訟上の諸問題
民事訴訟法	清水 宏 教授	専門的知見を必要とする訴訟
民事訴訟法	柳川 鋭士 准教授	民事訴訟手続の迅速化に関する立法論的・解釈論的手段
労働法	小西 康之 教授	労働法規整のあり方に関する考察
労働法	山川 隆一 教授	労働紛争処理、労働法および労働政策の実現手法
社会保障法	小西 啓文 教授	介護サービスの質の確保についての日独比較法研究
経済法	山部 俊文 教授	経済法・独占禁止法に関する諸問題
知的財産法	金子 敏哉 教授	知的財産法の相互比較、民法との対比による研究
医事法	小西 知世 准教授	看護制度・医療スタッフ間の業務分担構造に関する研究、医事法制史
法情報学	夏井 高人 教授	ネットワーク社会の法、法情報論、人工知能と法、同一性の識別
情報法	丸橋 透 教授	インターネット上のプラットフォームの民事責任と公法上の責務
国際法	西元 宏治 教授	条約法の現代的展開、国際法秩序の多元化と国際法上の紛争処理
国際法	水田 周平 専任講師	海洋法・武力紛争をめぐる諸問題
国際私法	福井 清貴 専任講師	国際私法における当事者自治の原則
外国法(中国法)	鈴木 賢 教授	現代中国法の各分野、司法制度、台湾の民主化と法
外国法(ドイツ法)	メンクハウス、ハインリッヒ ヨハネス 教授	国際企業法、比較憲法学、日独法律交流史、宗教と法

科目	氏名・職名	研究テーマ
外国法(アメリカ法)	佐々木 秀智 教授	アメリカ不法行為法理の現代的役割(公益実現の道具としてのtorts)の分析
外国法(フランス法)	吉井 啓子 教授	日仏物権法における諸課題の研究
外国法(EU法)	佐藤 智恵 教授	EU法が既存の国際法秩序に与える影響
法社会学	太田 勝造 教授	交渉およびADRによる紛争解決、リーガル・マインド研究、弁護士論、社会規範論など
法史学(東洋)	陶安 あんど 教授	最新史料に見る秦・漢法制の変革と帝制中国の成立
法史学(西洋)	小室 輝久 教授	ヨーロッパにおける紛争解決・統治・行政に関する歴史的諸問題
日本近代法史	村上一博 教授	近世・近代東アジアにおける民事法の展開と法曹の役割
法哲学	小林 史明 准教授	法と人文学に関する研究
法思想史(西洋)	亀本 洋 教授	現代正義論史
英語	西垣 学 教授	表象文化論
英語	矢ヶ崎 淳子 教授	アメリカ社会・文化と民族性
英語	斎藤 英治 教授	現代米文学およびアメリカ映画史
英語	中村 和恵 教授	英語圏を中心とする比較文学・比較文化およびマインオリティ研究
英語	辻岡 宏子 教授	第二言語習得理論および外国語教育
英語	畑田 秀吾 教授	法コンテキストにおける言語使用の分析、英語と日本語の統語論・語形成論
英語	鈴木 哲也 教授	コミュニケーションテクノロジーの発達と社会構造の変化の相関性
英語	実村 文 准教授	教会音楽、演劇
英語	上村 威 准教授	国際関係、中国外交
英語	ダン、ジェームス デウィット 専任講師	批判的思考とカリキュラム設計、異文化間コミュニケーション能力、ゲーミフィケーション
ドイツ語	シェアマン、スザンネ 教授	映画学(映画史、映画理論)、映画製作
ドイツ語	伊藤 真弓 准教授	19世紀末ミュンヘンの文化と社会、ルーマニアの文化
ドイツ語	佐藤 公紀 専任講師	近代ドイツにおける監獄制度の歴史的展開、ドイツの右翼ポピュリズム
フランス語	乾 昌幸 教授	俳句創作の国際普及活動および比較研究、文化基層比較論
フランス語	岩野 卓司 教授	哲学、思想史、贈与研究、共同体研究、バタイユ研究
フランス語	渡辺 響子 教授	19世紀フランス小説文学における身体表象
スペイン語	大楠 栄三 教授	19・20世紀交替期スペインの作家たち
スペイン語	松尾 俊輔 専任講師	20世紀初頭南米における国家形成とスポーツの歴史
中国語	加藤 徹 教授	中国伝統文化・表象文化
中国語	川野 明正 教授	中国の民間信仰(祝術・呪符・土俗神)、少数民族文化(中国西南諸民族)
中国語	西川 和孝 准教授	漢族移民に起因する少数民族世界に起きた変化とその多角的分析
国語	田島 優 教授	日本語の歴史、日本の方言
国語	神田 正行 教授	日本における中国古典小説の受容
国語	小財 陽平 教授	江戸時代の漢詩文
国語	伊藤 剣 教授	神話
エネルギーと環境	勝田 忠広 教授	原子力政策、原子力工学
社会思想史	田中 ひかる 教授	ドイツ・アナーキズム史、ロシア・ユダヤ系移民史
哲学	越前 勝彦 准教授	行為の動機づけにおける欲望の役割
基礎運動実習	多田 聡 教授	北欧の生活文化、障がい者の野外活動とレクリエーション
基礎運動実習	釜崎 太 教授	市民社会とプロスポーツの関係、ドイツのスポーツクラブ研究、身体文化史、身体論
基礎運動実習	土方 圭 准教授	野外教育の教育的意義に関する理論的検討
法律リテラシー	石厩 圭 助教	被害者の承諾とバターンリズム
法律リテラシー	尾埴 司 助教	複数人による犯罪実現と関与類型

TOPICS 法学部・法制研究所共催「予備試験対策答案練習講座」

予備試験とは、司法試験を受けようとする者が法科大学院修了者と同等の学識およびその応用力ならびに法律に関する実務の基礎的素養を有するかどうかを判定することを目的とし、短答式および論文式による筆記ならびに口述の方法により行うものです。選択科目があること、短答式試験に合格→論文式試験に合格→口述試験に合格と、段階的に試験が進む点に特徴があります。

法学部では、法制研究所と連携し、2016年度から同試験に対応するため「論文の書き方」を中心とした講座を実施しており、本講座を受講する在学生から予備試験合格者が出ています。また、4年生の多くは法科大学院の入学試験を突破しており、本講座は予備試験のためだけでなく、法曹を目指す学生の学習の一助ともなっています。講師は、本学法学部出身の若手弁護士や司法修習生が担当し、自身の経験も踏まえたきめ細かい指導にあたっています。そのため、参加学生の満足度は高く、多くの学生が翌年度以降も継続して受講しています。また付属高校生も受講するなど、法曹を目指す強い志を持った学生たちが切磋琢磨しています。



留学制度 法学部主催

短期留学プログラム

夏休み・春休みの2週間～1カ月を利用し、海外の大学で現地の法律について学ぶことで、英語での専門知識を深めることのできる、法学部ならではの短期留学プログラムです。

<プログラム>



ケンブリッジ大学
夏期法学研修(イギリス)

夏休みの約1か月間、イギリスのケンブリッジ大学で英国法の理論および実践的な側面を、ネイティブの講師から学ぶプログラムです。ケンブリッジ大学はノーベル賞受賞者を多数輩出している名門校です。



ハワイ大学春期法学研修
(アメリカ)

春休みの約2週間、アメリカのハワイ大学マノア校でアメリカ法を中心に学ぶプログラムです。法律の授業のほか、弁護士事務所、州政府、刑務所などへのフィールドトリップが含まれています。

学部間協定留学

法学部と交換留学の協定を締結している学部間協定校に交換留学生として留学できる、1学期間～1学年間の長期留学プログラムです。留学先で修得した単位の一部が条件付きで卒業要件単位として認定されます。

<協定校> 南京師範大学(中国)、サンパウロ大学(ブラジル)、パイロイト大学(ドイツ)、国立台湾大学(台湾)

OB・OG MESSAGE

「難しそう」という先入観にとらわれず、理解しようとする努力が大切。



東京海上日動火災保険株式会社
盛岡支店

遠藤 美礼さん
法律学科法と情報コース2022年卒業
(岩手県立大船渡高等学校卒業)

私のターニングポイントは小学5年生の時です。岩手県陸前高田市という小さなまちで東日本大震災を経験。世界中から様々な形で被災地へと手を差し伸べられ、そのとき「災害時や緊急時、誰かのために行動できる大人になりたい」と思うようになりました。そこで目指したのが損害保険業界です。法学部に進学し、馴染みのない法律用語を学ぶなか、疑問をそのまま放置せずには納得するまで調べる考察力や、専門用語を自分の言葉に置き換えて伝える能力を身につけました。現在、自動車ディーラーを担当。100年に一度の変革期を迎えていると言われる自動車業界で、弊社が持つ解決策やノウハウを活かし、環境変化へ対応していけるよう定期的に先方トップへの提案を行っています。また、営業スタッフの皆様が自動車保険を提案される際に役立つ情報を提供したり、お客様に寄り添った提案をするための勉強会を開催しています。保険も身近な存在ではありますが、よく分からないというイメージを持たれがちです。いざというときにお客様の生活を支えられる補償をご提供できるように、大学で培った「伝える力」を活かし、多岐にわたる保険知識の普及に務めています。

ビジネスの最前線で活躍できる人間力を育む

商学部

School of Commerce

商学科

- アプライド・エコノミクスコース
- マーケティングコース
- ファイナンス&インシュアランスコース
- グローバル・ビジネスコース
- マネジメントコース
- アカウンティングコース
- クリエイティブ・ビジネスコース

明治大学商学部の強み

世界で活躍できるビジネスパーソンを育成

1

自分の興味に合ったコースを入学後に選択！ 自由度の高い7つのコース制

1・2年次は基礎・総合教育科目を学び、3年次より7つの専門コースから自分の希望のコースを選択します。他のコースの科目も履修可能。自由度が高く、幅広く学べます。

2

課題を相対的に捉える力を養う 演習教育の「ダブル・コア」

商学に関するあらゆる領域を研究対象とする商学専門演習と教養系の総合学際演習の2つのゼミを2年次から3年間履修できます。異なる性質の2つのゼミを同時に履修することで複眼的思考力が身につきます。

3

地域・産学連携による自主・自立型実践教育

自主・自立的に問題解決が図れる人材の育成プログラム「地域・産学連携による自主・自立型実践教育」を導入。社会の中で主体性を持って働くための基礎を学べます。

4

世界に羽ばたくための語学力を習得 多言語4年間一貫教育

TOEIC、TOEFLの団体受験や海外留学支援、3・4年次の「発展外国語」開講など、語学教育にも力を注いでいます。

さらに詳しい情報は
Step into Meiji Universityまたは
学部ガイドをご覧ください



幅広い学びの選択肢の中で 理論と実践を融合させ、 思考力を磨いていきましょう。

商学部では商学を「総合的市場科学」と捉え、市場にかかわるあらゆる理論を多様な領域から学べる体制を整えています。身につけた専門知識と深い教養を自らの内面で融合させ実践していくことで、新しい知識や技術、製品、サービスを生み出す創造性に富んだ思考力を磨き、予測困難な時代にグローバルに活躍できる力を身につけていきましょう。

中林 真理子 学部長

1993年明治大学商学部卒業。1995年明治大学大学院商学研究科博士前期課程修了、2002年同博士後期課程修了。博士(商学)。1998年明治大学商学部専任助手。専任講師、助教授、を経て2007年より教授。専門は保険、リスクマネジメント。研究テーマは「企業のリスクとしての倫理的課題についての考察」。主な著書に『リスクマネジメントと企業倫理—パーソナルハザードをめぐって』、『自動運転と社会変革—法と保険』(共著)など。

座学だけでは得ることができない 現場のプロによる実践授業で 「顧客志向」の考え方を伝授。

明治大学商学部を選んだのは、ふたつのゼミを履修できるダブル・コア制度に魅力を感じたから。私はマーケティングと外国文化を選択していますが、ともに高校生の頃から興味を抱いていた分野で、どちらも学べることが学習意欲につながっています。マーケティングのゼミでは実践が重要視され、企業様の協力を得て新商品提案を経験できました。新たな視点から物事を考え、判断する力を身につけられたと感じています。授業で学んだ「顧客志向」という言葉を大事に、かかわる人たちの利益を第一に考えるよう努めたいと思います。

商学科マーケティングコース3年 天野 心雪さん
(山梨県立吉田高等学校卒業)



▶ Meiji NOWでは「前へ!」踏み出す商学部生を特集しています



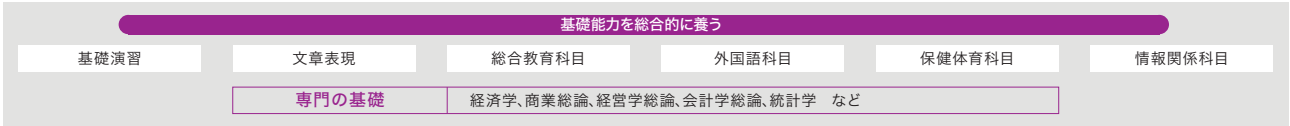
カリキュラム

1・2年次の基礎学習をもとに、 3年次より自分に合ったコースを選択

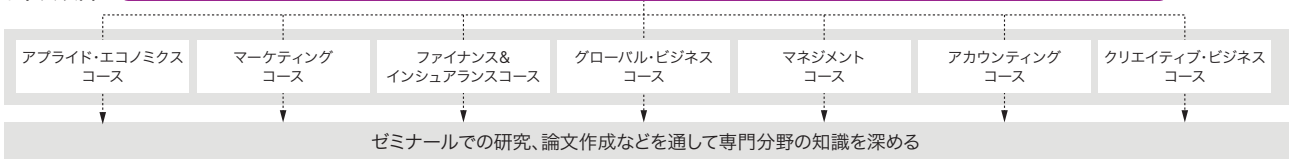
商学のあらゆる分野の基礎を学んでから、3年次より進路を自由に選べるコース制を採用しています。現代社会の情報化とグローバル化の動向をふまえて、〈実学-理論〉と〈情報化-グローバル化〉を軸とした7コースを設置し、学生の多様な志向に応じています。選択したコース以外の科目も履修することができ、より幅広く学ぶことが可能であり、それらも卒業要件として認められます。

■ 学びとコース選択の流れ、カリキュラム体系図

1・2年次



3年次以降



■ カリキュラム体系図

○=必修科目 △=選択必修科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎教育科目	○基礎演習、○文章表現、○経済学A・B			
総合教育科目	文化と芸術 地域と社会 人間と自然 外国人留学生のための科目 総合学際演習 特別認定科目(総合教育科目)	日本文化史A・B、西洋文化史A・B、日本語表現論A・B、日本近代文学A・B、日本古典文学A・B、宗教学A・B 法学A・B、アジア史A・B、地理学A・B、社会学A・B、社会思想史A・B 哲学A・B、自然科学概論A・B、生命科学A・B、線型数学A・B、解析数学A・B、化学A・B、言語学A・B、論理学A・B、心理学A・B 日本事情A・B・C・D・E・F	外国文学(西洋)A・B、外国文学(東洋)A・B、芸術(音楽)A・B、芸術(美術)A・B 日本思想史A・B、政治学A・B、人類学A・B 物理学A・B、環境科学A・B	
外国語科目	必修 選択	必修 選択	必修 選択	必修 選択
保健体育科目	必修 選択	必修 選択	必修 選択	必修 選択
基本科目	簿記学A・B、ビジネス・インサイト、商学入門 ミクロ経済学、マクロ経済学、理論経済学A・B、経済史A・B、商業総論A・B、経営学総論A・B、会計学総論A・B、統計学A・B、金融総論A・B、貿易総論A・B、商学研究入門、Essentials of Commerce A・B 特別認定科目(基本科目)	簿記学A・B、ビジネス・インサイト、商学入門 ミクロ経済学、マクロ経済学、理論経済学A・B、経済史A・B、商業総論A・B、経営学総論A・B、会計学総論A・B、統計学A・B、金融総論A・B、貿易総論A・B、商学研究入門、Essentials of Commerce A・B 特別認定科目(基本科目)	簿記学A・B、ビジネス・インサイト、商学入門 ミクロ経済学、マクロ経済学、理論経済学A・B、経済史A・B、商業総論A・B、経営学総論A・B、会計学総論A・B、統計学A・B、金融総論A・B、貿易総論A・B、商学研究入門、Essentials of Commerce A・B 特別認定科目(基本科目)	簿記学A・B、ビジネス・インサイト、商学入門 ミクロ経済学、マクロ経済学、理論経済学A・B、経済史A・B、商業総論A・B、経営学総論A・B、会計学総論A・B、統計学A・B、金融総論A・B、貿易総論A・B、商学研究入門、Essentials of Commerce A・B 特別認定科目(基本科目)
基幹科目	基幹英語科目	基幹英語科目	基幹英語科目	基幹英語科目
商学専門演習	簿記学A・B、ビジネス・インサイト、商学入門	簿記学A・B、ビジネス・インサイト、商学入門	簿記学A・B、ビジネス・インサイト、商学入門	簿記学A・B、ビジネス・インサイト、商学入門
応用展開科目	会計特殊講義A・B	会計特殊講義A・B	会計特殊講義A・B	会計特殊講義A・B
その他	憲法A・B ICTエシエンタリー、ICTベーシックI・II、ICT統計解析I・II、ICTデータベースI・II、ICTメディア編集I・II、ICTアプリ開発I・II、ICTコンテンツデザインI・II、ICT総合実践I・II	憲法A・B ICTエシエンタリー、ICTベーシックI・II、ICT統計解析I・II、ICTデータベースI・II、ICTメディア編集I・II、ICTアプリ開発I・II、ICTコンテンツデザインI・II、ICT総合実践I・II	憲法A・B ICTエシエンタリー、ICTベーシックI・II、ICT統計解析I・II、ICTデータベースI・II、ICTメディア編集I・II、ICTアプリ開発I・II、ICTコンテンツデザインI・II、ICT総合実践I・II	憲法A・B ICTエシエンタリー、ICTベーシックI・II、ICT統計解析I・II、ICTデータベースI・II、ICTメディア編集I・II、ICTアプリ開発I・II、ICTコンテンツデザインI・II、ICT総合実践I・II

※カリキュラムは、一部変更となる場合があります。

INTERVIEW



ゼミで培った力を活かし、市場価値の高いビジネスパーソンに。

商学科マーケティングコース3年 天野 心雪さん (山梨県立吉田高等学校卒業)

商学専門演習ではマーケティングを選択。企業の方や他大学との合同企画に積極的に取り組むことで、分析力や論理力を身につけることができました。また総合学際演習では韓国について学んでいます。座学を通して韓国の文化や歴史について学び、ゼミの仲間とのディスカッションを通じて知見を深めています。社会に出れば、データを分析して意思決定を行うことや、問題解決に論理的なアプローチを取ることが頻繁に求められるはず。ゼミで培った力をクライアントまたは自社の課題解決や意思決定に活かし、最適解を提案できる市場価値の高いビジネスパーソンになりたいと考えています。

アブライド・エコノミクスコース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.17

経済問題を解決する力を備えた人材を養成

アブライド・エコノミクスとは応用経済学。市場経済の現実を的確に捉え、市場で解決困難な経済諸問題について、経済学、経済史、統計学などの基礎的学習を応用して分析・考察し、国際的視点を含むマクロ的・ミクロ的対応策を考える能力を養います。高齢化や少子化、財政赤字の拡大といった国内問題を抱える一方で、グローバリゼーションの進展による経済危機の発生、環境問題の深刻化といった世界規模の経済問題にも直面しています。このような問題の解決能力を有する人材の育成がこのコースの目的です。



授業レポート

産業組織論A・B

海老名 剛 教授

アップルやアマゾンとは、どのように価格・開発戦略を決めているのでしょうか。近年、なぜ日本で電力自由化を推進したのでしょうか。企業戦略と政府の政策について、経済学的に考える授業です。

目指す将来イメージ

- ・ 国家公務員・地方公務員
- ・ データサイエンティスト
- ・ 官庁エコノミスト、シンクタンク
- ・ 金融業、マスコミ、総合商社などの民間企業
- ・ 大学院進学・研究者

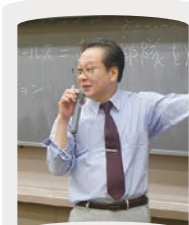
マーケティングコース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.19

「商」=交換・取引・移動の仕組みを究める

マーケティングとは、製品・サービスを売り手から買い手まで効率よく流通させるための経営技術のことです。本コースでは、「なぜ製品・サービスはそうように取引されるのか」という問いに理論的に考察できるような豊富なカリキュラムを用意しています。また、産業の発展や日常生活にヒトやモノの場所的移動は必須です。この現象は交通と呼ばれ、交通サービスの生産と消費を基礎とします。本コースでは、交通サービスを社会経済的な観点から学び、現実の課題を理論的、政策的に考えることも重視しています。



授業レポート

流通史A・B

若林 幸男 教授

アメリカや日本のマーケティング史、それもケースメソッドを使い、臨場感あふれる意思決定シミュレーションを展開しています。将来の無駄の少ない効率的な資源の配分を目指し、皆さんの生活を豊かにする方法を考察してみましょう。

目指す将来イメージ

- ・ 企業のマーケティング企画担当者
- ・ 製造企業の新商品開発スタッフ
- ・ 様々な組織での広告、イベントなどの立案者

ファイナンス&インシュアランスコース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.21

金融と保険の仕組みから世界を知る

経済やビジネスにとって「お金」は「血液」とも言うべきものであり、この変動の時代に、もっとも改革を期待されているのがファイナンス(金融・証券)の分野です。さらに、企業や個人を取り巻くリスクは今後増大かつ複雑化するのには必至であり、リスクを管理するためのインシュアランス(保険)の役割が重要となります。本コースでは、国際ビジネス社会における共通言語としての金融・証券・保険の知識をマスターし、証券アナリストなどの資格取得に役立つように、斬新かつ体系的なカリキュラムを組んでいます。



授業レポート

金融取引論A・B

萩原 統宏 教授

企業の借入金利や株式の価格がどのように決まるのかという、投資家・経営者両方にとって重要な問題について学ぶ良いスタートとなるよう、最近の話題も盛り込みつつ講義をしています。

目指す将来イメージ

- ・ 金融・財務分野に関するコンサルティング業界
- ・ 明治大学をはじめとする全国の金融・財務・保険理論を専攻する大学院
- ・ 銀行・証券・保険などの金融業界
- ・ IT業界・メーカーなど事業会社の財務・経理のスペシャリスト

グローバル・ビジネスコース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.23

世界的な視野を持って経済を考える

いまや企業活動は世界の市場を抜きにしては考えられません。本コースでは、世界と日本との貿易や経済の関係を包括的に研究し、またその中で企業の活動や経営を世界的な視野に立って研究します。理論、ビジネスの両面からのアプローチを設定することにより、世界経済における日本の現状を理解して、将来の見通しを判断する能力を養います。また、異文化コミュニケーションやビジネス交渉などの企業活動も体系的に理解して、グローバル・ビジネスの場で活躍できる人材の養成を目的とします。



授業レポート

国際マーケティング論A・B

鈴木 仁里 専任講師

企業が世界の顧客に製品を届けることで顧客満足を実現するための仕組み創りを学びます。実現に向けていかなる戦略が必要となるのか、このからくりをともに解き明かしましょう。

目指す将来イメージ

- ・ 世界市場で国際ビジネスをリードするビジネスパーソン
- ・ 異文化を深く理解し、様々な国籍の人たちをマネジメントできるグローバル企業の管理職
- ・ 新しい発想やアイデアに基づき着実に経営資源を蓄積・活用できる起業家

マネジメントコース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.25

企業経営・企業活動を理論的・実証的に学ぶ

現代の資本主義社会において企業が果たす役割は非常に大きなものです。著しい国際化、情報化の中で、企業は顧客のニーズに的確に対応し、持続的に高い業績を上げていく必要があります。本コースでは、企業活動のありようについて多方面から学びます。戦略、組織、資源（人、物、金、情報）の調達・管理、そして、自然環境問題とも企業活動は密接な関係を持っています。企業の経営活動について、基礎から実践に至る体系的かつ包括的な知識を提供すると同時に、独自の視点を持った企業人、起業家の育成を目標としています。



授業レポート

経営組織論・経営労務論
佐藤 香織 准教授

組織構造と事業構造はどう関連するのか、また、組織内の意思決定やインセンティブの仕組みを変化させることで人々の行動がどう変わるのかなどについて、理論や事例に沿って解説します。

目指す将来イメージ

- ・世界中の様々な地域・分野の企業において事業の中核を担う経営人
- ・自ら事業を立ち上げ会社を起こす起業家
- ・国や地方の行政に携わり様々な政策を行う各種公務員
- ・大学や研究所、シンクタンクにおける研究者

アカウンティングコース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.27

世界共通の会計スキルを身につける

アカウンティング（Accounting＝会計）は、ビジネス活動のルール。“ビジネス・コミュニケーションの言語”とも言われ、世界の共通語となっています。本コースでは、世界の投資家にビジネスを伝えるアカウンティングを多面的に分析・活用する知識を習得させ、会計プロフェッショナル（会計専門職）、経営者などビジネスリーダー、財務・経理・広報担当者の養成を目指しています。これまでに圧倒的多数の職業会計人（公認会計士、税理士）や企業を支える経理のスペシャリストを輩出してきた伝統と実績を有しています。



授業レポート

会計情報論A・B
名越 洋子 教授

企業の財務資料をもとに、将来の実務をイメージしやすいような講義を行っています。テーマは、複雑なファイナンスや排出権取引、会社の統合や再編です。就職活動での企業研究にも役立っており、何人かは会計士試験に早期合格しています。

目指す将来イメージ

- ・会計プロフェッショナル
- ・コンサルティング会社
- ・マスコミ関係
- ・金融・証券
- ・企業の経理・財務・IR（投資家向け広報）部門

クリエイティブ・ビジネスコース

コース詳細・コース科目

学部ガイド
P.29

時代の変化を先取りするイノベーターの養成

IT革命、グローバル化、少子高齢化、市場経済化など、社会の大きな変動の中で、日本経済はパラダイムの転換を遂げつつあります。まさに産業構造そのものの転換が迫られており、そこには新たなビジネスチャンスがひそんでいます。本コースは、そのような社会変化を見据え、ビジネスの創造を目標に開設されたコースです。最新かつ斬新な科目群を設置し、実践的で現場密着型の少人数教育を実践することによって、イノベーションを構想し実践的に主導できる人材を育成します。



授業レポート

クリエイティブ・マーケティング論A・B
水野 誠 教授

イノベーションに欠かせない顧客の潜在的なニーズやウォンツをいかに理解するか、それに合致する製品やサービスをいかに創り出すか、最新のメディアやチャネルを用いて顧客との関係をいかに構築するかを学びます。

目指す将来イメージ

- ・イノベーションを推進する起業家・プロジェクトリーダー
- ・既存の企業の事業変革を担うマネジャー
- ・地方自治体で企業誘致、企業育成などを支援する専門家

TOPICS

ビジネス・インサイト

大学での学びのモチベーション・原動力になる講座！！

「スマホアプリの新機能・サービスを開発してください」というテーマが企業から出されたら、どのような案を皆さんは考えますか？実はこの講座で過去に出されたテーマです。このように企業から出されたテーマに対し、チームごとに自分たちで解決策を立案し、企業の方々にそれらを提案するのが「ビジネス・インサイト」です。さながら企業の企画会議のようなビジネス体験をし、このような経験を通じて実践的な学習をします。

先生が一方向的に理論を解説し、学生に知識を授けるだけの講座ではありません。テーマの解決のために、自分たちでアンケート調査やヒアリングなどフィールドワークをしたり、図書館に通いデータの収集をしたり、チームで解決策を出し合い、ときには熱い議論を戦わせます。テーマの解決のために必要だと思うことを、自らが能動的に考え、自らが主体的に行動し、自分たちで解決策をアウトプットする講座です。

そして、その解決策に対して様々な質問が企業の方々から投げかけられます。この質疑応答を通じて、自分たちの解決策に何が足りないのかを指摘され、気付くのです。商品を販売したり、サービスを提供したりするには、消費者心理の把握や市場調査の必要性、自社の製品開発力や事業戦略の強み・弱みの分析など、多面的な領域から考察する必要があります。そしてその必要性が「今の自分たちに足りないもの」＝「これから学んでいくべき要素」、つまり、「これから何を学ばよいか？」それを知る転機になり、これから始まる大学生活の学びのモチベーション・原動力になります。これが「ビジネス・インサイト」の狙いです。



最終発表に対する企業の方々からの講評の様子

「個」を強くするゼミナール教育

ゼミナール教育[ダブル・コア]

2年次から2つの系統のゼミを同時に履修することができます

商学部では2年次から、商学の専門科目を学ぶ「商学専門演習」と、深い教養を学ぶ「総合学際演習」からそれぞれ1演習を選択し、2つの演習（ゼミ）を同時履修することができます。2年次から4年次の3年間、異なる性質を持った2つのゼミを同時に受講することで、『知の2つのコア（Double Core）』が形成され、やがて融合し、新しい視点や価値観を生み出すことが期待されます。



専門性を軸に様々な知識を修得。多角的な活躍を目指す。

商学科ファイナンス&インシュアランスコース3年 都築 幸大さん（埼玉県立春日部高等学校卒業）

特徴の一つでもあるダブル・コア制度を活用し、商学専門演習では保険リスクマネジメントを、総合学際演習は西洋美術史を選択。専門演習で保険の基礎・仕組み、データ分析に用いる統計解析ソフトへの理解を深めたことに加え、総合学際演習でのプレゼンテーションを繰り返すことで、伝える力を鍛えられました。私が志望する金融業界はデジタル化が急速に進み、自身の専門分野を横断した広域な知識を身につける重要性が高まっています。明治大学での分野を超えた学びを活かしながら、専門知識と多角的な視点を発揮できる人材になりたいと考えています。

総合学際演習 瀧口ゼミナール
テーマ：西洋美術史

人間に内在する創造力と、芸術が持つ圧倒的な力に触れる
瀧口 美香 准教授



このゼミでは、これまでにまったく見たことがなかったような作品や、有名だけれども意識しなくてよく見たことがなかった作品を、できるだけたくさん取り上げることにしています。そして、作品を前にした時、何をどう見ればよいのかというポイントを学び、作品との対話を深めていきます。自分の感性を存分に働かせて作品と向き合う時、自分の中から予想もしなかったことが引き出されます。また、同じ作品を他の人はいったいどのように見るのかということに耳を傾けることによって、作品の見方はさらに深まっていきます。まさに発見の連続です！

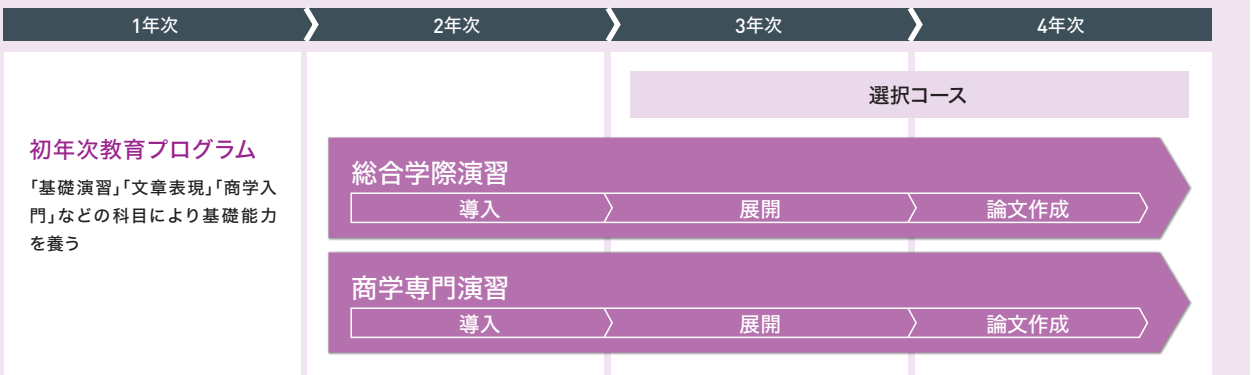
商学専門演習 浅井ゼミナール
テーマ：企業と保険、中小企業金融、金融教育

身近だけど、一見すると難しく感じる保険や金融を楽しく学ぶ
浅井 義裕 教授



ゼミ生の希望によって決めるので、研究テーマは年によって多様です。2023年度は、私がコンサルティング会社と産学協同で作成した中小企業と保険に関するデータに基づいて、保険会社の視点から「どのような要因が中小企業による保険購入と関係しているのか？」などを分析しています。他には、「金融政策と地銀の経営」、「金融知識とふるさと納税」の関係を分析しているゼミ生がいます。また、過去には、「チームの経営状態とサッカーチームの成績」といった、自分の趣味に関することを分析しているゼミ生もいました。

総合学際演習・商学専門演習ともに、3年間の演習教育において、2年次を導入、3年次を展開、そして4年次を論文作成の時期と位置づけています。



初年次教育プログラム

「基礎演習」「文章表現」「商学入門」などの科目により基礎能力を養う

教員紹介・研究テーマ

※2024年4月1日現在
※退職等により変更となる場合があります。

科目	氏名・職名	研究テーマ
日本文化史	清水 克行 教授	室町～戦国時代の社会史の研究
西洋文化史	北田 葉子 教授	イタリア中近世史
日本語表現論	石出 靖雄 教授	日本語表現の研究
日本近代文学	永井 善久 教授	近現代日本文学・文化の研究
日本近代文学	西山 春文 教授	日本近代詩歌研究
日本古典文学	中村 成里 准教授	歴史物語と和歌を中心とする日本古典文学
アジア史	鳥居 高 教授	東南アジア諸国の政治経済分析
地理学	中川 秀一 教授	国土周辺地域存続に関する経済地理学的研究
哲学	清水 真木 教授	西洋哲学史
生命科学	浅賀 宏昭 教授	バイオサイエンスに関する総合的研究
線型数学	鴨井 祐二 准教授	Gorenstein環の自由分解
心理学	佐々木 美加 教授	社会心理学、アート関連コミュニティ
物理学	洞口 拓磨 特任教授	物理学に基づいた分野横断的研究
環境科学	森永 由紀 教授	モンゴルのアイラグ(発酵馬乳)の研究
英語	石黒 太郎 教授	古英語とラテン語の語学的研究
英語	海田 皓介 准教授	英語の歴史・ゲルマン語学
英語	加藤 健太 専任講師	映画研究
英語	小宮 彩加 教授	ヴィクトリア朝英国の社会と文化
英語	今野 史昭 准教授	初期近代イギリス演劇
英語	ジェームズ・アンドリュース教授	現代イギリス文学、カナダ文学、アメリカ文学、短編小説論 ワインの言葉、ワインと観光
英語	高橋 三和子 専任講師	初期近代イングランドの旅行記及び蒐集文化
英語	瀧口 美香 准教授	西洋美術史
英語	趙 泰昊 専任講師	中世英文学と他者の表象
英語	中島 涉 教授	近世イギリスの文学と思想
英語	ルブレクト・ブライアンG.教授	ゴールデンウィークと日本大学生
ドイツ語	シッケハウス、トビアス 准教授	近現代ドイツ文学
ドイツ語	広沢 絵里子 教授	精神分析と自伝、日独・日欧文化接触
ドイツ語	渡辺 徳美 教授	ドイツ戦後文学、ドイツ語圏の芸術史
フランス語	浅間 哲平 専任講師	フランス小説の歴史
フランス語	久松 健一 教授	外国語教育(教材分析を中心として)
フランス語	松原 陽子 教授	フランス文学、フランス演劇、日仏文化
中国語	石井 知章 教授	中国社会主义市场经济体制下の労働問題
中国語	水谷 尚子 准教授	近現代中国史、中国「少数民族」研究
中国語	三田 剛史 教授	20世紀中国経済思想史
韓国語	李 英美 教授	韓日法制史、法の継受関係と影響関係の研究
スペイン語	井関 睦美 教授	中米古代史、物質文化論、災害文化
日本語	黒崎 典子 准教授	日本語教育における口頭表現指導法
体育・スポーツ実習	阿部 巧 准教授	身体活動と健康
体育・スポーツ実習	桑森 真介 教授	幼児と小・中学生の定期的運動と運動能力
体育・スポーツ実習	澤井 和彦 准教授	スポーツマネジメント/スポーツ政策
経済史	井上 達樹 専任講師	近代日本における人的資本と経済発展
商業総論	竹村 正明 教授	お金儲けは、なぜむずかしいか
簿記学	葛 曉鵬 助教	利益計算に係る現代会計基準の変化の意味
統計学	小林 弦弘 教授	応用ベイズ統計学
ビジネス・インサイト	高野 公三子 特任講師	ファッション文化論「定点観測」論と実践
ビジネス・インサイト	中山 千尋 特任講師	キャリア教育・グローバル人材育成・観光
経済政策論	山田 知明 教授	経済格差の動学的一般均衡分析
公共経済学/財政学	畑農 鋭矢 教授	租税・歳入構造の国際比較
中小企業論	熊澤 喜章 教授	イギリス中小企業史の研究
産業組織論	海老名 剛 教授	企業行動と競争政策
国際経済学	高浜 光信 教授	通貨同盟、国際通貨協力に関する経済分析
日本経済論	千田 亮吉 教授	経済モデルによる政策評価
計量経済学	水野 勝之 教授	経済変動モデルの実証分析
商業経営論	菊池 一夫 教授	商業経営論の再構築
マーケティング管理論	加藤 拓巳 専任講師	商品の価値づくりとブランドマネジメント

科目	氏名・職名	研究テーマ
市場調査論	福田 康典 教授	市場における情報の生成と伝播
広告論	竹内 亮介 専任講師	広告と消費者行動
商品学	高橋 昭夫 教授	インターナル・マーケティング
流通史	若林 幸男 教授	マーケティング史
消費者行動論	佐藤 平国 専任講師	消費者行動研究のためのデータ分析
流通システム論	原 頼利 教授	流通における組織間関係に関する研究
競争戦略論	山崎喜代宏 准教授	製造企業の持続的競争優位構築の論理的探究
交通論	藤井 秀登 教授	観光交通に関する歴史的・理論的研究
国際交通論	町田 一兵 教授	環太平洋を中心とする国際交通・物流
都市・地域交通論	恩田 睦 准教授	都市・地域交通論、交通史、鉄道史
金融論	小原 英隆 教授	家計の金融論とFP実務【NO試験対策】
金融論	土屋 陽一 教授	経済学における情報と期待形成
コーポレート・ファイナンス	朝岡 大輔 准教授	企業金融とコーポレートガバナンスの研究
金融機関論	伊藤 隆康 教授	中央銀行と金融市場、イスラム金融
国際金融論	太田 聖 教授	社会学習と行動変容に注目した実証研究
金融取引論	萩原 統宏 教授	経営戦略と企業価値・業績の相互作用
証券市場論	野田 顕彦 教授	金融市場における価格決定メカニズムに関する実証研究
機関投資家論	三和 裕美子 教授	機関投資家とコーポレートガバナンス、ESG投資
保険学	中林 真理子 教授	保険会社の企業倫理と消費者保護
損害保険論	藤井 陽一朗 教授	意思決定分析の基礎と保険論への応用
保険リスクマネジメント論	浅井 義裕 教授	企業と保険、中小企業金融、金融教育
貿易論	所 康弘 教授	国家と貿易(国際貿易秩序を巡る国家間対立)
国際マーケティング論	鈴木 仁里 専任講師	多国籍企業の国際マーケティングと製品開発
貿易商務論	篠原 敬彦 教授	多国籍企業の組織編成の考察
貿易政策論	小林 尚明 教授	新しい世界経済秩序と東アジア地域協力
ビジネス英語	山本 雄一郎 教授	国際ビジネス交渉
バーバル・ビジネス英語	塩澤 恵理 教授	国際ビジネスコミュニケーション論・国際貿易
外国専門書購読	李 雨テイ 助教	グローバル・バリューチェーン
経営戦略論	西 剛広 准教授	コーポレート・ガバナンスとイノベーション
生産管理論	富野 貴弘 教授	ものづくり企業の競争力に関する研究
情報管理論	山下 洋史 教授	経営品質科学に関する研究
経営情報システム論	村田 潔 教授	組織情報論理学
経営組織論/経営労務論	佐藤 香織 准教授	内部労働市場、労働者のメンタルヘルス
労使関係論	久保 隆光 専任講師	働き方の「自己決定」について
経営管理論・企業論	會澤 綾子 専任講師	組織への制度導入、逸脱行為の常態化
経営哲学/経営倫理	出見 世 信之 教授	企業倫理・CSRおよび企業統治に関する国際比較研究
財務会計論	姚 俊 教授	サステナビリティと無形資産のマネジメントと開示
原価計算論	千葉 修身 教授	会計言語機能論に基づく現代会計制度の分析
意思決定会計論	前田 陽 教授	日本企業における経営と管理会計
業績管理会計論	小田 康治 専任講師	戦略管理会計に関する実践的・文献学的研究
監査論	加藤 達彦 教授	企業や公的組織に対する監査に関する研究
経営分析論	王 志 教授	企業の財務業績を向上させるための管理会計
税務会計論	神田 良介 准教授	税務会計学の研究対象と研究方法について
国際会計論	山本 昌弘 教授	大企業・中小企業のM&Aに関する理論的・実証的・制度的研究
会計情報論	名越 洋子 教授	会計基準の設定過程と事例研究
企業評価論	奈良 沙織 教授	企業のディスクロージャーとアナリスト
租税法	松原 有里 教授	税とSDGs
クリエイティブ・マーケティング論	水野 誠 教授	消費者行動における複雑性と創造性
ファッション・ビジネス論	東野香代子 特任講師	海外ラグジュアリーブランドの広報戦略
特別テーマ実践科目	ハディ ハーニ 特任講師	中東、特にパレスチナの民族主義や宗教
地域活性化システム論	松尾隆策 特任准教授	道の駅を拠点とした地域活性化に関する研究



留学制度 商学部主催

学部間交換留学

海外からの留学生の受け入れと、商学部生の海外への留学を積極的に推進しています。現在、商学部独自の協定校は4校あり、いずれも海外の名門校です。在学中に交換留学生として協定校へ留学すると、親身なサポートを受けながら、充実した環境の中で、専門知識や語学力を身につけることができます。異文化での体験および留学で培ったコミュニケーション能力は、将来国際舞台で活躍する際にきつと役立つことでしょう。

<協定校>



**カーディフ大学
カーディフビジネススクール(イギリス)**
英語論文作成法の授業などに参加しながら、国際ビジネス論やマーケティングについての講義、演習などに出席し、正規の学生とともに勉学に励みます。Business Studies and Japanese という学位プログラムがあり、懸命に日本語を学ぶ学生が多く在籍しています。



ブレーメン経済工科大学(ドイツ)
経済に関するカリキュラムが充実しています。留学生向けのドイツ語授業によってドイツ語能力を高めながら、ドイツ語や英語による専門科目の講義やゼミで勉強することができます。また、日本語を重点的に学ぶドイツ人学生との交流も活発になされています。



レンヌ商科大学(フランス)
学生の5割は世界70カ国から集う留学生、教員も8割は外国から来ています。1年生は全体の講義の6割、2年生は8割、3年生はすべて“英語”で授業が行われます。留学生の支援体制が整っており、フランス語、フランス文化の講座もあります。



パリ商業高等大学(ISCパリ)(フランス)
授業はフランス語コース、英語コースなどがあり、グループ学習、グループ・プレゼンテーション教育に力を入れています。ジュニア企業(学生によって運営される非営利団体)も多く、カリキュラムには、留学やインターンシップも含まれています。

短期留学プログラム ※プログラムは変更になる場合があります。

夏季休暇や春季休暇を利用した、商学部独自の短期留学プログラムがあります。語学だけにとどまらず、ビジネススキルやファッションマーケティングを学べるなど、バリエーションも豊富です。内容の濃い異文化体験にぜひ参加してみてください。

<プログラム>



ミュンヘン大学付属語学学校ドイツ語夏期集中講座
明治大学商学部とミュンヘン大学付属語学学校(Deutschkurse bei der Universität München)との協力合意のもと、例年8月に開催されるミュンヘンでのドイツ語夏期集中講座に、商学部生を派遣するプログラムです。ドイツ語力をアップさせることはもとより、さまざまな国・地域からの学生と交流して国際経験を積みむ機会になります。



The World of Australian Wine
オーストラリアにあるカーティン大学で、ワインの製造と販売を切り口にしてビジネスを学ぶことができるプログラムです。研修中は英語でワインの製造のマーケティング、他国他企業に競り勝つためのブランディングの手法などを学び、ワイナリーやホテルサービスなども見学・体験します。



フレンチファッション・プログラム
ラグジュアリー分野に特化した内容で、ブランド・マネジメントやファッションビジネスに必要なとなる理論、実務に関する講義のほか、パリのブランド本店や工房、文化展の見学が行われます。

OB・OG MESSAGE

自分のやりたいことを信じ、未来を切り拓く。



**日産自動車株式会社
日本営業本部バリューチェーン推進部**

大川 萌奈さん
商学科2022年卒業
(東京都立小石川中等教育学校卒業)

日産自動車には、グローバルに挑戦でき、1年目からマーケティングに携われる環境があることを知り、興味を持ちました。100年に一度の変革期を迎えていると言われる自動車業界で、従来にない新しい事業を推進できる可能性に惹かれたのも、入社を決めた理由のひとつです。現在取り組んでいるのは、中古車領域でのデジタル化推進やキャンペーンの提案、店舗の改装など。お客様に最も近い立場から、消費者にとっての「良い製品」を提供できるよう試行錯誤しています。ホームマーケットである日本でマーケティングの経験を積み、将来的には、グローバルな観点から会社のブランディングにかかわっていきたいです。振り返れば、大学時代に選択した経験の一つひとつが今につながっていると感じます。アメリカの大学に留学したことや、当時所属していたコースとは異なるマーケティングのゼミを選択したことなど、マジョリティとは異なる選択をしてきました。皆さんも、周りと異なることを恐れず、自分の気持ちに素直に行動してみてください。

実学と教養を身につけ、広い世界に羽ばたく

政治経済学部

School of Political Science and Economics

■ 政治学科 ■ 経済学科 ■ 地域行政学科

明治大学政治経済学部の強み

教養豊かな専門人を育成するカリキュラム

1 少人数の演習形式を中心としたカリキュラム ゼミ指導型コース制

3・4年次の選択科目を4コース計12の科目パッケージに分類。
所属ゼミナールでの研究に合ったコース・パッケージを選択する「ゼミ指導型コース制」で体系的に学びます。

2 一般的知識と広い教養を修得 多彩なリベラルアーツ科目

現代の諸問題にアプローチする「基礎体力」を養うため、人文科学・社会科学・自然科学・総合の
各科目群による基礎科目など多彩なリベラルアーツ科目を設置しています。

3 各分野の最先端にいる人々から学ぶ 応用科目としての「総合講座科目」

オムニバス形式で分野横断型の学びを展開する総合講座を設置。
3・4年次では、現代の多様な課題について、学外からその分野の最前線を知る講師を招いて講義を行います。

4 世界で通用する力を身につける グローバルキャリア形成(GCD)プログラム

実践的語学力・コミュニケーション能力に加え、国際社会に関する基礎的知識を習得。
柔軟な思考力・洞察力および優れた問題解決力を持ち、世界を舞台に最前線で活躍できる人材を育成します。

5 明治大学のグローバル人材育成を牽引！ グローバル教育・留学プログラム

海外大学と連携し、明治大学と留学先大学両方の学士号を取得できる留学プログラムを実施。
学生のニーズに応える学内プログラムや短期・中長期留学制度も充実しています。

広い視野と人間力を養い 「前へ」と道を拓ける人へ 成長してほしい。

政治経済学部は、専門性を高めながらも学科の垣根を越えた
リベラルアーツ教育、世界を舞台に活躍する人材を育成するグ
ローバルキャリア形成(GCD)プログラムなど、多彩な学びが
魅力です。学生の皆さんが、これらの学びを通じ、多角的な視
点や人間力を身につけ、何事にも果敢に挑戦できる人となる
よう、心から応援しています。

藤永 修一 学部長

1985年明治大学政治経済学部卒業。1992年明治大学大学院政治経済学研究科博士後
期課程単位取得退学。専門分野は国際経済、経済政策。主な研究テーマは「グローバリゼ
ーション」。主な業績に「米中争覇とアジア太平洋」(共著・有信堂)「グローバリゼーション再
考」(明治大学「政経論叢」)がある。

幅広い学びを通じて基礎力を高め、 地域に足を運んで実践することで、 国際社会をリードする人材に。

高校時代にアメリカ留学を経験し、改めて日本を学ぶ必要性を感
じました。そのなかでも地域が抱える問題に着目し、地域行政学科
を選択。多岐にわたる授業で、自分の興味はどこにあるのかを探索
しながら学べることは本学科の魅力です。ゼミのテーマは地域産業に
ついて。実際にその地域に出向き、様々な発見を得ることができま
した。チーム単位での活動のため、役割分担や意見の取りまとめな
どの「調整力」が身についたと実感しています。卒業後はパイロット
を目指しており、日本と世界をつなぐ架け橋になることが目標です。

地域行政学科4年 志内 高虎さん
(東京都立国際高等学校卒業)

▶ Meiji NOWでは「前へ!」踏み出す政治経済学部生を特集しています

さらに詳しい情報は
Step into Meiji Universityまたは
学部ガイドをご覧ください



カリキュラム

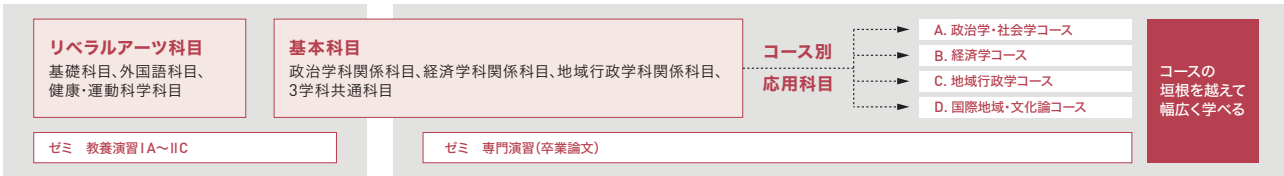
国際社会をリードする人材になるための「基礎体力」と「実践力」を育む

情報化や国際化が進む現代の多様な問題を解決する能力を備え、国際社会をリードできる人材を育成するカリキュラムを設置しています。1・2年次に幅広い知識と教養を身につけるリベラルアーツ科目を履修し「基礎体力」をつけます。さらに、3学科の基本科目、コース別応用科目、ゼミナールによって専門分野の学修を段階的かつ体系的に進めていきます。少人数制のゼミナールでは活発な研究発表やディベートを通じて「実践力」を磨きます。

■ 学びとコース選択の流れ

1・2年次

3・4年次



※新入生には、4月に教員が「アカデミック・アドバイザー」となり、履修相談に応じます。

■ カリキュラム体系図

★＝半期集中科目 ☆＝通年科目 ※新カリキュラム検討により変更となる場合があります。

基礎科目	人文科学科目群	哲学概論、哲学史、基礎論理学、応用論理学概論、歴史学★、国語表現★、日本文学★、外国文学、言語と文化、留学認定科目（基礎科目・人文）
	社会科学科目群	法学★、地理学★、文化人類学A、文化人類学B、現代心理学、心理学概論、文化論概論★、異文化理解とコミュニケーション、異文化摩擦とコミュニケーション、国際地域研究基礎論、ジェンダー論Ⅰ、ジェンダー論Ⅱ、留学認定科目（基礎科目・社会）
	自然科学科目群	基礎数学、数学概論、線形代数学Ⅰ、線形代数学Ⅱ、線形代数学Ⅲ、線形代数学Ⅳ、解析学Ⅰ、解析学Ⅱ、科学史A、科学史B、技術史A、技術史B、物理学概論A、物理学概論B、環境科学概論A、環境科学概論B、生命科学概論A、生命科学概論B、留学認定科目（基礎科目・自然）
	総合科目群	教養演習ⅠA、教養演習ⅠB、教養演習ⅡA、教養演習ⅡB、教養演習ⅡC☆、教養演習ⅡC☆、日本事情A、日本事情B、日本事情C、ICTベーシックⅠ、ICTベーシックⅡ、ICTエレメンタリー、共通総合講座Ⅰ、共通総合講座Ⅱ、国際文化特殊講義A、国際文化特殊講義B、Top School Seminar (International Cultures) A、Top School Seminar (International Cultures) B、留学認定科目（基礎科目・総合）
外国語科目	英語	英語Ⅰ～Ⅳ、ACE Content-based Study、ACE General Communication Skills、ACE Exam Skills、ACE Multimedia Independent Study、ACE Presentation Skills、ACE Academic Training
	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ～Ⅳ
	フランス語	フランス語Ⅰ～Ⅳ
	中国語	中国語Ⅰ～Ⅳ
	スペイン語	スペイン語Ⅰ～Ⅳ
健康・運動科学科目	運動学演習Ⅰ～Ⅰ、運動学演習Ⅱ～Ⅱ、運動学演習Ⅲ～Ⅲ、運動学演習Ⅳ～Ⅳ	運動学演習Ⅰ～Ⅰ、運動学演習Ⅱ～Ⅱ、運動学演習Ⅲ～Ⅲ、運動学演習Ⅳ～Ⅳ、健康・運動科学Ⅰ、健康・運動科学Ⅱ、健康・運動科学Ⅲ
	3学科共通基本科目	キャリアデザイン総合講座、海外留学演習Ⅰ、海外留学演習Ⅱ、政治学特殊講義、社会学特殊講義、マスコミュニケーション特殊講義、経済学特殊講義、経済政策特殊講義、地域行政特殊講義、海外留学演習Ⅲ、海外留学演習Ⅳ、留学準備講座、留学基礎講座、就業力育成総合講座、留学認定科目（基本科目・3学科共通）
学科関係科目		
応用科目	3学科共通関係科目	日本・アジア文化論A～D、日本・アジア地域論A～D、ヨーロッパ文化論A～E、ヨーロッパ地域論A～E、アメリカ文化論A～D、アメリカ地域論A～D、連環地域文化論A～D、身体文化論、スポーツ文化論、表象文化論、留学認定科目（応用科目・3学科共通）
	専門演習科目	専門演習（卒業論文）
	原典研究科目	専門演習（卒業論文）履修者 専門演習（外国書研究・原典研究）Ⅰ、専門演習（外国書研究・原典研究）Ⅱ いずれも専門演習担当教員が指定した授業を履修すること 専門演習（卒業論文）を履修しない者 原典講読Ⅰ、原典講読Ⅱ 原典講読Ⅲ、原典講読Ⅳ
	総合講座科目	応用総合講座A～J
	特殊講義科目	政治学特殊講義C～F、社会学特殊講義C～F、マスコミュニケーション特殊講義C～F、経済学特殊講義C～F、経済政策特殊講義C～F、地域行政特殊講義C～F、国際文化特殊講義C～F、Top School Seminar (International Cultures) C～F、留学認定科目（応用科目・特殊講義）
情報科目		
資格課程科目		
グローバル人材を育成する全学部共通科目		
ICT統計解析、ICTデータベース、ICTメディア編集、ICTアプリ開発、ICTコンテンツデザイン、ICT総合実践		
日本史概論、東洋史概論、西洋史概論、地誌学概論、人文地理学概論、自然地理学概論、法律学概論、倫理学概論		
グローバル人材育成プログラム科目		

「個」を強くするゼミナール教育

「ゼミ指導型コース制」を採用。

特長や個々の関心に合わせて科目を選択。

1・2年次には、文化・社会・言語などをテーマに基礎的な教養を身につける「教養演習」を設置。3・4年次には、約80の多彩な「専門演習」を設けています。2年次秋にゼミナール入室試験を行い、2年間一貫したテーマで研究を行って卒業論文をまとめます。3・4年次は、ゼミと並行して専門的な学問として応用科目を履修しますが、2つの学修をリンクさせるのが「ゼミ指導型コース制」です。応用科目を系統別に分類した4コース計12の科目パッケージをガイドラインとして、ゼミの特長、個々の関心、研究テーマに合わせて体系的な学びを進めていきます。

情報過多の現代社会、正しく吟味し、正しく伝えることが基本。

3年次に外書研究とプロゼミというふたつのテーマを選択し、さらに政経セミナーでの執筆やゼミナール発表会にも参加。すべてに情報収集・処理能力を身につけることが求められ、多くの情報から必要なものを取捨選択すること、内容をわかりやすく簡潔に要約し正しく伝えることを学びました。特に初めて経験した論文の執筆では、論の立て方や参考文献の集め方など、毎週の活動を重ねることにその能力は磨かれたと感じます。多様な価値観を尊重し、心の余裕を持ち続けながら、自分の主張・考えを「正しく」伝える技術を、今後多くの人々と接していくうえで生かしていきたいです。

政治学科4年 小沼 佳南子さん
(栃木県立足利女子高等学校(現 足利高等学校)卒業)



政治学科

学科詳細・学科科目

学部ガイド
P.17

自分を取り巻く世界と政治とのつながりを見出す力を

政治学は、グローバルな問題から身の周りの出来事まで、様々な事象とかかわりの深い学問です。そのため、本学科では地域経済、国際経済、社会学、政治史、政治思想、英語での専門学習など幅広い学びを提供し、広い視野で政治をとらえる力を養います。学科を問わず所属できるゼミが多く、経済や地域行政の知識を持った学生

と一緒に学ぶ機会があるのも特長です。専門的かつ多様な領域をカバーする教員・科目、ゼミ活動、仲間との交流を通じて興味・関心の幅が広がれば、あらゆる事象と政治との結びつきに気づけるようになるはずです。政治を、より身近なものとしてとらえられるようになるでしょう。

目指す将来イメージ

- 国家・地方公務員
- 有名大企業および優良中小企業
- ジャーナリスト(新聞・放送)
- 教員
- 国際機関職員
- 国会議員・地方議会議員
- ベンチャー起業家
- 大学院進学

経済学科

学科詳細・学科科目

学部ガイド
P.19

時代の要請に沿った「最適な選択肢」を選び取る力を養う

限りある資源を有効活用し、その成果をどう分配するのか。複数の「選択」を経て、豊かな暮らしを実現する最適解を見出すのが経済学です。時代のニーズは刻々と変化しており、経済学を扱う私たちが最適な選択をするには多角的な視点を養わなければなりません。そのため、本学科では基礎となるミクロ経済学とマクロ経済学、経

済の成り立ちを学ぶ経済史、経済を定量的に理解するための統計的手法、経済政策など様々な角度から経済学を学びます。また、国際化の進む現代では的確な自己主張や自己表現ができる人材が求められます。そうした人材となるために、本学科で得た多面的思考と、最適な選択肢を選ぶ力が役に立つはずです。

目指す将来イメージ

- 国家・地方公務員
- 有名大企業および優良中小企業
- 公認会計士・税理士
- ジャーナリスト(新聞・放送)
- エコノミスト・証券アナリスト
- 教員
- 国際機関職員
- 国会議員・地方議会議員
- ベンチャー起業家
- 大学院進学

地域行政学科

学科詳細・学科科目

学部ガイド
P.21

人々が豊かに生きられる、あらゆる地域社会のつくり手に

地域とは単に一地方を指すものではありません。生活者にとっての「通勤圏や生活圏」、企業にとっての「生産拠点や市場」など幾通りもの捉え方があります。また、国内外問わず存在するものであり、国家、自治体、企業、住民など様々な集団を内包しています。従って、抱える問題も地域によって千差万別であり、その解決には複数学

問の知見、グローバル・ローカル双方の視点など、多くの素養が必要になります。本学科では、数々の学問領域の講義や演習に加え、地域・行政を専門とする外部講師の講座や学科独自のインターンシップ制度、語学学習や実地調査など幅広い学びを展開。多様で複雑な地域の課題解決に必要な力を身につけられます。

目指す将来イメージ

- 国家・地方公務員
- 国会議員・地方議会議員
- 有名大企業および優良中小企業
- コンサルタント・シンクタンク
- NPO、まちづくり会社、地域商社
- 教員
- 国際機関職員
- ベンチャー起業家
- 大学院進学

教員紹介・研究テーマ

※2024年4月1日現在
※退職等により変更となる場合があります。

政治系		
氏名・職名	研究テーマ	
石川 雅信 教授	少子高齢社会における家族と社会構造の分析	
井田 正道 教授	現代日本における世論および選挙に関する実証的研究	
伊藤 剛 教授	国際政治理論、アメリカ外交、アジア太平洋地域国際関係	
牛山 久仁彦 教授	地方分権改革に伴う自治体行政改革の課題と展望	
重田 国江 教授	ミシェル・フーコー研究、社会連帯の思想と歴史、社会契約論	
加藤 彰彦 教授	家族・人口・社会構造の国際的ならびに歴史の比較研究	
川嶋 周一 教授	独仏関係史、欧州統合史、EU研究	
木寺 元 教授	現代日本政治分析	
小西 徳應 教授	足尾鉱毒事件、日米英における政治倫理の歴史と現状	
鎌 家新 教授	社会福祉政策および社会変動に関する日中比較研究	
竹下 俊郎 教授	情報メディアの社会的影響、政治コミュニケーション論	
外池 力 教授	デモクラシー論、人権論、民主化論	
西川 伸一 教授	日本の裁判所行政を人事の観点から研究する	
西村 弥 教授	民営化と「行政の守備範囲」の変動に関する研究、危機管理行政	
野澤 千絵 教授	人口減少社会における都市政策・まちづくり	
堀金 由美 教授	開発(経済発展)と政治の関わりを国際比較を通して考えること	
水野 剛也 教授	アメリカ・ジャーナリズム史、日系アメリカ人史、漫画と政治家	
水戸部 由枝 教授	ドイツ近現代史(セクシュアリティと政治の関係性)	
山内 健治 教授	東アジアの家族・親族論、日本の地域性研究、コミュニティ論、移民研究	
荒木 淳子 准教授	主体的なキャリア形成のあり方とそれを支える組織・社会に関する研究	
高山 裕二 准教授	政治理論史、米仏デモクラシーの比較思想研究	
相原 耕作 専任講師	日本政治思想史、江戸時代の言語研究と政治思想の関係	
碓 陽子 専任講師	医療人類学・ジェンダー/セクシュアリティ研究	
加藤 言人 専任講師	民主主義下の世論形成・代表メカニズムに関する数理・実証的検討	
樋口 収 専任講師	社会的判断におけるバイアス	
ベナリオ・ベルクシアントニオ 専任講師	先進民主主義国における政治行動の比較	

経済系		
氏名・職名	研究テーマ	
浅井 澄子 教授	情報産業の経済分析および競争政策	
飯田 泰之 教授	地域経済論・産業経済論とマクロ経済学の融合	
大高 研道 教授	非営利・協同組織の研究、社会的排除問題と社会的企業	
大森 正之 教授	環境経済理論の形成と発展、環境政策論	
奥山 雅之 教授	地域産業のグローバル化(グローバルビジネス)に関する研究	
小野島 真 教授	国際課税および北欧諸国における行政改革	
勝 悦子 教授	通貨制度と金融政策、国際資金フローと金融規制	
加藤 久和 教授	公共経済・マクロ経済等の実証分析、人口減少時代の財政社会保障	
小早川 周司 教授	デジタル通貨と貨幣の将来像、デジタル社会における金融インフラ	
小林 和司 教授	計量経済学における分析方法	
末永 啓一郎 教授	開発経済学、経済発展論、キャッチアップ、イノベーション、経済発展	
須藤 功 教授	アメリカの通貨・金融史および国際経済史に関する研究	
高橋 信勝 教授	古典派経済学・家事経済学形成史論	
武田 巧 教授	制度と制度変化の経済学	
永原 裕一 教授	時系列解析の研究および金融・証券市場の実証研究	
原 ひろみ 教授	日本の労働市場の機能、労働政策の政策評価	
平口 良司 教授	経済成長論	
廣松 悟 教授	ポリティカルエコノミーと空間形成、フロンティア空間の政治経済学	
藤永 修一 教授	国家の役割と市場の役割、グローバルゼーション	
星野 泉 教授	少子高齢社会の税財政を国際比較の観点から明らかにする	
森下 正 教授	ベンチャー・中小企業の経営実態、経営者行動の実証的研究	
八木 尚志 教授	産業構造変化、所得分配、マクロ経済分析に関する研究	
赤津 正彦 准教授	経済と環境との関係を中心とした近代イギリス経済史研究	
奥山 誠 准教授	世界恐慌期の経済政策思想	
鎌田 健司 准教授	地域人口分析、地域出生力分析、人口移動と結婚・出生行動の分析	
倉地 真太郎 准教授	北欧諸国における反福祉国家的潮流の形成と変容	
関根 篤史 准教授	マクロ金融の時系列分析	
日向 祥子 准教授	企業・組織による課題の発見、対応と経済社会の変化	
藤本 稔彦 准教授	「農と食の地域自給圏」構築のための食料経済学研究	

経済系		
氏名・職名	研究テーマ	
盛本 圭一 准教授	法人税のマクロ経済分析、大災害と資産価格・経済政策	
井上 朋紀 専任講師	一般均衡理論、協力ゲーム理論	
藤藤 雅己 専任講師	グローバル経済の分析と経済政策	
柴田 有祐 専任講師	産業政策、貿易と経済成長	
下斗米 秀之 専任講師	アメリカ経済史における移民問題	
杉本 隆司 専任講師	実証主義・産業主義の社会思想、物象化・物神崇拜論	
高橋 聡 専任講師	資本主義経済のグローバル化	
中島 満大 専任講師	歴史からみた人口と家族の持続と変容	
宮崎 イキサン 専任講師	国際貿易金融、国際貿易の決済・資金調達や決済リスクの実証分析	

教養文化系		
氏名・職名	研究テーマ	
池田 功 教授	心の病の文化的研究、社会病理研究、石川啄木研究	
石山 徳子 教授	政治・人文地理学、地域研究(アメリカ合衆国)	
植田 麦 教授	古代日本の神話テキストを中心とした文学的・語学的研究	
海野 素央 教授	24年米大統領選挙	
春日井 淳夫 教授	生活習慣病の予防と運動、スポーツ選手の体力に関する研究	
後藤 光将 教授	スポーツ史、スポーツ人類学、オリンピック教育	
佐原 徹哉 教授	ジェノサイドの比較研究、東欧・中東地域研究、紛争研究	
柴崎 文一 教授	応用倫理学および環境思想の研究	
嶋田 直哉 教授	日本近代文学、現代演劇批評、国語科教育法	
高峰 修 教授	スポーツの社会学、スポーツ・ジェンダー研究	
田村 久男 教授	ドイツ語圏文学	
富澤 成實 教授	近代日本の文化・文学、志賀直哉の研究	
虎岩 直子 教授	イギリス諸島の政治と文化	
中村 幸一 教授	印欧語比較言語学・英語史	
羽根 次郎 教授	東アジア近現代史、現代中国論	
廣部 泉 教授	アメリカ合衆国の歴史と文化	
本間 次彦 教授	前近代中国思想、中華ナショナリズムの起源と中国思想史の誕生	
前田 更子 教授	フランス近現代史、比較教育社会史	
丸川 哲史 教授	東アジア思想史・文化論(日本・韓国・中国・台湾・沖縄など)	
山岸 智子 教授	イラン地域研究、イスラームとグローバル化	
飯嶋 曜子 准教授	政治地理学、経済地理学、EU地域政策	
稲葉 肇 准教授	科学史、物理学史	
内田 光史 准教授	現代ラテンアメリカ文学、音楽および美術	
兼子 歩 准教授	アメリカ社会文化史、ジェンダー研究	
仮屋 浩子 准教授	スペイン語圏の文学・演劇史	
佐久間 寛 准教授	経済人類学、アフリカ地域研究、負債論、仏語圏アフリカの文化運動研究	
ジョージ・ジョニー・E. 准教授	社会言語学、人類言語学、日本語話談話	
武田 和久 准教授	ラテンアメリカ史、キリスト教布教史	
ネルソン・リンジー・R. 准教授	日本映画、日本文化	
遠藤 直樹 専任講師	代数学(可換環論)	
武田 睦平 専任講師	運動生理学(分子筋生理学)	
永江 敦 専任講師	イギリス産業革命と思想・文学の関連性、近代イギリス文学	
永川 聡 専任講師	18世紀末のドイツ文学	
森本 陽子 専任講師	Mind, Brain, and Education(神経科学、教育心理学、教育学)の知見と演劇的アプローチを応用した、自律的語学学習法、教授法、プレゼンススキル指導法	
ヨーク・ジェームズ 専任講師	ゲーム学習、教育学	

特任		
氏名・職名	研究テーマ	
アベンシ・ヘム・アイヤン・セファ・ニロス・C. 特任教授	国際政治、南アジア政治、グローバル・ガバナンス	
金子 隆一 特任教授	人口変動(高齢化等)のライフコースの解明	
小西 淳文 特任教授	開発経済学、持続可能な開発・環境との調和	
杉田 弘毅 特任教授	米国政治外交、地政学、中東研究	
津田 太郎 特任講師	現代日本政治史、日米関係史、冷戦期における東アジア	
デヴェ・アロー・ナヴェリア・L. 特任講師	外国語教育、日本語教育、自律学習、教材開発、学習ストラテジー	
パスクッチ・ルアン・K. 特任講師	社会言語学、ゲーム業界の歴史、ゲーム研究	
ブルチャー、ミヒャエル・F. 特任講師	日本近代政治思想と「認識」論、政治概念史と翻訳思想	

TOPICS 政治経済学部だけの「学生サポートプログラム」

学費に含めて納入された実習料を「学部教育振興費」として語学力向上やスキルアップ、キャリア形成支援のための多様なプログラムに活用しています。利用に当たり助成回数等に制限を設けている場合がありますが、制度を利用することで各種検定試験やキャリア教育講座について無料で受講することができます。学部での教育を補完し、学生の「足腰を鍛える」ための制度です。

TOEIC®IPテスト、TOEFL ITP®テストの開催

TOEIC®IPテストおよびTOEFL ITP®テストを年間複数回、学内で主催しており、希望者は無料で受験することができます。(TOEIC®IPテストはオンライン形式も含む)対面形式の試験では、スコアに応じて英語科目の単位認定を申請することができます。

各種検定試験の受験料助成 リバティアカデミー講座等の受講料助成

所定の語学検定などの外部検定試験について、学部が定める条件に基づき受験料の助成を行っています。また、明治大学の生涯学習機関である「リバティアカデミー」の講座や「明大サポート公務員講座」などの受講料の助成を通し、学部の講義にはない分野も幅広く学ぶことができるようサポートしています。

就職支援イベント、 キャリア育成講座等の開催

各学年を対象に、学生の就職活動やキャリア形成をサポートする学部独自のイベントを開催しています。企業担当者(本学卒業生)との懇談会、会社訪問や面接時に役立つ講座、実務家による講演会などを通して、1・2年生のうちから自身のキャリアについて考える機会を持ち、そのための基礎的な力や知識を身につけることができるようバックアップしています。

など



留学制度 充実した学部独自の留学制度

政治経済学部では、長期休暇期間(夏季・春季)を利用した短期留学プログラムや、世界各国の高等教育機関との協定に基づき、1学期間から1学年間の中期・長期留学ができる学部間協定留学プログラムを提供しています。学部間協定留学プログラムでは、南洋理工大学(シンガポール)や北京大学など、世界トップレベルの大学に留学できる可能性があります。また、大学全体では全世界に270校を超える大学と協定を結んでおり(学部間協定校と区別し、「大学間協定校」と呼びます)、全学部の学生を対象として多数の留学プログラムを提供しています。

2022年4月からグローバルキャリア形成(GCD)プログラムを開始しました。

それぞれの専門領域を持ちながら国際通用性を伸ばすことを主眼に置いた学科とは別に設置するプログラムで、2022年度以降の入学者を対象としています。履修状況に応じて一定の要件を満たした学生には、海外留学や海外インターンシップへの参加を後押しする学部独自の支援金を給付します。「明日の世界を変えたい」と志す学生同士が出会い、より切磋琢磨できる環境で世界を舞台に活躍する力をつけるプログラムです。国際社会で活躍する講師による「就業力育成総合講座」や、グローバル社会で通用する実践的な語学力を強化する少人数授業の「英語実践力特別強化(ACE)プログラム」、世界の名だたる大学で指導する先生から専門分野を英語で学ぶ「トップスクールセミナー」など学部の多様な授業の単位を修得し、プログラム修了を目指します。



グローバルキャリア形成(GCD)プログラム



https://www.meiji.ac.jp/seikei/govern_special/gcdprogram.html

OB-OG MESSAGE

国際的な社会課題解決を目指して、挑戦を重ねていく。



株式会社商船三井 自動車船部 アジア・大洋州チーム

小林 花凜さん

経済学科 2022年卒業
(東京都私立豊島岡女子学園高等学校卒業)

人生のターニングポイントになったのは、アメリカへの短期留学。人種差別や教育格差といった社会課題を目の当たりにし、あらゆる事柄に当事者として向き合うよう意識し始めました。在学中は、政治経済学部の長期留学プログラムにも参加。世界各国の学生や教授と出会い議論を重ねる中で新しい知見を得たことはもちろん世界に広がる「未知」なるものを自分の目で確かめ、感じ取り、学びを深める、真のグローバル人になりたいと強く思うようになりました。就職先に選んだのは、株式会社商船三井。海を介した国際的なビジネスに携わることで、国家を超え、社会の豊かさを創造できる仕事に魅力を感じています。現在は、自動車を世界各国に輸送する自動車船部でニュージーランド向けの航路運営を担当しています。業務は主に、顧客対応、船積スペースの確認と採算管理。顧客は、国内自動車メーカーと中古車会社の計20社ほどです。毎月の船積依頼において、顧客のリクエストに最大限応え、採算よく運航できるよう、様々なパターンを予想しながら検討。ゼミでのディベートで鍛えられた、自ら必要な情報を収集・取捨選択して正確に伝える力が、現在の業務に役立っています。これからもグローバルな舞台で、挑戦を恐れずに成長を重ねていきたいです。

「グローバル経営人材」「価値創造人材」を育成する

経営学部

School of Business Administration

■ 経営学科 ■ 会計学科 ■ 公共経営学科

明治大学経営学部の強み

ビジネスリーダーを目指すあなたの「想い」に応える学部

- 学ぶ目的を明確にする 2年次からの3学科制度**
1年次では、年々複雑化・細分化する経営学の全体像を把握し、基礎をしっかりと学び、2年次からは、経営学科、会計学科、公共経営学科の3つの学科に分かれて、専門領域に打ち込んでいける制度です。
- 英語スキルと専門知識の融合を目指す グローバル経営人材育成トラック「GREAT」**
英語スキルと専門知識をミックスさせたカリキュラムで、世界で通用する英語能力と専門知識を同時に養い、「グローバル経営人材」を育成します。
- グローバル社会の扉を開く 経営学部独自の短期・長期留学プログラム**
短期留学プログラムのIBPやISIBM、14大学15学部との学部間協定留学からヴィクトリア大学(カナダ)とのデュアルディグリー・プログラムまで、多様な留学プログラムを用意しています。
- 公認会計士や税理士などを目指す 高度職業会計人養成トラック「CAP」**
公認会計士、税理士、米国公認会計士、国税専門官などの資格試験合格を目指す学生のためのトラックです。会計の専門性を武器に、社会で活躍したい学生であれば誰でも参加できます。
- DX時代に即した教育プログラム デジタル経営人材開発トラック「DIGIT」**
データサイエンス・数理統計・AI等のデジタル技術を利用・活用してビジネスデータ・ソーシャルデータの分析からインサイトを探索し、新たな社会の在り方やプロセス改革・新製品サービス開発・事業創造等のイノベーションを創造できる「デジタル経営人材」を育成します。
- 教室外での体験型実践教育「フィールドスタディ」**
フィールドスタディは、教室外でのフィールドワーク(国内外への現地調査)を通じた資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目です。
- 海外で社会貢献活動を体験「グローバル・サービ斯拉ーニング」**
サービ斯拉ーニングとは、米国の大学で広く取り入れられている実践的教育活動です。単なるボランティア実習ではなく、海外での「社会奉仕」(サービス)活動を通して「貧困」といった社会課題解決のための知識修得を目指します。
- 企業の現場を意識する 1年次からのキャリア教育**
経営総合講義、キャリア形成入門を通じて、1年次から段階的に社会人基礎力を育成しています。

さらに詳しい情報は
Step into Meiji Universityまたは
学部ガイドをご覧ください



「経営」に対して多様な視点から
課題をとらえ、他者と協働し
イノベーションを創造する。

「経営学」は経営者のみならず、チームや組織で働く人すべてに必要な知識基盤です。経営学部では、「経営学科」「会計学科」「公共経営学科」の3学科に分かれます。1年次に経営学部全体で必要な基盤を学んだうえで、2年次から各学科に分かれ、より専門的な学修をします。「グローバル」「会計」「デジタル」をテーマとした学科横断的なトラックもあり、「グローバル経営人材」と「価値創造人材」の育成を目指します。

中西 晶学部長

1983年京都大学文学部哲学科卒業。産業能率大学在職中に2000年東京工業大学社会理工学研究科博士後期課程修了。博士。東京都立科学技術大学工学部・工学研究科助教授、明治大学経営学部専任准教授を経て2007年より専任教授。研究テーマは高信頼性組織。著書に「高信頼性組織の条件」(単著)「マネジメント基礎力」(共著)など。

単に数字を追うだけではない。
CAPに参加することで
会計学の面白さを知った。

企業組織に興味のあった私が入学を決めたのは、1年次に基礎知識を得たうえで2年次から学科を選べる制度に魅力を感じたからです。更に専門的な強みも身につけたいとCAPに参加。会計とは単に数字を追うものではなく、人々の生活に密着したものだという、会計学の面白さに気付きました。会計学を深く学べたことで、次第に公認会計士を志すようになり、大学での学びと受験勉強を両立して在学中に合格。同じ道を目指す仲間が多く、励まし合えたことも財産です。将来は独占業務である監査に携わり、社会に貢献したいです。

会計学科4年 今泉 友希さん
(東京都立西高等学校卒業)

▶ Meiji NOWでは「前へ!」踏み出す経営学部生を特集しています



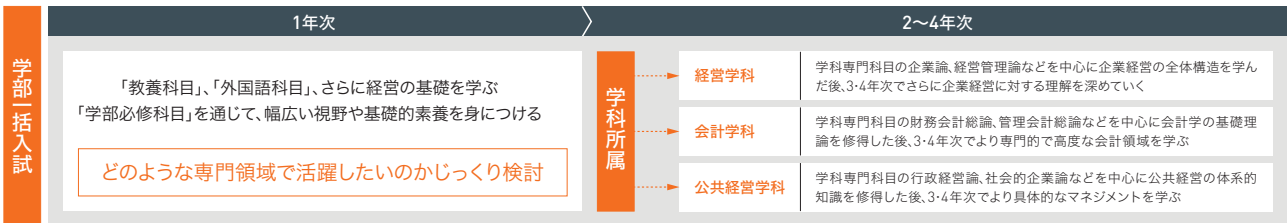
カリキュラム

学部一括入試を経て、2年次から学科に所属 あなたの目的や想いを実現するカリキュラム

1年次は経営の基礎を幅広く学び、2年次から経営学科、会計学科、公共経営学科の3つに分かれて学びます。

経営学科では主として営利企業のマネジメントについて、会計学科では会社の利害関係者に役立つ会計情報について、そして公共経営学科では行政組織や非営利組織のマネジメントやスポーツマネジメントについて学びます。1年次で学んだことを加味して学科を選択することで、自分が興味を持った専門領域を徹底的に学ぶことができます。経営学部では、それぞれの学科が魅力あるカリキュラムを提供しています。

■ 学科所属までの流れ



※2年次からの所属学科は本人の希望を優先しますが、希望者が学科定員を超えた場合には、1年次春学期の成績等を考慮して決定することがあります。

■ カリキュラム体系図

	1年次	2年次	3年次	4年次
学部必修科目 【経営学に必要な基礎を学ぶ】	経営総論 経営学 会計学 公共経営学 近代経済学			
学科専門科目 【各学科の専門を学ぶ】	各学科の科目詳細は学部ガイドを参照してください			
演習科目(ゼミナール) 【少人数で専門分野を学ぶ】	教養演習(1・2年次) 外国語教養演習(J/E)(1・2年次) 基礎専門演習(J/E)	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ
教養科目 【幅広い教養を身につける】	言語思想 社会思想 倫理思想 宗教思想 数学 統計学 生物学 物理学 化学 自然科学思想史 自然人類学 文化人類学 生理学 健康科学 スポーツ・レジャー・レクリエーション論 現代社会とスポーツ トレーニングの科学 レポート・論文作成法 言語表現論 外国文学(英米・独・仏・中) 日本語論 日本文学 西洋史(総論) 西洋史(各論) 法学 地理学 政治学 社会学 心理学 日本事情 経営総合講義(1年次)	哲学基礎論 哲学 日本文学(現代)		
基礎専門科目 【経営関連分野の基礎を学ぶ】	簿記論 経済原論 経済史 経営基礎数学 経営心理学(2年次) マーケティング基礎論(2年次) 情報化社会論 ビジネス法	ビジネス・エコノミクス 経営統計学 経営社会学 産業生理学 経営と環境 経済地理学 企業の社会的責任論(J/E) 戦略経営情報システム論 会社法 手形法・小切手法 財産法 税法 労働法 文化論(英・独・仏・中・東南アジア・東欧・日本) 経営文献研究 ビジネス英語(J/E) Business Presentation(E) ネット・ビジネス論(J/E) コンテンツ・ビジネス論(J/E) アメリカ文化論(J/E)		
外国語科目(必修)	英語 トイツ語 フランス語 中国語 ロシア語 韓国語 日本語 (2カ国語以上を学ぶ)	Fundamentals of Management(E) Transcultural Business Communication(E) Strategic Business Communication(E)		
外国語科目(選択)	TOEFL® Reading / Listening / Speaking / Writing(E) TOEFL® Preparation(E) English Exams(E) Speech and Debate(E) Genres of Writing(E) 英語スペシャルスタディ 英語表現論 英語・ドイツ語・フランス語・中国語コミュニケーション(初級・中級・上級) IBP:International Business Program(語学研修)(E)			
体育実技科目	体育実技	選択体育実技 学外選択体育実技		
実習関連科目	IBP:International Business Program(実習)(E)[短期留学によって学ぶ] グローバル・サービスラーニング[海外での社会奉仕活動によって学ぶ] フィールドスタディ[教室外の調査実習によって学ぶ] DIGIT入門演習 DIGIT実践演習 キャリア形成入門[社会人基礎力を身につける](1・2年次) リサーチ・リテラシー[データの方法を学ぶ]			
ICTリテラシー科目	ICTエレメンタリー ICTベーシック ICT統計解析 ICTデータベース ICTメディア編集 ICTアプリ開発 ICTコンテンツデザイン ICT総合実践			

※(E)は「英語で実施する授業科目」を示します。 ※(J/E)は年度により「日本語または英語で実施する授業科目」を示します。

「個」を強くするゼミナール教育

論理的に考え、
積極的に行動する力を養います。

大学での学びの中心は少人数のゼミナールです。経営学部には1・2年次の「教養演習」「外国語教養演習」「基礎専門演習」と2・3・4年次の「演習」があります。教室では全員で議論を重ね、さらに図書館で文献を調査・収集したり、フィールドワークに飛び出したりと視野を広げます。「演習」では合宿や他大学と交流するゼミもあり、4年次には大学生活の集大成となる卒業論文を書きます。ひとつのテーマについて深く掘り下げて研究する方法や、論理的にまとめて発表する方法を学びながら、専門領域を深めます。

ゼミを通して修得した「生きる力」を、今後の活動に生かしたい。



研究分野は野外教育の理論と実践です。野外教育とは、自然の中で組織的に一定の教育目標を持って行われる自然体験活動のこと。野外での生活スキルやグループワーク、登山やスキーなどのアウトドアスポーツなどについて、理論や体験を通して理解します。組織の中での責任、メンバーとのコミュニケーションの大切さをゼミで学べたことは今後の人生に必ず役立つと痛感しました。また、実習で子どもキャンプに参加したときに見た子どもたちの笑顔は、今でも強く心に残っています。これからはゼミで修得した「生きる力」を生かし、自分らしくキャリアを築いていきたいと考えています。

経営学科3年 本田 颯祐さん
(熊本県立熊本高等学校卒業)

経営学科

学科詳細・学科科目

学部ガイド
P.23

現代企業を多面的に読み解く

不確実性の高い経営環境のなかで、未来を読み解く力を備え、企業の経営の方向性を定めることができる人材を育成します。1年次には、学部必修科目の経営総論、経営学、会計学、公共経営学、近代経済学などにより、経営に不可欠な基礎知識を修得します。2年次には、企業論や経営管理論などの科目により、企業経営の全体構造を学びます。3・4年次には、学生の問題意識や関心に合わせて、国際経営戦略や人的資源管理、情報・技術マネジメントおよび企業者史などの科目により専門性を高め、企業経営に対する理解を深めていきます。



授業レポート
経営組織論
谷口 諒 専任講師

組織は、個人の単なる「集まり」ではありません。人が組織をつくりあげると、そこには見えないチカラが生まれるからです。本講義では、個人、集団、組織、社会の視点に分けて、組織をめぐる見えないチカラを議論していきます。

目指す将来イメージ

- ・ 民間企業の経営企画等スタッフ部門で経営計画、マネジメントに携わる
- ・ 民間企業の事業部門で企画、マーケティング、営業に携わる
- ・ 経営コンサルティング等で企業の経営革新やマネジメントを支援するプロフェッショナルとなる
- ・ スタートアップ、ベンチャー企業を起業し、経営者となる

会計学科

学科詳細・学科科目

学部ガイド
P.25

組織の状況を見透し、トキアカス

会計学科では、あらゆる組織の状況を詳細に把握できる会計の知識とスキルを武器に、多方面で活躍するスペシャリストを育成します。1年次には経営総論や会計学で経済社会における会計の役立ちを知り、2年次には財務会計総論と管理会計総論を中心に会計の二大領域における基礎的な知識とスキルを学びます。3・4年次には学科専門科目で専門分野におけるより高度な会計の知識とスキルを体系的に修得し、組織の状況を見透し、人々に解・説き明かす能力を身につけます。また、1年次から参加可能な高度職業会計人養成トラック「CAP」では、さらなる高みを目指して公認会計士や税理士などの資格取得にチャレンジする学生を全面的に支援します。



授業レポート
原価計算論
長野 史麻 教授

製品やサービスに「いくらお金がかかったか」というコスト情報は、あらゆる組織運営に欠かせません。原価計算論では、組織マネジメントに不可欠なコスト情報の計算方法だけでなく、活用の際方についても学んでいます。

目指す将来イメージ

- ・ 一流企業の経営企画部門や財務・経理部門で働き、経営者の参謀になる
- ・ グローバル企業で財務・経理を取り仕切るCFO(最高財務責任者)になる
- ・ 公認会計士、米国公認会計士、税理士、国税専門官などの高度職業会計人になる
- ・ 会計や財務に明るい国家公務員、地方公務員、NPO職員になる
- ・ 経営の指導・助言を行う経営コンサルタントやシンクタンクの研究員になる

公共経営学科

学科詳細・学科科目

学部ガイド
P.27

公共性・社会性ある人材を育成

公共組織のマネジメントを担う専門人材の育成を目的に、日本初の学科として2002年に誕生しました。現代は国や自治体等の行政体に加えて、営利企業と非営利組織が互いに協働して社会課題の解決と公共サービス供給の役割を果たす時代となりました。公共経営学科ではNPOやNGO、行政体といった非営利組織のマネジメントと営利組織である企業における社会貢献活動についての理解を深めることを通じて、持続可能でかつウェルビーイングな社会の形成を目指します。スポーツ・医療・福祉を含め、これら公共に関係する組織のマーケティング、経営戦略、財務、組織マネジメントについて、地域、企業、大学院との連携による、より広く、より深い探究心を育成する教育プログラムを提供します。



授業レポート
Introduction to Public Management
菊地 端夫 教授

行政を中心とした公的組織の経営の考え方や内外の事例について、担当教員による講義とグループワークによる比較事例分析の双方によって検討を行います。講義はすべて英語で行われ、例年受講生の約半数が留学生です。

目指す将来イメージ

- ・ 社会課題に対応するNPOやNGOで働く
- ・ 国・自治体で公務員として実務に携わる
- ・ 営利企業でCSR(企業の社会的責任)活動を担う
- ・ スポーツ・ビジネスに携わる
- ・ 医療や社会福祉関係企業で働く
- ・ コミュニティ・ビジネスやブティック・ビジネスを立ち上げる
- ・ 教員として次世代の人材を育成する

TOPICS
1 講義だけでなく！
「現場を体感」し、「現場で学ぶ」体験型授業
フィールドスタディ

フィールドスタディは、教室外でのフィールドワーク(現地調査)を通じた資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目です。まず教員と一緒に課題に対する問題意識を深めたうえで、「事前学習」で調査対象について学生自らが調べ、「フィールドワーク」において現地で資料収集を行います。「事後学習」では、それらを分析し、独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成します。調査対象は、ローカルからグローバルまで、企業、自治体、NPO法人、特定地域の住民など、科目により様々です。



テーマ:海外サービス産業調査 担当:古川裕康 准教授
Sky Creation, Inc. 訪問時、ロングビーチ空港(米国ロサンゼルス)にて

※2023年度実施

教員紹介・研究テーマ

※2024年4月1日現在
※退職等により変更となる場合があります。

経営学科

科目	氏名・職名	研究テーマ
比較経営論 (ロシア・東欧)	加藤 志津子 教授	ロシア東欧諸国の企業経営の比較研究
日本経営史	佐々木 聡 教授	日本の経営発展の実証的研究
中小企業論	岡田 浩一 教授	中小企業経営の理論的研究
比較経営論(中国)	郝 燕書 教授	中国と日本の経済・経営の比較研究
企業論	牛丸 元 教授	イノベーションを創出する企業間関係
経営心理学、 ナレッジ・マネジメント論	中西 晶 教授	高信頼性組織とレジリエンス、 安全とセキュリティのマネジメント
経営と環境	松野 裕 教授	環境政策の経済学的研究
経営戦略論	歌代 豊 教授	経営戦略のマネジメント
経済地理学	中澤 高志 教授	労働の地理学、 現代日本の地域構造・都市構造の変容
生理学、トレーニングの 科学、産業生理学	一之瀬 真志 教授	運動生理学
マーケティング・マネジメント	原田 将 教授	ブランド価値経営、グローバル・ブランド管理の 戦略・組織、新興国市場におけるブランド構築
経営社会学	山下 充 教授	人的資源管理の歴史・国際比較、 人事部門の機能と歴史
経営管理論	青木 克生 教授	製造業におけるカイゼン活動の国際比較研究、 企業間関係とイノベーション、組織学習の理論的研究
比較経営論(西欧)	清水 一之 教授	インダストリー4.0(第4次産業革命)
近代経済学、 ビジネス・エコノミックス	三上 真寛 教授	組織・制度の経済学
雇用関係論、 労務関係論	石塚 史樹 教授	特に独企業の人的資源管理・労務関係・企業統 治に関わる実証研究
人事労務管理論	山崎 恵 准教授	企業活動をめぐる社会・経済システム
国際経営論、Fundamentals of Management	鷺見 淳 准教授	グローバル化と企業の国際経営
経営史、 比較経営論(アメリカ)	宮田 憲一 准教授	コングロマリット企業の経営史、 クリエイティブ産業史
グローバル・ マーケティング論	古川 裕康 准教授	国際市場細分化、グローバル・マーケティングの標 準化・適応化研究
財務管理論、現代 コーポレートファイナンス論	鳥居 陽介 准教授	株式所有構造の変遷と主要株主が企業に 与える影響
経営組織論、 組織行動論	谷口 諒 専任講師	イノベーションプロセスにおける「失敗からの学習」、カ テゴリとイノベーション、組織に対する社会からの評価
Transcultural Management (A/B)	永井 裕久 特任教授	次世代グローバルリーダーの育成
イノベーション・マネジメント	新宅 純二郎 特任教授	日本の製造業の開発・生産戦略
経営文献研究、 基礎専門演習	趙 彤基 助教	製造業企業の製品アーキテクチャ戦略

会計学科

科目	氏名・職名	研究テーマ
財務諸表論	大倉 学 教授	制度会計の特質考究
環境会計論	千葉 貴律 教授	社会と会計
財務会計総論、 NPO会計論	石津 寿恵 教授	営利企業、非営利企業における利益概念
監査論	小俣 光文 教授	監査制度の有効性の向上、モニタリング機能を 中心とした企業ガバナンス向上
原価計算論	長野 史麻 教授	マネジメントコントロールとCSR
管理会計総論	大槻 晴海 准教授	原価企画に関する理論的・実証的研究
法人税法、税法	加藤 友佳 准教授	変化する社会に対応する税制
原価管理論A/B	森光 高大 准教授	主観的業績評価を伴うマネジメントコントロー ル、原価および収益性の管理
現代会計基準論	浅野 千鶴 専任講師	会計基準における基礎概念の研究
経営分析論、 国際財務報告論	平屋 伸洋 専任講師	資本コストと利益マネジメントの関係
会計史、 基礎専門演習	森田 広大 専任講師	英米会計史研究

公共経営学科

科目	氏名・職名	研究テーマ
経営統計学、行政評価論、 近代経済学	藤江 昌嗣 教授	移転価格税制、行政組織のパフォーマンス・マネジメント、 地状学、日本のマテリアルハンドリング産業の生成史
ライフスタイル・ マネジメント論	鈴木 正敬 教授	健康科学、運動とNK細胞
西洋史、 公共歴史論	薩摩 秀登 教授	ヨーロッパ中近世史
非営利組織論、 Social Impact Investment	塚本 一郎 教授	社会的企業、企業の社会的責任、 社会的インパクト投資に関する研究
スポーツ・マネジメント論	田中 充洋 教授	ボールゲームのコーチング論
NPO経営戦略論、 ソーシャル・ファイナンス論	小関 隆志 教授	ソーシャル・ファイナンスによる金融包摂
公共表現行為論、 日本文学	畑中 基紀 教授	近代日本文学、表現論
行政経営論、行政経営戦略論、 Introduction to Public Management	菊地 端夫 教授	行政および公共政策の比較研究
哲学、社会思想、 宗教思想	枝村 祥平 教授	17世紀西洋哲学史、比較思想
日本文学、 生活文化論	森田 直美 教授	色彩・染織・服飾を視座とした平安期の文学・ 文化研究、有職故実研究
自然人類学、 地域公共論	阿部 卓 准教授	バリ島、雲南少数民族の人類学的研究
医療マネジメント論、 福祉マネジメント論	早川 佐知子 准教授	アメリカの病院における人事労務管理
スポーツ・レジャー・ レクリエーション論	吉松 梓 准教授	野外教育、多様なニーズのための自然体験活動
Corporate Social Respon- sibility、企業の社会的責任論	高巖 特任教授	企業の社会的責任、AIビジネスと倫理、デジタル プラットフォームの倫理的課題
地域活性化論、 公共経営学外国書講読、 経営文献研究	熊田 知晃 助教	文化行政、商工業振興、イベントのソーシャル・ インパクト

教養教育

科目	氏名・職名	研究テーマ
日本語	戸村 佳代 教授	日本語教育・日本語学
中国語、外国文学(中国)、 中国文化論	福満 正博 教授	中国の戯曲小説
英語、 外国文学(英米)	辻 昌宏 教授	英詩、イタリア詩における音韻構造
英語、 イギリス文化論	宇野 毅 教授	イギリス社会論(イギリスの社会と文化)、 現代イギリス論
英語、 Liberal Arts Seminar in Foreign Languages	山下 佳江 教授	日韓英の比較言語研究、 英語ライティングの技法研究
英語、 Global Issues	キアナン・バトリック J. 教授	言語と異文化コミュニケーション
フランス語、フランス文化論、 外国文学(フランス)	折方 のぞみ 准教授	フランスの文学と思想
ドイツ語、 ドイツ語コミュニケーション	竹内 拓史 准教授	近現代のドイツ語圏文学
Strategic Business Communication、 Transcultural Business Communication	金子 敦子 准教授	マネジメント・コミュニケーション、 グローバル経営人材育成
中国語	野田 寛達 准教授	中国語学(語彙、文法)
英語	真継 左和子 専任講師	言語テストング、 English-medium instruction(EMI)とその評価
ドイツ語	畑 一成 専任講師	ゲーテ色彩論、環境哲学、デジタル主権
数学・経営基礎数学	高澤 陽太郎 専任講師	オペレーションズ・リサーチ
Global Issues, Academic Reading、 Academic Writing, Study Skills	デュプリス、ジョン A. 特任准教授	Learning Sciences, Writing Anxiety and Motivation
International Business Program、 Global Issues	モロー、ロバート J. 特任講師	Academic writing, Autonomous learning、 Global Issues

TOPICS
2

経営学部の3つのトラック
「GREAT」「CAP」「DIGIT」

経営学部には人材育成のための3つのトラックがあります。
グローバル経営人材育成トラック「GREAT (Global Resources English Applied Track)」は、将来
国際ビジネスでの活躍を目指す学生のための4年間のカリキュラムです。特別編成の少人数クラス
で実践的な英語スキルを身につけながら、英語による授業科目で教養や専門知識を学びます。
高度職業会計人養成トラック「CAP(Course of Accounting Profession)」は、公認会計士、税理
士、米国公認会計士などの資格試験の在学中合格を目指す学生のためのカリキュラムです。CAP
専用クラスは1年次から設置されており、より早くより体系的に会計の専門知識とスキルを学ぶこ
とができます。
デジタル経営人材開発トラック「DIGIT(Digital Insights for Growth and Innovation Track)」
は、データサイエンス・数理統計・AI等のデジタル技術を利用・活用してビジネスデータ・ソーシャル
データの分析からインサイトを探索し、新たな社会の在り方やプロセス改革・新製品サービス開
発・事業創造等のイノベーションを創造できる「デジタル経営人材」を育成します。
詳しくは学部HPをご確認ください。

※GREATはTOEIC®や英語4技能資格・検定試験のスコアを参考に選出された約100名が対象になります。
※CAPは、ビジネスに必須となる会計の知識とスキルを身につけたいという学生であれば、簿記検定資格の有無
にかかわらず誰でも参加できます。
※DIGITは、デジタルイノベーションのための「データ分析力」を身につけたい学生であれば、誰でも参加できます
(事前にDIGIT登録必須)。

入学

実践的な英語スキル

GREAT グローバル経営人材育成トラック

英語による専門知識

実践を意識した講義・演習

CAP 高度職業会計人養成トラック

授業以外のフォローアップ教育

DX時代に即した教育プログラム

DIGIT デジタル経営人材開発トラック

初年次からの積み上げ学習

卒業

国内・海外グローバルビジネス
インターナショナルビジネス
グローバル企業家
国際NPO・NGO 国際公務員
米国公認会計士(USCPA)・MBA取得
経営学研究科・海外大学院進学 など

米国公認会計士(USCPA)
公認会計士
税理士、国税専門官
有力企業の
組織内会計士
コンサルタント
中小企業診断士
財務専門官
など

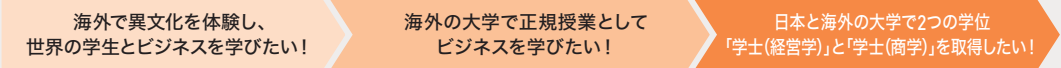
イノベーションを創造できる「デジタル経営人材」
リサーチャー
ブランドマネージャー
アナリスト
コンサルタント
CIO/COO
政策企画職
など

将来



留学制度 経営学部主催

経営学部には、数多くの学部独自の短期・長期留学プログラムがあります。



短期留学プログラム

IBP アメリカで約1カ月

ホームステイをしながら、現地大学に
てビジネス英語を学び、実際に現地
企業の見学ができるプログラムです。

ISIBM カナダで約3週間

協定校のひとつヴィクトリア大学(カ
ナダ)が主催する夏期インターナシ
ョナルビジネスマネジメントプログラ
ムで、世界各国から参加する学生とと
もにビジネスプランを発表します。

学部間協定留学(長期)

14大学15学部の協定校

半年～1年の海外大学での授業
留学先の授業料免除(明治大学の学費のみ納入)



デュアルディグリー・プログラム

5年間で2つの学士を取得

明治大学経営学部で2年半学んだ後、3年次秋学
期からヴィクトリア大学(カナダ)へ留学し、5年
間で両大学の学位を取得することのできるプロ
グラムです。留学中は、授業のみではなく3期分の
有償インターンシップに参加し、現地での実務経
験も積むことができます。



海外留学単位認定制度 留学先で修得した単位は、諸条件を満たせば、経営学部の単位として認定でき、半年または1年留学しても4年間で卒業することが可能です

OB・OG MESSAGE

EC・実店舗にとらわれず、幅広い業務で人の役に立てるように。



株式会社アイスタイル

角田 晴香さん

経営学科2022年卒業
(神奈川県私立洗足学園高等学校卒業)

「私は何に幸せを感じるか?」を考えることから就職活動を始めました。夢をもって頑張っている人を応援することだという答えを導き出し、この「応援」を軸に進路を検討。化粧品を「可愛くなりたい、綺麗になりたい」と願う人を応援するツールと捉えたことが、化粧品業界を志望するきっかけになりました。私が勤めるアイスタイルは「@cosme」を運営する会社。現在はECカンパニーECマーケティング部に所属し、「@cosme SHOPPING」というECサイトの企画運営に携わっています。在学中はマーケティングを専攻し、マーケティングに関する基礎知識はもちろん、過去行われた研究に関する本や論文をたくさん読んだことで、ユーザーの購買行動や小売業の歴史に関する知識が身につきました。「D2C(消費者直接取引)」企業に関する定性研究を行った際には実際に企業を訪問。そこで得た結論は、デジタル社会の現代でも実店舗の価値は失われないということです。弊社の魅力は、EC事業だけでなく、実店舗やメディアといった様々な事業を行っていることだと考えており、私自身もEC業務に限らず、他の事業領域から誰かの「応援」ができる仕事に携わっていきたいと思っています。

人間を理解する力、異文化を理解する力を磨く

文学部

School of Arts and Letters

文学科

- 日本文学専攻
- 英米文学専攻
- ドイツ文学専攻
- フランス文学専攻
- 演劇学専攻
- 文芸メディア専攻

史学地理学科

- 日本史学専攻
- アジア史専攻
- 西洋史学専攻
- 考古学専攻
- 地理学専攻

心理社会学科

- 臨床心理学専攻
- 現代社会学専攻
- 哲学専攻

明治大学文学部の強み

「人間学」を究めることを目指す3学科14専攻

- 幅広い教養を身につけるために他学科、他専攻の科目も選択可能**
文学を多角的にとらえ、十分な専門知識と幅広い教養を身につけるために「専門科目」と「教養科目」によるカリキュラム編成。学科や専攻を越えた科目も受講できます。
- 自らの考えを積極的に発信できる人材に！ 少人数ゼミナール教育**
少人数のゼミナールが、1年次から設置されています。1年次から先生と同じ目線で一緒に勉強し、議論を交わしながら、主体的に調べ、学ぶ姿勢を身につけます。
- 教員や学芸員などの資格取得をサポート、資格課程科目の設置**
本学部では、「教員」「学芸員」「社会教育主事」「司書」「司書教諭」の資格取得が可能です。1年次から資格取得を見据え、サポートするカリキュラムが充実しています。
- 春学期と秋学期で系統的に学ぶ・半期(半年)で完結する授業科目**
授業科目は、半期(半年)で完結するため、同じ曜日の同じ時間帯に、1年間に2つの授業科目を受講できます。興味や関心に基づき、多くの講義が選べます。

さらに詳しい情報は
Step into Meiji Universityまたは
学部ガイドをご覧ください



多様で奥深い知の森で、
自分がいちばん輝く生き方を見つけてほしい。

文学部では、最初から自分が興味を持った専攻で学ぶことにより、学問の基礎をしっかりと固めた上で、高度な専門知識や知の技法を身に付けることができます。もちろん自由に選択できる科目群も豊富で、それぞれの個性や関心に合わせ、自分独自の時間割を作ることができます。優れた指導陣、伝統に磨かれた教育システムを持つ文学部で、自分をMaxに伸ばしていきましょう。

田母神 顯二郎 学部長

1982年早稲田大学第一文学部英文学専攻卒業。明治大学大学院文学研究科仏文学専攻を経てパリ第八大学博士課程修了。文学博士。1999年明治大学文学部講師に就任。2009年より教授。2020年より大学院文学研究科長。研究テーマはフランス近現代詩。主な著書に『Fragments & Wholes』、『ベルギーをくぐる』(以上、共著)など。

自身のアイデンティティと
多文化共生の学びを生かし、
日本と中華圏の架け橋に。

入学時に専攻を選択でき、1年次から基礎ゼミで専門的な内容を学べる点に魅力を感じて入学しました。私自身は中国残留日本人4世です。ゼミで「多文化共生」をテーマに課題解決について議論したり、フィールドワークで大阪や神戸に行き、在日コリアンや日系ブラジル人の方に話を伺うなかで、同じマイノリティの人が抱える課題や悩みを分析・把握できる力が身につきました。将来は日本と中華圏の架け橋となり、双方に利益が出るようなビジネスで、日本社会に貢献するのが目標です。

心理社会学科現代社会学専攻3年 北原 康輝さん
(長野県長野高等学校卒業)

▶ Meiji NOWでは「前へ!」踏み出す文学部生を特集しています

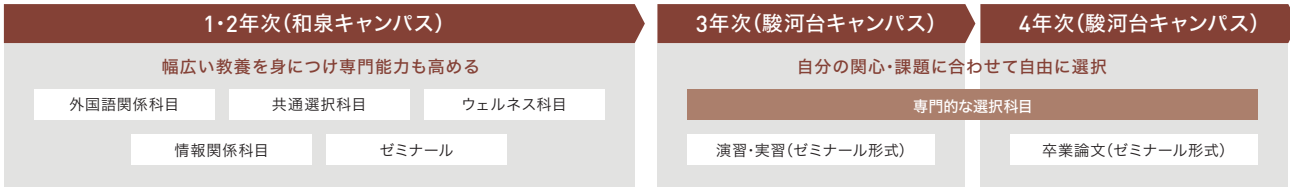


カリキュラム

少人数のゼミナール教育を基本とした、体系的・順次的な教育課程の編成

文学部のカリキュラムの特長は、4年次に執筆する卒業論文に向け、より系統的な学習ができるよう、各専攻でカリキュラムが工夫されている点です。すべての授業科目が半期(半年)で完結するため、春学期と秋学期で異なる授業科目を履修するなど、フレキシブルな学び方を選択することが可能です。自身の興味や関心に基づき、自専攻の科目および共通選択科目以外に、他専攻の科目も含めて幅広く学べます。

■ 学びの流れ



■ カリキュラム体系図

		1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目		科目詳細は学部ガイドを参照してください			
必修	外国語関係科目	英語(Communication Skills, Paragraph Writing, Academic Reading, Academic English 各A・B)、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語(各I～IV/A・B) ※専攻により必修科目は異なります			
	ウェルネス科目	ウェルネスライフ論、ウェルネススポーツA・B			
選択	思想と宗教	哲学概論Ⅰ・Ⅱ、倫理学概論Ⅰ・Ⅱ、論理学概論Ⅰ・Ⅱ、宗教学Ⅰ・Ⅱ、古代・中世の科学思想史、近現代の科学思想史、前近代の東洋思想史、近現代の東洋思想史、古代・中世の西洋思想史、近現代の西洋思想史、世界の宗教、東洋の宗教		キリスト教史、イスラム教史	
				日本思想史Ⅰ・Ⅱ	
	地域と文化	日本美術史Ⅰ・Ⅱ、西洋美術史A・B、音楽史A・B、ロシア文学史A・B、アジア美術史、アジアの地域と思想、民俗学Ⅰ・Ⅱ		日韓比較文学、アジア文化史A・B、書道A・B、ラテンアメリカ文化論、アフリカ文化論	
	社会と環境	経済史、国際交流史、国際関係史、日本国憲法、教育学A・B、人類学入門、Culture and Society、人類学概論、Emerging Humanity、心理学概論、カウンセリング概論、自己発見の心理学、こころの科学、地球環境A・B、生態学A・B、自然科学的ものの考え方、集会的暴力論、全体主義の超越的人間学		社会史、ジェンダー史、文化財科学A・B、環境歴史学、心理学特論、自己成長の心理学、生命の政治社会学	
	知の新領域	法律学概論、政治学概論、経済学概論、社会学概論			
		現代のアーツ・サイエンス、環境科学の世界		新しい経営・組織論、地域開発政策論、文化資源学	
	ランゲージ	上級英文解釈Ⅰ・Ⅱ		Public SpeakingⅠ・Ⅱ、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語レベルアップ(各A・B)	
		上級英語ⅠA・B、漢文A・B、ラテン語入門・初級、古典ギリシア語入門・初級、日本語音声学、日本語史、言語学とその歴史、世界の言語、言語人類学		*上級英語ⅡA・B、Discussion&DebateⅠ・Ⅱ、Essay WritingⅠ・Ⅱ、*ドイツ語・*フランス語・*ロシア語・*スペイン語・*中国語・*朝鮮語で学ぶ文化と社会(各Ⅰ～Ⅱ/A・B)、*アラビア語で学ぶ文化と社会A・B	
	ウェルネスライフ	*ラテン語中級講読A・B、*古典ギリシア語中級、*古典ギリシア語講読			
		学部教養講座 一から学ぶ教養講座			
	総合講座	共通総合講座			
	情報リテラシー	人間と情報		統計学	
	ウェルネスライフ	ICTエッセンシャル、ICTベーシックⅠ・Ⅱ、ICT統計解析Ⅰ・Ⅱ、ICTデータベースⅠ・Ⅱ、ICTメディア編集Ⅰ・Ⅱ、ICTアプリ開発Ⅰ・Ⅱ、ICTコンテンツデザインⅠ・Ⅱ、ICT総合実践Ⅰ・Ⅱ			
		スポーツ文化論Ⅰ・Ⅱ		ウェルネスライフ特論、ヘルスコミュニケーション論	
	留学促進プログラム	生涯スポーツ(和泉)		生涯スポーツ(駿河台)	
	教職に関する科目	生涯スポーツ(夏季集中・冬季集中)			
共通選択科目	キャリア支援科目	留学入門講座、留学準備講座、Social Science Research Methods、Ethnographic Fieldwork、Japanese Society、Japanese Culture、海外現地研修A・B			
	留学関係科目	教育基礎論、教育心理学、教育行政学、学校の制度と経営 ※上記の科目は、文学部の単位として認定される教職科目であり、別途免許を取得するためには教職科目を履修する必要があります。			
	日本語教員養成プログラム科目	キャリア・デザイン			
	その他	ジョブ・トライアル			
		海外短期留学関係科目A・B・C・D			
		日本語教授法Ⅰ・Ⅱ、日本語教育学演習A・B、日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ、日本語教育学概論		日本語教授法Ⅰ・Ⅱ、日本語教育学演習A・B、日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ、日本語教育学概論	
		【各専攻大学院設置科目】		【各専攻大学院設置科目】	
		【学部間共通外国語】、【他学部設置科目】、【グローバル人材育成プログラム】			

*がついている科目は特修外国語関連科目です。詳細はP.91をご参照ください。

「個」を強くするゼミナール教育

1 年次から少人数教育による「演習科目」での学習を行い、自律的学習の集大成としての卒業論文を必修としています。

本学部では、1年次から専攻が決まっているので、「演習」(ゼミナール)も1年次から設置されています。少人数の授業で、1年次から専任の先生と同じ目線で一緒に勉強できるのは大きなメリットです。基礎演習から始まって、2・3年次では、マスターしたことを基盤に作業や研究を深め、最終的には4年次の卒業論文制作につなげることで、4年間が一連のカリキュラムになっています。

固定観念に囚われず、物事を柔軟に多角的に捉える力を養う。

ゼミでは英語圏の様々な国で使われている異なる変種の発音に着目し、地域や社会的階級の違いによって現れる特徴について研究。ゼミ生同士で話し合いながら、英語という一つの言語に対する多様性を見いだす力を養っています。英語に対する多様性への理解と考察を通じて、物事には固定された一つの見方だけではなく、状況に応じて様々な見方・考え方が存在すると知りました。この物事を多角的に捉える力は、社会に出てからも役に立つと考えています。

文学科英米文学専攻3年 河内山 真琴さん
(石川県立金沢錦丘高等学校卒業)



文学科 日本文学専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.13

日本文学・国語学・漢文学から人間の本質を読む

国際化やメディアの多様化が進むほど、自分の国の文化について正確に知ること、とりわけ「自分たちの言葉＝日本語」について深く考察することが重要になってきます。日本文学専攻は、日本語および日本文学について、様々な角度から考え、学びます。1950年の「日本文学専攻講座」開設の理念、「いま私たちが生きている現代を重視

する立場に立ちながら、古典から近現代までを視野に入れた日本文学の研究を行う””世界の文学という広い視野から日本文学の特質を考えてゆく”は、今日に受け継がれています。さらに現在では日本語・日本文学を通して海外の大学や学生との交流が増し、豊かな学びが進んでいます。

授業レポート

日本文学演習(3年)A・B

竹内 栄美子 教授

1920～30年代のモダニズムとプロレタリア文学を読む2年次の演習を踏まえて、3年次の演習では、1940年代前半の戦争を描いた作品を読みます。戦争の様々な局面を描いた小説を読むことで、人間や社会を学び直します。

卒業論文テーマ(例)

- 『古事記』上巻における世界観
- 平家物語の多面性―人物造型と救済の思想―
- 色街と樋口一葉―「にぎりえ」論を中心に―
- 食と心理の方法―『芋粥』と『小僧の神様』の比較―
- 『風の歌を聴け』からみる村上春樹のはじまり
- 漫画にみる差別語―手塚治虫作品を対象として―

文学科 英米文学専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.15

英語の習得を軸に専門分野を深める

英語はコミュニケーションのための共通語です。本専攻のカリキュラムは、時代の要請に応える英語教育と、伝統的な学問体系に基づいた英語教育の調和を考えています。英米文学の歴史、各時代の著名な作品を学ぶクラスが多数設置され、どの授業も英語文化のすばらしさを実感できます。英語を中心として言語そのものの仕組

みを研究する英語学の授業も充実しています。また、「コミュニケーション手段」としての英語を学ぶために、ネイティブスピーカーの授業を含む実践的なクラスが用意されています。

授業レポート

英語学演習(3年)Ⅰ・Ⅱ

新城 真里奈 専任講師

2年次に学ぶ音声学の基礎知識を土台にして、3年次ではイギリスの標準発音、さらに他の英語変種の発音について学びます。また、英語の音声を開き、自分で聴覚分析する練習を行うことで、卒業に必要な技能を習得するとともに英語の多様性を認識します。

卒業論文テーマ(例)

- 雑誌GINGERとMOREのテキスト分析―女性の社会的役割と表象の差異
- ビートニクと若者―ケルアック『オン・ザ・ロード』を中心に―
- 父と子の関係から考えるアイデンティティの獲得
- 一フォークナー『饗きと怒り』からアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』まで―
- A Critical Consideration of Criticisms of Conrad's Heart of Darkness.
- ジーン・リース『サルガッソーの広い海』による『ジェイン・エア』批判:視点、名前、そして帰属意識

文学科 ドイツ文学専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.17

ドイツ語圏文化の波動に共鳴しよう

ドイツ語は、ドイツのみならず、オーストリア、スイスなどヨーロッパ中部・西部で広く話されています。言語と文学、文化のバランスよい学習を、しかも歴史と現在の両面から学びたい人には、本専攻は理想の場といえます。1年次よりドイツ人教員によるドイツ語授業が用意されていて、等身大のドイツ語圏文化に接することができます。

す。なお、本専攻はドイツのバンベルク大学、ビーレフェルト大学、またオーストリアのウィーン大学などと密接な関係にあり、音楽の部ウィーンで同大学の夏期語学講習会に参加し、ヨーロッパの空気を肌で感じながらドイツ語を自分のものにすることもできます。

授業レポート

ドイツ文化演習A・B

渡辺 学 教授

新しい日本語とドイツ語、両言語の慣用表現を比較しながら、人間言語の多様性を再発見し、言語変化のメカニズムを解明していきます。教員の概説のほか、学生の発表と討論で「言語と文化」のかわかりを照らし出します。

卒業論文テーマ(例)

- インゲボルク・バハマンの詩学
- 障がい者就労支援の日独比較
- ハンナ・アーレント<悪の凡庸さ>とは何か
- ドイツの公共住宅の歴史
- W.G.ゼーバルトが1990年代に描く<戦争>

文学科

フランス文学専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.19

フランス文化を多角的に堪能する

フランス人にとって、人生を真の意味で豊かにするものはすべて文化。芸術や文学だけでなく、料理もスポーツも、恋愛も友情も、文化の大切な一部です。フランス語は、そんな文化の国をよく知るためのひとつの架け橋です。

本専攻のカリキュラムは、学生の個性や自主性を重んじ、充実した講座、スタッフが

用意されています。実用的な語学、文学や思想、美術や音楽、演劇、映画などのフランス文化全体、比較文化的な視点からの研究など、様々な学び方が可能です。(考える力)や(表現力)の向上にも力を入れています。



授業レポート

基礎演習(フランス文学)A・B
根本 美作子 教授

入学したばかりの学生と、フランスがいったいどのような文化のどのような国なのかを多角的に考察しながら、問題の立て方、レポートの書き方、発表の仕方などといった基本的技術を身につけていきます。

卒業論文テーマ(例)

- ・ ジャン=ジャック・ルソーの(私的)なものと(公的)なものと
- ・ オノレ・ド・ミエと19世紀のフランス社会
- ・ 『タルチュフ』に見られる演劇とフランス絶対王政の関係
- ・ 21世紀のライシテ～異文化との共生と結合
- ・ ロマネスク美術の美意識
- ・ フランスにおける国語教育の重要性とその実情

文学科

演劇学専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.21

演劇の魅力を歴史的・理論的に学ぶ

西洋でも日本でも、演劇はそれぞれの国の文化伝統の中で歴史的に独自の発展を遂げてきました。劇場だけでなく、上演台本としての戯曲、舞台装置、衣装、俳優の演技などに、興味深い特色が見受けられます。舞台芸術としての演劇の様々なジャンル、ドラマ、オペラ、バレエ、ダンス、ミュージカル、パントマイム、そして映画も含め、

これらの芸術に共通しているのは、「今、ここで」体験する一回限りのパフォーマンスであるという演劇の原理です。本専攻では、それらの多彩な演劇を歴史的、理論的に学んでいきます。



授業レポート

基礎演習(演劇学)A・B
伊藤 真紀 教授

ひとりの劇作家が書いた複数の戯曲を読み比べます。一作品ずつ担当を決めて順番に発表する方式ですが、発表後の討論の中では、ロマンチックな解釈を聞いたり……。毎回新たな「発見」があります。

卒業論文テーマ(例)

- ・ シェイクスピア作品の異性装上演の受容—『お気に召すまま』を中心に
- ・ 石牟礼道子 新作品『不知火』論—『天湖』との連続性に着目して
- ・ ニール・サイモン分析～世界に広く受け入れられる劇作家～
- ・ ミュージカルにおけるメタ的な手法について
- ・ ～Avenue Qに見るミュージカルの変化～
- ・ 地域社会と結びつく文化芸術
- ・ ～地域活性化と文化芸術振興の共存に向けて～

文学科

文芸メディア専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.23

「メディアとしての文芸」を探求する

文字や映像をめぐる現代のメディア環境は、多様で複雑になっています。それは、単にコミュニケーション手段の多様化を意味するものではなく、その中に生きる人間存在そのもの、思考、行動に大きな変容をもたらしています。

どんなメディアでも、その基盤は「文字」にあります。そこに立ちかえり、「文字」の中

を生きるとはどのようなことなのかを根源的に考察することが、実は大きな課題ではないでしょう。

本専攻は、多様なメディア環境の中で自己表現をする力、つまり、主体的に生き抜く「個」を育てていきます。



授業レポート

文芸メディア演習(3・4年)Ⅰ・Ⅱ
佐伯 和香子 専任講師

室町時代から江戸時代前期にかけて制作されたお伽草子(室町物語)を読んでいます。諸本の比較や語釈を行うとともに、学生が自分で設定したテーマに沿って研究発表を行い、全員で討論を重ねる中でテキストの読みを深めていきます。

卒業論文テーマ(例)

- ・ 『雨月物語』論——怪異の分類とその構成
- ・ 「すみだ川」と『濃東奇譚』——交わる二つの物語
- ・ 循環と再生産——村田沙耶香『消滅世界』論
- ・ 鬼の子小綱の死
- ・ 雑誌『婦人公論』にみる「女性像」と「女性たちの声」
- ・ テレビドラマにおける結婚観の描かれ方の変遷

史学地理学科

日本史学専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.25

過去の知から未来のあり方を考察する

本専攻の大きな特長は、古代・中世・近世・近代・現代と、各時代のスペシャリストといえる専任教員が9名揃っている点で、どの時代の、いかなる分野でも自由に研究テーマを設定することができます。重要視しているのは、自分の目で確かめる研究です。史料(原典)を自分の目で確認し、歴史の現場を自分で見て、感じることをもっ

とも大切にしています。現代から過去を見ることは、過去から私たちの生きている現代を考察することでもあります。歴史を勉強することで、未来をつくる創造力を培いましょう。



授業レポート

演習Ⅰ(日本史)A・B
落合 弘樹 教授

春学期は明治維新に関する最新の研究を反映した文献を精読し、討論を通じて理解を発展させます。秋学期は幕末・維新期の一次史料を精読し、行間から情報を読み解く能力を習得し、卒業論文につなげていきます。

卒業論文テーマ(例)

- ・ 古代の陵戸とその卑賤視について
- ・ 山門・室町幕府から見る山門使節制度
- ・ 浅井了意著『鬼利至端破却論伝』の成立事情
- ・ 『江戸町触集成』に見る江戸の食
- ・ 近世幼年者犯罪と身分制度の関わり
- ・ 近代東京における都市住宅事情
- ・ 日本陸軍の第一次世界大戦認識と国防思想

史学地理学科

アジア史専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.27

アジアの諸言語と奥深い文化に出合う

世界経済、外交を動かし、変動し続けているアジア。日本は、そのアジアの一員として、重要な役割を果たすことを期待されています。今後アジア各国との交流はますます深まり、関係は一層緊密となっていくでしょう。そのために重要なのは、なによりお互いの歴史を理解することです。互いを尊重、尊敬しつつ、心の通った交流

ができる互恵の精神が必要です。本専攻は、アジア世界に積極的にコミットし、歴史、文化を理解し、アジア諸国の一員として信頼されるグローバルな人材を育成します。



授業レポート

史料演習(アジア史)A・B
鈴木 開 准教授

近世・近現代の歴史資料に触れながら卒業論文を書くための史料読解や研究の方法を学びます。漢文をはじめとする諸言語で記された史料、地図や写真などの図像資料を読みとくながら歴史的思考力を身につけていきます。

卒業論文テーマ(例)

- ・ 則天武后の宗教政策と宗教観
- ・ 17世紀の広南阮氏の発展—日中との外交貿易を通して—
- ・ 万曆四十四年南京教案と沈潜の天主教認識の一考察
- ・ 旅行記から見る17世紀オスマン朝におけるイエニチェリの拡大
- ・ 新生活運動が中国社会に与えた影響—キリスト教女性を中心として—
- ・ 13世紀アルメニア語年代記から見るマムルーク朝—ヘトウム一世期における対マムルーク朝外交—

史学地理学科

西洋史学専攻

専攻詳細・専攻科目

学部ガイド
P.29

時空を超えた異文化の魅力にふれる

国際社会の情報化、ボーダーレス化は著しく、世界各地のニュースがリアルタイムで伝わってきます。様々な情報の本質をつかむためには、その地域の歴史、文化、言語などを理解することが大切です。本専攻では、古代史・中世史・近世史・近代史・現代史(ギリシア・ベルギー・フランス・ロシア・ドイツ・オーストリア・アメリカ)を専門とする教員が、学生

諸君の勉学をサポートしています。1年次より基本的な歴史研究の方法論を学び、その地域の言語の習得と文献読解を進めて、西洋世界への理解を深めるカリキュラムが組まれています。西洋史の勉強を通して、世界に対する幅広い見識と歴史についての深い教養を身につけ、それをもとに自己を世界の中にイメージする想像力を養います。



授業レポート

演習Ⅰ(西洋史)A・B
青谷 秀紀 教授

私の演習(ゼミ)では、春学期における論文・史料の講読や秋学期の自由報告により、西洋中世史に関する卒業論文執筆するための土台づくりをしております(左の写真は、大学のセミナーハウスにて3・4年生合同で行われた合宿の際のものです)。

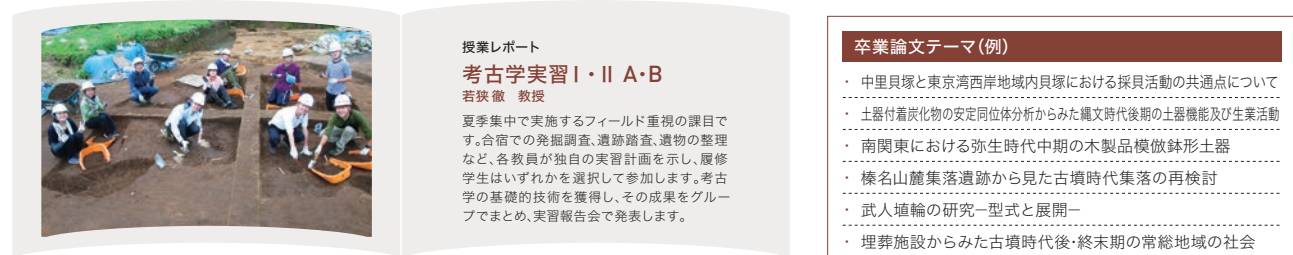
卒業論文テーマ(例)

- ・ ハプスブルク君主国における国民主義の問題
- ・ イタリア・マフィアの社会史
- ・ 古典期アテナイにおけるレイトゥルギアの意義
- ・ バロック期におけるスペインの画家と社会
- ・ ロシアにおける農奴制廃止と農民の生活の変化
- ・ 1920年代から41年までの日米外交

考古資料にふれ、調べ、学び、読み解く

本専攻は1950年に創設された、私立大学では最古の考古学専攻です。以来、考古学史に残る重要な発掘調査、たとえば群馬県岩宿遺跡や静岡県登呂遺跡などの調査を、数多く手がけてきました。長い伝統と実績により、優れた専任教員、専任スタッフが多数揃っており、資料にも恵まれ、日本でもっとも充実した考古学専攻であると

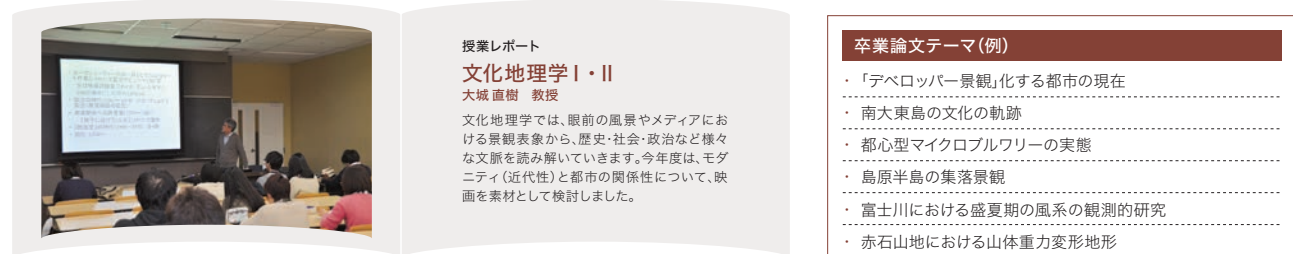
自負しています。メインの研究分野は日本列島ですが、学外からも著名な研究者を招いて、海外の考古学の講義なども開講しています。最高の環境で、充実した学びを約束します。



地理を学ぶために、歩く、観る、考える

世界の国や都市、山脈や河川、各地の産業など、日本や世界の各地域における自然環境のなりたち、都市や農村における経済や社会の特性、さらに宗教、言語、民族などの文化の地域性など、人間と自然にかかわる幅広い領域を探索します。モットーは「歩く、観る、考える」。フィールドワークを重視しています。また、グローバル化や

多様化する地域問題に対処するために、地理情報システム(GIS)や画像処理技術を学び、データの整理、分析のために、コンピュータを利用した研究技術を身につけることができます。



TOPICS 言葉は文化の源(みなもと)「特修外国語コース」

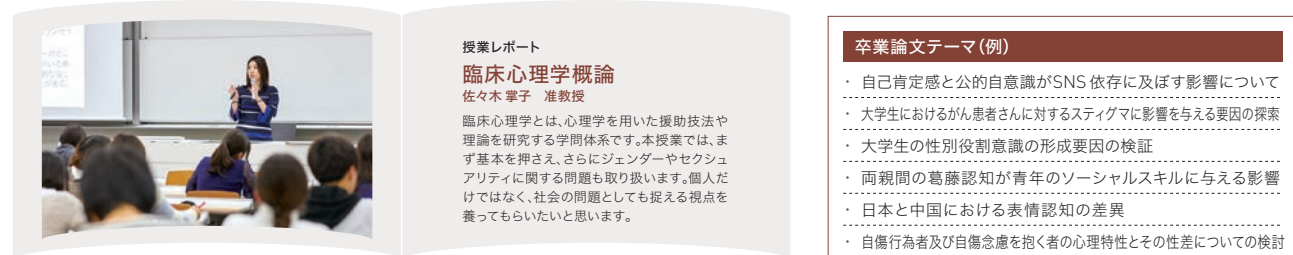
言葉は文化の源であると同時に、異なった文化を覗き込むための「窓」でもあります。広い視野を持った「人間学」の探究を目指す文学部では、大学院の文学研究科と共同で、さらに充実した新たな語学教育カリキュラムである「特修外国語コース」を2024年度から開始しています。ドイツ

語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語、アラビア語、古典ギリシア語、ラテン語などの未習外国語に関し、1・2年次で基礎を充実させたあと、3・4年次では大学院文学研究科に設置された、中級、上級レベルの授業が受けられるようになります。

心の問題に理論と体験からアプローチする

臨床心理学とは、いわゆる心の問題を抱えた人を理解し、援助するための実践的な心理学です。カウンセリングは臨床心理学の実践のひとつの形態であり、臨床心理士・公認心理師はその訓練を受けた専門家に与えられる資格です。しかし、本専攻は専門家になることが目的ではありません。より深い意味において、人の心のあ

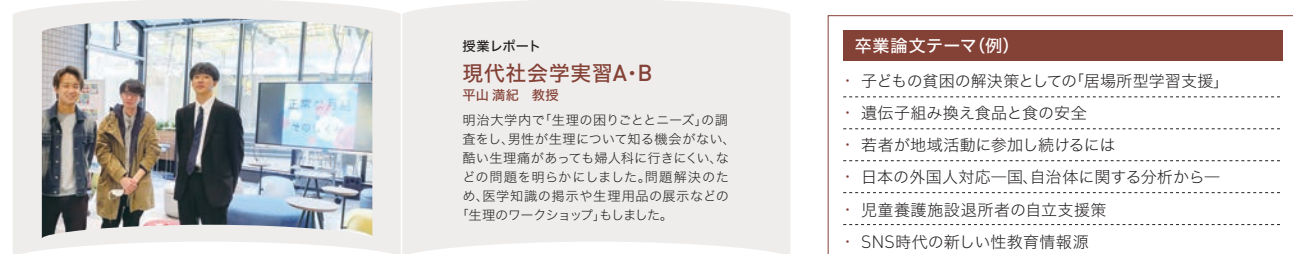
りようを理解し、人が精神的に成長し変容するために必要なことを幅広く学びます。心理学全般と、臨床心理学の実践につながる様々な体験学習を重要視しています。



社会のあり方を現場から学び、実践する

現代社会では、外国人や性的マイノリティ、障がい者など、多様な人たちとの共生関係づくり、地産地消などの循環型社会づくり、地域外の人たちとの交流を通じたまちおこしなど、様々な市民運動や市民活動が行われています。本専攻の特長は、このような運動や活動の現場にふれながら社会現象を研究していくことです。理論的

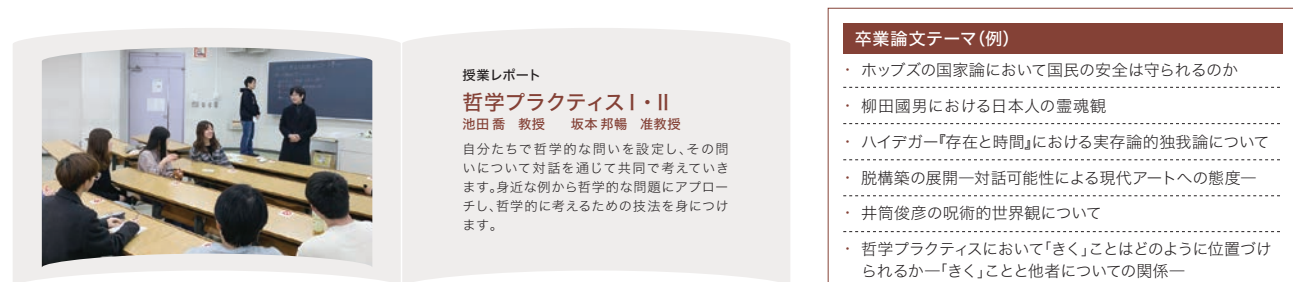
に学ぶとともに、実際の現場に出かけていき、人々の話を聞き活動にも参加します。授業と学外での実習を通して臨床の知を養い深めます。多角的な視点から、学問的、実践的に社会の現実を探索します。



身近な問題をとことんつきつめ、未来を展望する

グローバル化が進行し、ITをはじめとする新しい技術が進み、これまでの価値観や世の中の仕組みが大きく変化しています。こうした時代だからこそ、過去の蓄積を踏まえながら、新たな世界、新たな人間関係を構想する哲学・倫理学の分野に注目が集まっています。明治大学文学部は哲学専攻を2018年に新設し、こうした潮流に

対応した学びができるようにしました。本専攻では、東西の哲学を渉猟しながら、現代の諸問題に対して実践的に取り組むカリキュラムを組み、自分の考えを自分のことばで表現する力を養います。





留学制度

文学部主催

協定留学・単位互換プログラム

明治大学では59カ国・地域、376大学・学部の海外協定校に留学可能で、英語圏をはじめとする様々な大学に最大1年間留学することができます。文学部独自の協定校は韓国・台湾・中国・フランス・ドイツ・カナダ・イギリス・セネガルに計14校あり、今までに短期プログラムを含め約180名の学生が留学してきました。また、海外大学の日本校であるテンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)と単位互換プログラムを実施しており、条件を満たす学生はTUJで行われるアメリカ式の授業に参加し、疑似留学体験をすることも可能です。

トロント大学短期語学研修

トロント大学生涯学習学部(カナダ)にて開催され、国際的に高い評価を受けている4週間の英語トレーニング(English Plus)およびボランティア活動やアクティビティに参加するプログラムです。日常の様々な場面で使える英語をバランスよく学びます。

海外自主計画短期研修サポートプログラム

文学部では、自ら進んで海外に飛び立ち、現地での経験を通じて知見を深めることで、今後のグローバル社会に必要な国際性を身につけようとする学生を支援することを目的に、長期休暇中に自主的に海外で行う語学研修やフィールドワークなどの調査について、渡航などの費用に対する助成を行っています。

協定留学・認定留学



明治大学では、「協定留学」と「認定留学」の海外留学制度を設けています。「協定留学」には、「大学間協定留学」と「学部間協定留学」があり、それぞれ留学の協定を結んでいる機関へ学内選考を経て派遣されます。「認定留学」は学生が自分で選んだ大学に文学部の許可を受けて留学する制度です。どちらの制度も留学先で修得した単位が文学部の卒業要件単位として認定されることもあり、単位の修得状況により休学・原級することなく4年間で卒業することも可能です。

<協定校>
ビーレフェルト大学言語学・文学部(ドイツ)
バンベルク大学人文学部(ドイツ)
アルベルト・ルートヴィヒ大学フライブルク人文学部・文学部(ドイツ)
ホルドール・モンテニユ大学(フランス)
ポー・アドゥール地方大学(フランス)
高麗大学校文科大学(韓国)
国立台湾師範大学文學院(台湾)
国立台湾大学文學院(台湾)
国立台北大学法律学院(台湾)
国立中央大学文學院(台湾)
北京師範大学歴史学院(中国)
シェイク・アンタ・ジョップ大学人文学部(セネガル)

<短期プログラム>
トロント大学(カナダ)
ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院(SOAS)IFCELS(イギリス)

OB・OG MESSAGE

大学で培った多角的な視点で、あらゆる情報を駆使した提案を。

井村屋株式会社 量販営業部

櫻本 汐里さん

史学地理学科日本史学専攻 2021年卒業
(埼玉県立浦和北高等学校卒業)

和菓子が大好物だった私は、小豆を原料とした製品を多く扱う食品メーカー、井村屋グループに就職しました。私の担当は、大手コンビニエンスストアに対する営業活動。商品導入を目標に、トレンドやマーケットの調査、売り場に合った商品の提案などを行っています。自分が提案した商品が店舗に並ぶ姿を見ることが、大きなやりがいです。大学での研究テーマは明治時代の日本史。外国の文化の流入によって日本が発展していく中での人々の葛藤や移り変わりが面白く、夢中で取り組みました。研究を通して学んだのは、多面的に物事を見ることの大切さ。文献調査の際、一見、自分の研究と無関係のようでも、別の見方をすると役立つ資料がいくつもありました。大学で身につけた多角的な視点は、商品の魅力・価値を取引先にアピールする際に役立っています。商品自体の説明だけでなく雑誌の記事やSNS、長期天気予報など、身近にある情報源をヒントとして活用し、より厚みのある提案ができるよう心がけています。小豆は様々な日本の文化と関連している食品です。その魅力を多くの人に伝えることで、日本独自の食文化を次世代へ継承するとともに、世界へも広げたいと思います。



教員紹介・研究テーマ

※2024年4月1日現在
※退職等により変更となる場合があります。

日本文学専攻

氏名	研究テーマ
生方 智子	近代・現代の文学。特に、夏目漱石・谷崎潤一郎・現代女性作家の研究
小野 正弘	日本語の歴史。特に、語彙・文字・意味の変遷
甲斐 雄一	中国古典文学、宋代文学と出版文化についての研究
郭 南燕	日本近現代文学、キリスト教文化、宣教師の日本語文学
杉田 昌彦	日本近世文学。本居宣長を中心とする江戸時代の国学
田口 麻奈	国家や社会といった近代的共同性と日本の詩的言語の関係性
竹内 栄美子	日本近代文学。中野重治を中心としたプロレタリア文学や戦後文化運動の研究
牧野 淳司	『平家物語』を中心とする中世文学と寺院資料
八木下 孝雄	日本語の歴史。特に外国語翻訳における直訳的な表現の受容と変遷
山崎 健司	萬葉集を中心とする奈良時代以前の文学
湯浅 幸代	物語を中心とする平安文学、『源氏物語』受容史

英米文学専攻

氏名	研究テーマ
新城 真里奈	英語音声学。ウェルズ英語を中心に、さまざまな英語変種の発音の研究
石井 透	理論言語学。生成文法理論での統語理論、比較統語論
大山 みこ	映像記号論。映像の「文法」と、言語の関係。文体論
梶原 照子	アメリカ文学・詩・ジャンル論。言説の分析
久保田 俊彦	コンピュータコーパスを利用した言語調査、文体の分析
Sato, Gayle K.	20世紀アメリカ文学、児童文学、war memory
竹内 理矢	アメリカ南部文学、モダニズム文学、比較文学
塚田 麻里子	戦争文学・紀行文学を含む19・20世紀の英文学
野田 学	英国演劇。演技・演出論および演技身体論
横山 晃	19世紀・20世紀アメリカ文学・都市文学
Watson, Alex	ロマン主義文学(特に注釈研究)、ゴシック文学、英国の映画

ドイツ文学専攻

氏名	研究テーマ
岡本 和子	19世紀から20世紀前半にかけてのドイツ文学、思想、およびベルリン関係
富重 与志生	18世紀文学。特にモーリッツ。ほかに美術史、料理文学、現代文学
新本 史青	19世紀以降のドイツ語文学、翻訳論、ヨーロッパ越境文学
福岡 真子	ドイツ・オーストリアの近現代詩、ドイツ語圏ユダヤ系文学、ウィーンユダヤ文化
Mandelartz, Michael M.	18世紀から20世紀までのドイツ文学、ゲーテ、クライスト、文化学
渡辺 学	日独言語文化研究、メディア・社会言語学、異文化コミュニケーション研究

フランス文学専攻

氏名	研究テーマ
奥 香織	フランスの舞台芸術・劇文学、演劇美学の変容、18世紀を中心とした芸術文化、芸術と社会
小島 久和	ルネサンス期の新プラトン主義哲学の研究
谷口 亜沙子	20世紀のフランスを中心とした詩(ポエジー)の研究
田母神 麗二郎	フランス近現代詩、フランス現代思想、精神医学史
根本 美作子	20世紀文学、表象文化論

演劇学専攻

氏名	研究テーマ
伊藤 真紀	日本の演劇史。特に近代を中心とした演劇文化史の研究
伊藤 愉	西洋演劇史。特にロシア・アヴァンギャルド演劇の研究
井上 優	西洋演劇史。特にルネサンスから近代にかけての演劇の表現モードの変遷
大林 のり子	演出家の役割・上演分析による越境的な演劇活動の再考
矢内 賢二	日本演劇史。歌舞伎を中心とする演劇・芸能および周辺文化の研究

文芸メディア専攻

氏名	研究テーマ
伊藤 氏貴	近現代の文学・藝術とその背景となる思想
内村 和至	日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テキスト
佐伯 和香子	日本古典文学の民俗学的研究。口承文芸、お伽草子
相良 剛	〈読む・書く〉を、出版実務経験から探索。(本)の新しい形を研究
中江 桂子	文化社会学・メディアの社会学・社会心理と文化史
能地 克宜	日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学

日本史学専攻

氏名	研究テーマ
落合 弘樹	近代史。幕末・維新期の政治史の研究
清水 有子	近世史。織豊政権、江戸幕府の政治外交史の研究。鎖国の形成、キリシタン問題など
高橋 一樹	中世史。荘園制と交通体系、訴訟制度、文書論
富山 仁貴	現代史。戦後の社会運動史、地域史、教育史の研究
中村 友一	古代史。氏族を中心に、政治史、法・制度、地域史を見渡す研究
野尻 泰弘	近世史。藩領を中心とした地域史の研究
松山 恵	近代史(文化史)。空間と社会の関係性から日本都市の特質を解明
三浦 直人	近代史(文化史)。人名を通して、個人・自己の問題を考察
山田 朗	現代史。軍拡と膨張の論理、戦争の実態の解明

アジア史専攻

氏名	研究テーマ
江川 ひかり	オスマン帝国の政治・経済・社会・文化を総合的に研究
櫻井 智美	中国近世史。特にモンゴル帝国時代の政治・社会・文化の研究
鈴木 開	朝鮮近世史。朝鮮半島を中心とする東アジアの外交関係・国際交流の歴史を研究
高田 幸男	20世紀の中国・東アジアの政治・社会・教育の変容を考察
高村 武幸	中国古代・中世の政治と社会。簡牘の分類・再利用、「書く」文化史

西洋史学専攻

氏名	研究テーマ
青谷 秀紀	中世ネーデルラント都市の宗教社会史
谷口 良生	近現代フランス史。特に近代フランスの議会に関する政治・社会・文化史研究
豊川 浩一	近世ロシア史。特に18世紀の民衆史や民族問題の研究
古山 夕城	ギリシア古代史。周縁地域におけるポリスの政治社会構造
水野 博子	オーストリア・ヨーロッパ近現代史。ネイション・エスニシティ・人種の問題を政治文化や記憶文化の領域から研究
山本 耕	近現代フランス史。特に戦間期からヴィシー政権期のユダヤ人研究
鯉淵 秀一	初期アメリカ史。主に17-18世紀イギリス帝国による北米植民の過程の研究

考古学専攻

氏名	研究テーマ
阿部 芳郎	縄文時代の生業と社会構造や居住活動に関する研究
石川 日出志	縄文時代から弥生時代への社会変革と地域差の研究
佐々木 憲一	関東の古墳を素材に、周縁地域の国家形成に迫る研究
藤山 龍造	先史時代の環境変化と資源開発に関する研究
若狭 徹	集落・墓・耕地等の遺跡群から古代社会を立体的に復元する研究

地理学専攻

氏名	研究テーマ
荒又 美陽	都市景観に関する社会地理学的研究
梅本 亨	北半球高緯度の植生景観および山地気候の研究
大城 直樹	地域アイデンティティの形成と民俗地理の分節化に関する研究
川口 太郎	人々の暮らしから都市の成り立ちやあり方を考える都市地理学研究
佐々木 夏来	山岳湿地の形成と発達に関する地形学的研究
高波 紳太郎	火山周辺の地形発達と河川の侵食過程に関する研究
山本 大策	生活環境や経済機会の変化と地域的対応に関する研究

臨床心理学専攻

氏名	研究テーマ
岡安 孝弘	健康心理学。心理的ストレスと心の健康に関する研究
加藤 尚子	心理コンサルテーション。虐待を受けた子どもの養育および心理支援、心理療法、トラウマ、愛着臨床
川島 義高	精神疾患を抱える方々への臨床心理学の支援、自傷・自殺予防
佐々木 孝子	多様な性(セクシュアリティ)に対する臨床心理学の支援
高瀬 由嗣	投映法心理検査の分析および解釈法の精緻化
竹松 志乃	イメージを媒介とする心理療法。テス・エデュケーション
濱田 祥子	青少年の発達上の諸問題に関する研究
山登 敬之	精神科医療機関における心理臨床の可能性(子どものこころクリニック院長)

現代社会学専攻

氏名	研究テーマ
宇田 和子	公害・環境病の被害と生活回復に関する研究
大畑 裕嗣	日韓の市民活動と市民運動に関する研究
昔農 英明	ナショナリズム、多文化共生、移民・難民問題の研究
内藤 朝雄	いじめ、職場の迫害、DV、民族紛争、自由な社会
平山 満紀	ジェンダー、セクシュアリティ、身体の現代の変容

哲学専攻

氏名	研究テーマ
池田 喬	現象学を中心とする現代哲学・倫理学
井上 貴恵	9-14世紀のイスラム神秘主義思想(スーフィズム)
合田 正人	19・20世紀フランス思想、ドイツ思想。近代ユダヤ思想史
坂本 邦暢	西欧ルネサンスと近代の哲学史・科学史
志野 好伸	日中比較思想。近現代中国における西洋哲学受容

教養科目

氏名	研究テーマ
田中 伸明	スポーツ心理学。特にテニスプレイヤーのメンタリティについて
水村 信二	ウェルネス教育に関する研究。スポーツクライミングに関する研究
宮脇 梨奈	ヘルスコミュニケーション。健康情報の普及・啓発に関する研究
諸富 祥彦	生きる意味の悩みの支援。学校カウンセリング
山田 亨	人類学(文化・言語)、法人類学、公共政策

資格課程科目

氏名	研究テーマ
青柳 英治	図書館専門職員の人的資源管理に関する研究
伊藤 貴昭	説明行為が学習・理解に及ぼす影響に関する実践研究
伊藤 直樹	思春期・青年期における学校での適応に関する研究
井上 由佳	国内外の博物館の社会的役割の考察と人材育成・学芸員養成の国際比較研究
小林 繁	生涯学習政策と施設・機関をめぐる諸問題の検討
駒見 和夫	博物館教育の役割とインクルーシブなミュージアムの構築に向けた研究
齋藤 孝	身体を基礎とした教育メソッドの開発・実践
齋藤 泰則	レファレンスサービスと情報要求に関する研究
佐藤 英二	脱産業化社会において数学と科学を学ぶ意味に関する史的考察
関根 宏朗	人間形成における「自律」の問題についての教育哲学的研究
高野 和子	日英における教師教育の政策と制度の研究
林 幸克	教科外教育における体験活動に関する実証的研究
平川 景子	女性の主体形成。社会教育実践研究。学習支援者の力量形成
藤井 剛	キー・コンピテンシーに基づく学習指導法のモデル開発に関する研究
三浦 太郎	図書館史、特に近現代日本の図書館制度に関する考察
山下 達也	近代日本および植民地・占領地における学校教育史研究

現代の情報社会を解き明かし、ひとつ先の未来を描く

情報 コミュニケーション学部

School of Information and Communication

■ 情報コミュニケーション学科

明治大学情報コミュニケーション学部の強み

高度情報社会で活躍する創造的な人材を育成

1

多面的な視点から「人と社会」にアプローチ カリキュラムのカスタマイズ

必修科目を最小限にし、問題意識や研究テーマに応じて、学生自身が主体的に科目を選択することで、カリキュラムを「自分仕様」に組めるように履修の自由度を大幅に高めています。

2

学生の主体性をいかした教養科目群の設置 アクティブ・ラーニング

短期間で集中的に学ぶクォーター授業[※]や、フィールドワーク・ワークショップ・学外研修など、学生による主体的な活動を支援する科目を設置しています。

※通常授業より短い期間で学ぶことで、修得度向上や、空いた時間を留学等他の活動に活用することを目的としています。

3

1年次から4年次まで学生の学びをサポート ゼミナール科目

1年次から4年次まで、ゼミナール科目が配置され、問題の発見から解決までの過程をガイドします。また、学問・研究の集大成としての卒業論文・卒業制作を提出することにより、単位修得が可能です。

4

語学以上の「何か」を現場でつかむ ミッション遂行型現地留学

単なる語学留学に終わることのない、学生が留学先で何かを主体的につかみ取ってくるミッション(目的)遂行型の国際交流プログラムを用意しています。

さらに詳しい情報は
Step into Meiji Universityまたは
学部ガイドをご覧ください



主体性を持って学び、 自らの「問い」を発見・解決する 4年間

情報コミュニケーション学部における教育と研究を支えるのは、「社会の現在(いま)を捉える」、「多様で学域横断的なアプローチ」、「創造と表現」という3つの大きな柱。ぜひ情報コミュニケーション学部で多種多様な学びから、自らの「問い」を発見してください。問いの解決を目指して主体的に学ぶ4年間で得た糧は、きっと社会に出てから活躍する素養を育むことにつながるはずです。

阿部 力也 学部長

1967年生まれ。1991年中央大学法学部法律学科卒業。1995年明治大学大学院法学研究科公法学専攻博士後期課程単位取得退学後、明治大学法学部専任助手。1998年同大学短期大学(当時)専任講師、2005年同大学情報コミュニケーション学部専任助教授、2008年同大学法科大学院法務研究科専任准教授、2011年同大学法科大学院法務研究科専任教授。2019年明治大学情報コミュニケーション学部専任教授(法務研究科兼籍)、2020年兼籍解消、現在に至る。著書に「共同正犯の構造」、「刑法総論講義案」など多数。博士(法学)

社会と情報とのかかわりの中で、 自分がどのように生きていくか 学ぶことができる学問。

特定の学問に絞らず、好奇心を持ちながら多様なことを勉強したいと考え入学しました。ゼミでは行動経済学を学び、興味を持った授業はすべて履修。この学部では、それぞれの授業で得た学びがつながる楽しさを感じながら、専門性を磨きたい分野を見つけることができます。4年次には国際交流プログラムに参加し、東南アジアの学生と交流しました。異なる価値観や現地の文化に触れ、日本にいる時よりも大きな視点で世界を捉える力が身につきました。卒業後も学びを継続し、社会に貢献できる人間になることが目標です。

情報コミュニケーション学科4年 池上 歩花さん
(千葉県私立日本大学習志野高等学校卒業)

▶ Meiji NOWでは「前へ!」踏み出す情報コミュニケーション学部生を特集しています



カリキュラム

問題・課題によってカスタマイズできる柔軟なカリキュラム

「問題を発見し、解決する4年間」を実現するために、1年次から学際的知識を習得することが可能なカリキュラムとなっています。1・2年次、3・4年次ごとに大きく3つに分類された科目群を設け、その中から学生が自由に選択できる専門科目群を用意しています。授業科目間の関係性を示すために、ガイドラインとして履修モジュールを用意していますので、自分が研究したいテーマに沿った科目を効果的に学ぶことができるような仕組みとなっています。

■ カリキュラム体系図

		各分野専修 必要単位		1年次		2年次		3年次		4年次	
ゼミナール科目群		—		基礎ゼミナール		問題発見テーマ演習 A・B		問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ		問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ 卒業論文・卒業制作	
学際科目群		入門4単位		情報コミュニケーション学入門 A・B						情報コミュニケーション学	
専門科目群	社会科学	社会科学から4単位 人文科学から4単位 自然科学から4単位 これらを含め専門科目から64単位	家族社会学概論	コミュニティ論	社会心理学 A・B	組織論	ミクロ経済学				
	環境と社会経営学		ジェンダー論	情報社会と経済	犯罪と法Ⅰ・Ⅱ	メディア・リテラシー					
	憲法 A・B		社会学 A・B	政治学	マクロ経済学						
	異文化理解		小集団コミュニケーション	地域文化論(基礎)	日本史概論	歴史学					
	英語文学 A・B		新興国事情	地誌学	日本文学						
	外国文学		心理学 A・B	地理学	パブリック・スピーキング						
自然科学	言語学	生命論 A・B	哲学	比較文化(基礎) A・B							
	宗教学	西洋史概論	東洋史概論	メディア批評							
社会科学システム	科学技術史	情報科学	人類学 A・B	脳科学							
	環境生物学	情報検索論	地球環境科学								
文化と表象											
人間と環境											
外国語科目群	6単位	English Skills AⅠ・Ⅱ(基礎 中級 上級) English Skills BⅠ・Ⅱ(基礎 中級 上級) Speech & Debate A・B		Critical Reading Critical Discussion Critical Writing A・B		English SeminarⅠ・Ⅱ 英語音声学 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ					
	4単位	韓国語 AⅠ・Ⅱ	タイ語 AⅠ・Ⅱ	ドイツ語 AⅠ・Ⅱ	韓国語演習Ⅰ・Ⅱ	中国語演習Ⅰ・Ⅱ					
		韓国語 BⅠ・Ⅱ	タイ語 BⅠ・Ⅱ	ドイツ語 BⅠ・Ⅱ	スペイン語演習Ⅰ・Ⅱ	ドイツ語演習Ⅰ・Ⅱ					
		スペイン語 AⅠ・Ⅱ	中国語 AⅠ・Ⅱ	フランス語 AⅠ・Ⅱ	タイ語演習Ⅰ・Ⅱ	フランス語演習Ⅰ・Ⅱ					
		スペイン語 BⅠ・Ⅱ	中国語 BⅠ・Ⅱ	フランス語 BⅠ・Ⅱ							
		日本語 AⅠ・Ⅱ	日本語 BⅠ・Ⅱ	日本語 AⅢ・Ⅳ	日本語 BⅢ・Ⅳ						
研究方法・表現実践科目群	10単位	(情報リテラシー科目) ICT アプリ開発Ⅰ・Ⅱ ICT コンテンツデザインⅠ・Ⅱ (日本語表現科目) 日本語表現Ⅰ・Ⅱ		ICT 総合実践Ⅰ・Ⅱ ICT データベースⅠ・Ⅱ 専門情報リテラシー ネットワーク技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		ICT メディア編集Ⅰ・Ⅱ プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ		アルゴリズム実習Ⅰ・Ⅱ ネットワーク技術Ⅳ			
		演劇学	クリエイティブ・コミュニケーション	メディア・アート 身体コミュニケーション A・B		デジタルアート A・B デジタルプレゼンテーション		非言語コミュニケーション メディア教育論			
		音楽論	美学・芸術学								
		(リサーチリテラシー科目) 科学リテラシー 数理解リテラシー	統計学 A・B 論理リテラシー	社会調査法 A・B		質的調査分析法 社会調査実習		データ解析論Ⅰ・Ⅱ			
	海外留学科目群	—	国際交流		留学関係科目(語学・実習) A	留学関係科目(語学・実習) B	留学関係科目(講義) A	留学関係科目(講義) B			
	その他	ウェルネス科目群	—	ウェルネス A・B		ウェルネス・スポーツ A・B				ウェルネス・スポーツ C・D	
キャリアデザイン科目群		—	キャリアデザイン		インターンシップ入門				実践キャリア支援講座		
情報リテラシー科目		—			ICT ベーシックⅠ・Ⅱ						
総合講座		—							総合講座 A～D		
総単位	124単位	※ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語・タイ語の中から1か国語(ただし、外国人留学生については日本語)を選択									

「個」を強くするゼミナール教育

1年次から4年次まで、段階的に履修するゼミナール科目を設置。

本学部では、1年次から4年次まで段階的に履修するゼミナール科目を設置しています。少人数の学生とひとりの教員が、相互にコミュニケーションを取りながら、資料の読み方から、議論の仕方、レポート・論文の作成、プレゼンテーションまで幅広く学んでいきます。段階的に学ぶことで、問題の発見から解決までの能力を身につけることができます。

1年次 基礎 ゼミナール	2年次 問題発見 テーマ演習	3年次 問題分析 ゼミナール	4年次 問題解決 ゼミナール
--------------------	----------------------	----------------------	----------------------

仲間と協力しながら、生活に潜む「ことば」の不思議を解明する。

方言に関する研究から、ゲームのキャラクター名に関する調査まで、様々な切り口を通じて言語学に取り組んでいます。漫画やアニメに関する疑問から学びが広がるなど、言語学は生活に根ざした学問です。ゼミ活動を通じて身についたのは、探究力と協働力。日常における様々な物事に着目する中で、以前に増して考えを深められるように。また、ゼミメンバーとともに調査・発表を行う中で、協調性も高まりました。これら2つの力は、日常生活はもちろん、私が志望する営業職においても非常に役立つもの。他者とのコミュニケーションと独自の視点を大切に、頑張りたいと思います。

情報コミュニケーション学科4年 黒川 泰我さん
(北海道札幌月寒高等学校卒業)

■ 4年間の学問・研究

1年次 研究の先端を知る

大学生として必要な基礎スキルを習得し、自分の取り組むべきテーマや課題を見出す



学際性と多様性が特徴の情報コミュニケーション学部には、様々な研究分野をテーマにしている専任教員が多数在籍しています。1年次には「情報コミュニケーション学入門」を履修し、各回交代で登場する専任教員の専門的な視点からの講義を受講します。現代社会の様々な問題に関する多彩なアプローチの仕方を垣間見るとは、自らが探究する研究テーマを設定するうえで、大きな道標となります。講義科目では、「社会科学」「人文科学」「自然科学」という大きく3つに分類された科目群から、自らが興味・関心のある

科目を選択することができます。また、選択必修外国語教育では、単に他国の言葉を話せるようになることを目的にするのではなく、言語(語学)を通じて異文化を知り、それを尊重できるようになることを重視しています。そのための講座が演習科目としても設置されています。さらに、ゼミナール科目として、1年次には「基礎ゼミナール」が設けられ、ここで、論理的思考、資料の収集・分析、論文・レポート、プレゼンテーション等の基礎を習得します。2年次には「問題発見テーマ演習A・B」が設置されており、ひとつのテーマについて集約的な議論や輪読、また、フィールドワークや作品制作などを少人数で行います。このゼミナールを通して、学生自身が、問題発見能力を身につけていくことを目的とします。

2年次 問題を発見する

自らの課題の解決に向けて、深い理解と洞察力を養う



3年次以降に学習できる科目は多岐にわたり、必修科目はありません。「社会システム」「文化と表象」「人間と環境」と大きく3つに分類された科目群の中から、自己の興味・研究目的に合致した科目を履修すればよいのです。時には何から学んで良いか分からなくなるかもしれませんが。そのために、履修モジュール(履修ガイド)を策定しています。たとえば「不思議現象を科学する」というテーマについて関心を持つならば、「脳科学」「不思議現象の心理学」「認知科学Ⅰ・Ⅱ」といった授業科目を選択することにより、

「不思議現象を科学する」について学習できるといった仕組みになっています。この履修モジュールは、授業科目間の関係性を明確にし、授業選択のガイドラインの役割を果たしています。

3年次からは「問題分析ゼミナール」が開始され、4年次の「問題解決ゼミナール」へと続いています。このゼミナールは、各担当教員の主要担当科目から設定したテーマを学習する中で、現代社会における情報コミュニケーションの意義と機能を踏まえて、問題点のさらに深い理解と洞察力を養うことを目的としています。

4年次の「問題解決ゼミナール」の中には、最終成果物として卒業論文や卒業制作の完成を目標としたゼミナールもあります。4年間の学びの集大成として卒業研究に取り組み、指導教員にこれらを提出してその成果が認められた場合には、ゼミナールの単位に加え「卒業論文・卒業制作」の単位が付与されます。

■ 履修モジュール<一例>

テーマ	1・2年次				3・4年次	
現代社会における企業に倫理は求められるか	経営学 組織論	社会心理学 A・B 社会学 A・B	組織コミュニケーション A・B 組織と情報	不確実性下の人間行動 倫理学	コーポレート・ガバナンスⅠ・Ⅱ	
表現することと社会・政治・法の間を考える	メディア・リテラシー 政治学	市民社会と法Ⅰ・Ⅱ 社会学 A・B	小集団コミュニケーション 情報社会論 A・B 現代型犯罪と刑法Ⅰ・Ⅱ	知的財産法 A・B 情報法 A・B	個人と国家 組織と情報	ビジネスと法 A・B
「芸術(アート)」と「コミュニケーション」が交差する世界を探究しよう	美学・芸術学 身体コミュニケーション A・B	音楽論 メディア・アート	音楽表現論 身体表現論	映像表現論 造形表現論	メディア教育論 デジタルアート A・B	アート・マネジメント
日本の国際社会における将来を隣国との関係から考える	日本史概論 東洋史概論	国際関係論Ⅰ・Ⅱ 社会文化史	近・現代史Ⅰ・Ⅱ 地域文化論	異文化コミュニケーション史		
メディアにおける都市のイメージを分析する	社会学 A・B 異文化理解	地誌学	都市情報論 人文地理学	広告論 メディアの歴史		
「いのち」の観点から人間と社会を考える	生命論 A・B 社会学 A・B	哲学 組織論	家族社会学概論	生命思想史Ⅰ・Ⅱ 倫理学	科学技術と人間	

教員紹介・研究テーマ

※2024年4月1日現在
※退職等により変更となる場合があります。

科目	氏名・職名	研究テーマ	メッセージ
犯罪と法、現代型犯罪と刑法	阿部 力也 教授	色々な犯罪にみる「現代の特徴」の考察 共犯の比較法的考察(とくに日本法とドイツ法)	色々な「ものの見方」のなかから、「法的な思考」を身につけるメリットに気づいて欲しいと思う。意外に、皆さんにとって現代社会を生き抜くための「方策」になるのでは？
科学リテラシー、脳科学、認知科学	石川 幹人 教授	人間の認知機能を生物進化の歴史に位置づけ、 様々な心理現象の背景を探る	人間と社会、それらを取り巻く地球環境などと、 大きなことを見通す力を養ってください。
知的財産法、ビジネスと法	今村 哲也 教授	情報社会における知的財産法上の政策課題の検証	情報社会を生き抜くためには知的財産法に関する知識と理解が必要です。
生命思想史	岩淵 輝 教授	生命論(生命とは何か) 生命思想史 グスタフ・フェヒナーの精神物理学	好きなこと、本当に大事だと思うことを、追究しつづけてください。
ジェンダー・マネジメント	牛尾 奈緒美 教授	企業で働く人々がジェンダーの枠を超えて活躍できる場・方策を 考案するなど組織のダイバーシティ推進に関する研究	幸せなキャリア、自分にあった生き方とは何か この4年間ですっきり考えてみませんか。
情報社会論	江下 雅之 教授	メディア環境とライフスタイルの相互作用的な関係	実用的な知識は社会人になればイヤでも習得するもの。 大学生の時代こそ(役に立たないこと)に熱中しましょう。
情報政策論、現代アメリカ政治論	清原 聖子 教授	現代アメリカ政治とメディア、ネット選挙、フェイクニュースなど	メディアやソーシャルメディアを切り口に、政治学的な視点から現代社会の諸問題 を捉え、解決策を考えてみませんか。
超域文化論、地域文化論	高馬 京子 教授	クリエイティブ・ファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築／伝 達されるファッション(服飾流行)とジェンダー像	情コミでの様々な学びや経験を通して、 視野を広げ、深い、好奇心、探究心を持って自分の夢をみつけてください。
家族社会学	施 利平 教授	東アジアにおける家族・親族関係の変容と持続	知力とともに気力、体力とコミュニケーション力を身につけよう！
国際経済論	島田 剛 教授	開発経済学、途上国への援助、国内の経済格差、福島復興	格差が世界的にも国内でも拡大しています。 どのような解決方法があるか考えていきましょう。
メディア批評	鈴木 健 教授	カルチュラル・スタディーズ、説得コミュニケーション論	現代社会をポップ・カルチャーと説得コミュニケーション論を通じて 読み解く方法を学びましょう。
国際関係論	鈴木 健人 教授	国際安全保障、冷戦史、構成主義の国際政治理論の研究	厳しい現実を冷静に分析し前向きに問題解決を考える、 たくましさをも身につけよう。
歴史学、社会文化史、 異文化コミュニケーション史	須田 努 教授	日本近世・近代の社会文化、民衆暴力	歴史的センスを身につけ、よりよい将来を模索するための知を磨り上げましょう。
比較文学・比較文化	関口 裕昭 教授	ドイツ文学、ユダヤ系文学、日独比較文化論	異質なものの出会いを通して、自分の世界を広げ、深めていきましょう。
哲学	大黒 岳彦 教授	「メディア」と「情報」の思想・哲学的研究	自分だけの「問題」を見つけ、それにとことんこだわることを。
組織論、組織と情報	竹中 克久 教授	組織社会学、組織文化研究(組織シンボリズムおよび組織美学)	大胆な発想から精緻な論理を組み立てる楽しさを 伝えていきたいと考えています。
憲法、個人と国家、人権と政策	田村 理 教授	フランス憲法史、フランス革命と憲法、日本の政治文化と立憲主義	与えられたレールに沿っていけばよい時代は終わりました。 社会にアピールして居場所をつくる発信力を大学で身につけてください。
公共政策	塚原 康博 教授	情報化・少子高齢化・グローバル化時代の公共政策	現代社会を「論理的」かつ「有機的」に考える力を身につけてください。
異文化理解・異文化間コミュニケーション	根橋 玲子 教授	異文化間コミュニケーション・多文化共生	大学では、様々な背景の人々との出会いや学びを通して、 多文化に生きることを体感してください。
身体表現論	波照間 永子 教授	(1)身体技法および舞踊技法の研究 (2)無形文化財のアーカイブ化(記録・保存) (3)現代芸術の創造	様々な体験を重ね、試行錯誤しながら、 あなた自身の「忘れられない軸」(強み)を見つけましょう。
社会学	宮本 貴也 教授	批判的社会理論	現代という時代、日本という社会を超えていく考え方を、大学時代で身につけましょう。
組織コミュニケーション	山口 生史 教授	組織コミュニケーションと組織行動学	組織の中の人間関係と情報交換の適切性を学ぶことはみなさんの将来に役立つと思います。
多文化と相互理解、地域文化論	横田 貴之 教授	中東地域研究、イスラーム主義運動研究	大学生活を通じて、自分の人生における「推し」を見つけよう。
メディア教育論	小田 光康 准教授	ジャーナリズムと戦略コミュニケーションの理論と実践に関する研究	メディアを通じて情報発信するメディアリテラシーが求められる現在、 メディアの現在進行形と一緒に学びましょう。
政治学、政治とメディア	川島 高峰 准教授	ミレニアル・Z・α世代の日本国家論／日本人論	地球規模で考え、現場で行動できる人を目指そう。 Think Globally, Do Act Locally. Let's Get Globally!
意思決定論	熊田 聖 准教授	ビジネスにおける交渉での満足できる合意の要因は何か	あなたの中の理系と文系の知識を統合すると、 社会の問題をじっくり考えられるようになります。
情報と経済行動、不確実性下の人間行動	後藤 晶 准教授	行動経済学・実験経済学、協力行動・利他的行動に関する研究	大学時代は様々なことに「悩む」時代です。 よく悩み、いろんなことにチャレンジして、自分の新たな可能性を切り拓きましょう。
リスク社会論	小林 秀行 准教授	災害社会学・災害情報論、リスク社会論。 とくに、住民主体の災害対策や災害復興に関する研究	大学は、新たなものへと触れる機会に溢れた場所です。 多くに触れ、学び取り、あなただけの夢や志を見つけていきましょう。
言語学	坂本 祐太 准教授	言語理論に基づく「ことば」の研究	コミュニケーションの代表的なツールである「ことば」が持つ様々な不思議を 一緒に紐解きましょう。
現代行政と法	清水 晶記 准教授	行政活動の不作為に対する法的統制、原子力行政の 実態分析とその法的統制	情報コミュニケーション学部だからこその得られる「何か」があるはずです。 それと一緒に考え、そして掴み取りましょう。
情報社会と教育	鈴木 雅博 准教授	学校組織における教師間相互行為	学ぶほどに問いが深まり、問いが深まるとそれまでの自分の考えが揺らぎます。 自分を揺さぶる学びをしてみませんか。
ジェンダー論、ジェンダーと社会	田中 洋美 准教授	メディア、テクノロジーのジェンダー／文化研究	枠にとらわれない思考力を鍛え、自らを自由にしていきたいと思います。
ネットワーク社会論	中里 裕美 准教授	地域通貨研究、経済社会学、社会ネットワーク論	大学生活を通して、自分が夢中になれる何かを見つけてください。
日本文学、日本文化論	日置 貴之 准教授	日本演劇研究。江戸時代後半から明治時代の 演劇(歌舞伎)における災害や戦争の描写	「研究」ということを堅苦しく考えず、身のまわりのどんなことでも研究対象になりうの だと思ってください。自分が関心を持てる事柄について、少しじっくり考えてみましょう。
人類学、身体と意識、 不思議現象の心理学	蛭川 立 准教授	心身問題への人類学的アプローチ。儀礼とコスモロジーの研究	世界には不思議がいっぱいです。よく観察し、よく考察しましょう。
ジェンダーと法	堀口 悦子 准教授	「ジェンダー」視点でコミュニケーションから法制度までを分析	「ジェンダー」を知っている人も知らない人も、一緒に学び、考えてみましょう。
情報社会と経済、情報産業論	山内 勇 准教授	日本企業のイノベーション活動、知的財産制度に関する実証研究	情報社会やデータエコノミーで活躍できる「人間力」を養いましょう。 データやAIなど素材や道具だけではイノベーションは起こりません。
プログラミング実習	山崎 浩二 准教授	LSIの故障検査	学ぶこと、考えることを大いに楽しみましょう。よろしくお願致します。
社会心理学	脇本 竜太郎 准教授	防衛性の社会心理学。特に存在脅威管理理論、公正さの判断	心と社会の相互作用という視点から、 人間を多面的に理解する姿勢とスキルを身につけましょう。
情報社会と安全	和田 悟 准教授	法分野を中心とした情報技術応用	いそがず、じっくりいきましょう。
市民社会と法、財産と法	齋藤 航 専任講師	民法、特に契約責任および不法行為責任に関する研究	法律を学ぶ楽しさ、ルールに基づいて問題を解決する面白さを知ってもらいたいと 思っています。
国際開発論	高橋 華生子 専任講師	新興国・途上国の都市におけるジェントリフィケーションと住環境 の空間格差に関する研究	フットワークを生かして、経験からの学びと遊びを 一緒に探っていきましょう。
英語コミュニケーション、英語音声学	ドウ、ティモシー J. 専任講師	第二言語習得	Don't be discouraged by your mistakes - they are your biggest opportunities to learn and develop!
日本語表現	内藤 まりこ 専任講師	日本文学・文化研究、東アジア地域を対象とする比較文学研究	文学や映画を題材に、世の中を少し異なる角度から 眺める方法を身につけるお手伝いをします。
紛争解決システム論	宮田 泰 専任講師	現代社会における私的紛争の解決をめぐる制度と手続きの考察	情報コミュニケーション学部でもとに学びましょう。
音楽論、デジタルアート	宮川 涉 特任准教授	作曲と音楽学研究、音楽を中心としたアート実践研究	既成概念にとらわれず、失敗を恐れず、 積極的に色々なことに興味を持って取り組んでください。
ウェルネス、ウェルネス・スポーツ	竹崎 一真 特任講師	スポーツ社会学、身体とジェンダーに関するカルチュラル・スタディーズ	学びとは家で考えることではありません。身体的な経験を通じて得る知識=「身体知」という言葉があります。身 を持って新しい知と出会い、考え、またこれまでの当たり前を問い返そう。そんな学びの地平を切り開いていきましょう。
社会調査法、質的調査分析法、社会調査実習	大島 岳 助教	ライフ／オーラル・ヒストリー研究、社会的苦悩とレジリエンス(特に HIV/エイズ・性的マイノリティ)	夢中になって打ち込める何か、行ったことのない道を歩く勇氣を持つこと。社会学は、世 界と自分の人生をよりよくするための終わりのなき挑戦です。一緒に学んでいきましょう。



留学制度

情報コミュニケーション学部主催



ドイツ・ゲート大学での授業仲間と

学部間協定留学

学部間協定留学とは、明治大学情報コミュニケーション学部と交換留学の協定を締結している学部間協定校に、情報コミュニケーション学部生が交換留学生として留学するプログラムです。学部
に在籍したまま留学ができ、留学先で修得した単位が卒業要件単位として認定されます。半年または1年留学をしても、条件を満たせば4年での卒業が可能です。留学には、本学部からの推薦が必要なため、学部内選考を行います。

<協定校>

香港城市大学人文社会科学学院(香港)/シーナカリンウィロート大学人文学部(タイ)/
ベトナム国家大学ハノイ外国語大学日本言語文化学部(ベトナム)/ハノイ貿易大学
(ベトナム)/ゲート大学言語学・文化学・芸術学部(ドイツ)



ベトナム市街研修の様子、現地学生との交流

国際交流プログラム

タイのシーナカリンウィロート大学、モンクット王ラカバン工科大学、ラオスの国立大学との学生交流プログラム、ベトナムのベトナム国家大学ハノイ外国語大学との学生交流プログラム、イギリスのロンドン大学SOASサマープログラムへの学生派遣など多彩な国際交流プログラムを実施します。単なる語学研修ではなく、文化、歴史、政治、メディアをアカデミックな方法と実際の現場で学びます。

<プログラム>

アセアン短期学生交流プログラム(シーナカリンウィロート大学、モンクット王ラカバン工科大学、ラオス国立大学)/ベトナム短期学生交流プログラム(ベトナム国家大学ハノイ外国語大学)/海外ロケ体験プログラム(ニュージーランド)、ロンドン大学SOASサマープログラム(イギリス)

OB・OG MESSAGE

情報を駆使し、国際的な脅威から邦人の安全を守る。



外務省
領事局邦人テロ対策室

林田 雄一郎さん

情報コミュニケーション学科2016年卒業
(東京都私立攻玉社高等学校卒業)

2013年、学部からタイ・バンコクのシーナカリンウィロート大学への交換留学中に、バンコクで発生した大規模な政治デモに遭遇したことが、私のターニングポイントになりました。政治デモの際には、現地の邦人に対して日本大使館がデモの場所や安全情報などを発信しており、それが外務省の仕事に興味を抱ききっかけになったのです。卒業後、タイに拠点を持つ民間企業や在外公館派遣員としてのタイ勤務を経て、外務省領事局邦人テロ対策室に勤務。海外でのテロ・誘拐事件などに関する日本人の安全対策や保護にかかわる業務に携わりました。振り返ると、在学中はとても多様な知識を身につけることができたと思います。海外へ興味を持つきっかけになった留学も国際交流プログラムの一環でした。これから入学される皆さんも、ぜひ積極的に様々なことに挑戦して自分の軸を見つけ、何かひとつ誰にも負けないといえるものを身につけてほしいと思います。私にとっては、それがタイ語でした。学びたいと思う気持ちに応える環境は整っています。多様なことに興味を持ち、成長のチャンスを将来につなげてください。外務省ではゴルゴ13とコラボした、「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」も配布しておりますので、明治大学に入学後に留学などで海外渡航の機会がある方はぜひ手に取ってみてください。

フジテレビ×情報コミュニケーション学部メディアリテラシー講座 実際の番組制作を通じて メディア方法論を学ぶ「映像表現論」



「映像表現論」は、株式会社フジテレビジョンと共同して、番組制作を通じてメディアリテラシーを実践的に身につける授業科目です。まずは撮影方法や取材の段取りを学び、チームごとにテーマを設定してVTRを作成します。取材の交渉から実際のインタビューや撮影まで、すべて学生主体。完成したVTRは、フジテレビの番組制作に携わるプロの指導のもと、プロの機材を使用し、ひとつの番組として完成させます。プロの現場を垣間見ながら、制作に取り組むことで、大きな収穫がある授業です。



テレビ局のスタジオで機材を駆使して番組制作

「世界の中の日本」を自覚して、世界を舞台に活躍できる人材を育成

国際日本学部

School of Global Japanese Studies

■ 国際日本学科

明治大学国際日本学部の強み

日本と世界の文化・社会を幅広く学べるカリキュラム

- 1 多くのネイティブを含む経験豊富な教員による、少人数制の充実した外国語教育
- 2 留学(短期・長期)や海外インターンシップ等、留学プログラムが充実
- 3 日本の社会システムや、伝統文化から、現在のポップカルチャーまでを多角的に学ぶ
- 4 世界諸国の社会経済や思想文化、国際関係を幅広く学ぶ
- 5 大学での学びや研究に必要な日本語力の養成
- 6 世界中から受け入れた外国人留学生と日本人学生の多彩な交流機会
- 7 英語で行われる授業も充実、英語で学位を取得できるEnglish Trackも設置

さらに詳しい情報は
Step into Meiji Universityまたは
学部ガイドをご覧ください



日本から学び、 世界から学び、日本と世界の つなぎ方を学ぶ。

日本から世界へ、そして世界から日本へ、「日本と世界をつなぐ」力を育てるのが、国際日本学部の使命です。私たちは、日本の魅力を世界的な視点から理解し、世界に向けて発信することができる力、そして世界の事情を日本の視点から理解し、日本への教訓を取り出して、日本に向けて発信することができる力の育成を目指しています。

鈴木 賢志 学部長

1968年生まれ。明治大学付属明治中学・高等学校、東京大学(法学)、ロンドン大学(修士)、ウォーリック大学(博士)。スウェーデンのストックホルム商科大学欧州日本研究所で10年間教育研究に従事し、オックスフォード大学研究員を経て帰国。日本と北欧の社会システムの比較研究を専門とし、一般社団法人スウェーデン社会研究所の代表理事・所長も務める。

多様な背景を持つ仲間と出会い、 様々な価値観を学ぶとともに、 「学びの姿勢」が身についた。

日本と世界の文化・社会を幅広く学べる学部の特性から、面白い仲間と出会えると考え、国際日本学部を選択しました。在学中は、多様な背景を持つ学生と多くの出会いがありました。授業では、様々な価値観に触れ自身の思考が深まるとともに、当たり前を疑うという経験を通じて、真の平等とは何かを考える時間になりました。「理論だけではなく、それを『実践』することでこそ、知識を得ることができる」という姿勢を持ち、生涯学び続けていきたいです。

国際日本学科4年 大久保 励さん
(山梨県立甲府昭和高等学校卒業)

▶ Meiji NOWでは「前へ!」踏み出す国際日本学部生を特集しています



国際日本学部12の特色

ポップカルチャー研究領域

マンガ、アニメ、ゲーム、特撮など日本の先端文化が世界から注目を集めています。それら作品の主題や表現とそのメディアや産業とのかかわり、制作を支える技術や流通の形態、国内外における受容のあり方やファン文化、歴史的変遷やその時々への社会的影響などを多角的に分析します。その追求を通じて、現代日本文化と世界とのかかわりを考えます。

社会システム・メディア研究領域

現代日本の基盤となっている社会・経済システム、産業組織、企業経営、メディアなどの最先端の様相とその特質、優位性、課題について知見を深めていきます。同時に、それらを世界と照らし合わせつつ発信し、ビジネスやインフラを高度化させていくための新たな方法を求めていきます。

グローバル共生社会研究領域

「世界で活躍する人材」の養成を目指して、国際関係や世界各地の地域研究、多文化共生・異文化理解に関する科目を充実させています。多様な文化背景を有する人々とともに働き、ともに生活することができるように、異文化リテラシーを高め、ダイバーシティ社会を支えるための基礎を修得します。

国際文化・思想研究領域

世界各地の文化は、日本を含め、相互に影響しながら発展してきました。歴史、文学、芸術、映画、宗教、哲学といった人文学の諸分野を横断し、様々な地域の古典から現代の最新状況にいたるまで幅広く学びながら、いま私たちが生きている世界がどのように成り立っているのかを考えます。

日本文化・思想研究領域

グローバル化が進展する時代で活躍するには、外国の文化を受信するだけでなく、日本の文化を発信する能力が不可欠です。その能力を獲得するためには、日本の文化や思想を客観的に見る視点を養い、日本の文化や思想に関する幅広い知識を身につけ、その本質を見極めようとする努力が必要です。思想・哲学から伝統文化までその本質に触れながら日本の心を学びます。

日本語研究領域

現在私たちが使っている日本語とはどのような特徴を持った言語なのでしょうか。世界のほかの言語と比較することや歴史的な背景を学ぶことなどを通して、現代日本語の面白さを再発見していきます。

英語研究領域

母語は無意識で習得できるのに、なぜ第二言語を習得するのは難しいのでしょうか。どうすれば効果的な英語教育ができるのでしょうか。言語学の分野を中心に実践に生かせる理論を学びます。

少人数クラスでの実践的な英語教育

英語の総合的なコミュニケーション能力を磨き、英語で自分の意見を表現し、情報を発信できる能力を育成します。1・2年次は、英語能力試験の結果に基づいて習熟度別の少人数クラスで集中的な英語教育を実施します。また、英語の授業は専任のネイティブ・スピーカー教員を含む英語教育の専門家が担当します。

日本と世界をつなぐ日本語教育

日本の文化や社会について深く理解し、その知見や情報を発信していくためには、十分な日本語能力が不可欠です。国際日本学部では、日本語を母語としない学生を対象に、入門レベルから上級レベルまで一貫したカリキュラムで独自の日本語教育プログラムを提供し、大学での学びや研究に必要な日本語能力を養成していきます。

国際教育交流の推進

海外留学の経験は、国際的な視野の育成とともに外国語能力の向上のためにも重要でありますが、国際日本学部の学生にとっては、日本を相対化して捉え、日本研究をさらに深化させる契機としても大きな意義を持っています。そのためにも英語圏を中心に、短期留学も含めた多様な留学制度を整備し、正課授業の一環として海外留学の促進を図っていきます。

総合的な教育プログラム

社会人文学、ICT(Information & Communication Technology)、日本語表現技術など幅広く学べる総合教育科目、少人数で行う演習、社会連携、実践型の科目、第二外国語などがきめ細かく用意されています。

多文化共生キャンパスの創成

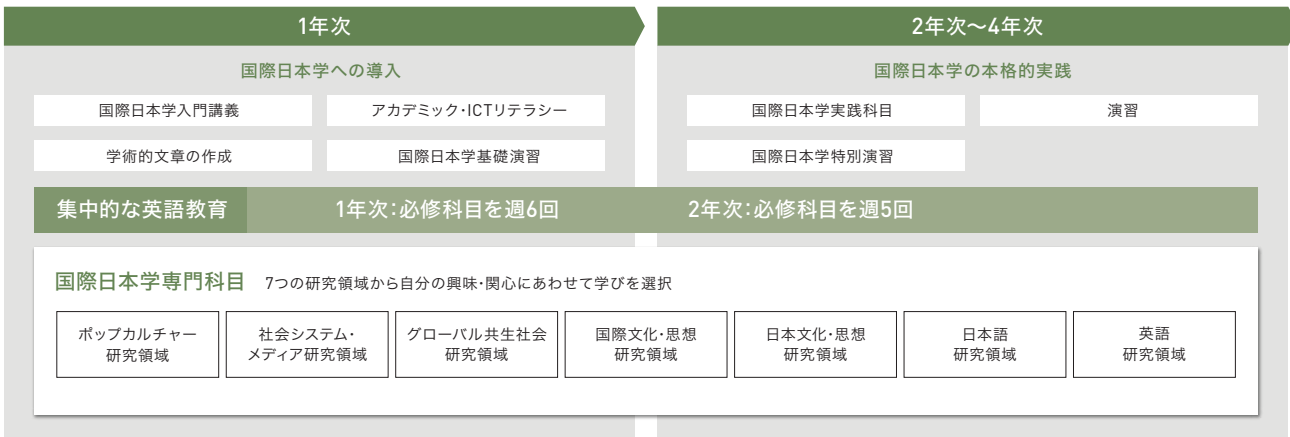
豊富な国際経験を有した国内の学生や多様な文化的背景を持った外国人留学生を積極的に受け入れています。そうして形成された多文化コミュニティの中で、国籍や民族などの違いを越えてともに学び、講義やゼミ活動、さらにキャンパスライフを通して、実践的に外国語能力や異文化理解力を磨いていきます。

カリキュラム

自分の言葉で日本の魅力を世界に発信できる国際人に

グローバル化時代にふさわしい人材を養成するため、集中的な英語教育と国際教養教育に力を注ぐとともに、伝統的な日本文化に加え、今日世界の注目を集めている現代日本文化、そしてその発信基盤である日本語、および企業・産業・社会などの社会システムについて、魅力ある教育を行います。

■ 4年間の学びのイメージ



■ カリキュラム体系図

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	国際日本学入門講義 アカデミック・ICTリテラシー 学術的文章の作成 国際日本学基礎演習			
英語科目	English(Speaking) I・II English(Listening) I・II English(Reading & Writing) I・II	Research Paper Writing Speech & Presentation Advanced Reading & Writing Advanced Speaking & Listening TOEIC Preparation I・II		
	TOEFL Preparation			
		Current English A・B Discussion & Debate	Integrated English A・B Literature Reading A・B Practical Drama A・B	
			Advanced Level TOEIC Business English	
国際日本学専門科目	漫画文化論A・B 日本社会システム論A・B アジア太平洋政治経済論A・B フランス文化論A・B 武道文化論A・B 日本語学A・B 言語と文化A・B ※科目の詳細は学部ガイドを参照してください。	アニメーション文化論A・B ツーリズムマネジメントA・B 世界のなかのアフリカA・B 宗教と哲学A・B 日本表象文化論A・B 日本語教育学(文法/語彙/音声)A・B 心理と言語A・B	日本漫画史A・B 知的財産と企業戦略A・B インド経済論A・B 映像文化論A・B 江戸学A・B 日本語の歴史A・B 応用言語学A・B	日本のジャーナリズムA・B 日本人の行動モデルA・B 移民政策論 イスラーム史A・B 歌舞伎・能の美学 外国語としての日本語教育法A・B 英語学A・B など
総合教育科目	社会学A・B 政治学A・B 経済学A・B 経営学A・B 西洋史A・B 日本史A・B アジア史A・B 地理学A・B 統計学A・B 人類学A・B スポーツ身体・運動文化A・E 国際日本学実践科目A・E 社会連携科目A・H ※科目の詳細は学部ガイドを参照してください。		国際日本学特別演習A・B	
第二外国語科目	ドイツ語(初級)A・B フランス語(初級)A・B 中国語(初級)A・B スペイン語(初級)A・B 韓国語(初級)A・B			
		ドイツ語(中級)A～D フランス語(中級)A～D 中国語(中級)A～D スペイン語(中級)A～D 韓国語(中級)A～D		
日本語科目※	留學生のための学術日本語I・II・III Introductory Japanese(総合/語彙・漢字) 初級日本語(総合/語彙・漢字) 中級入門日本語(総合/語彙・漢字) 中級日本語(総合/語彙・漢字) 中上級日本語(総合/語彙・漢字) 上級入門日本語(総合/語彙・漢字)			
演習科目		演習A・B・C・D		
海外留学	留学準備(TOEFL受験対策・異文化理解)		海外留学	

※外国人留学生とEnglish Track学生のみのみ

「個」を強くするゼミナール教育

幅広い分野に展開されるゼミで主体的に学ぶ楽しさを味わう。

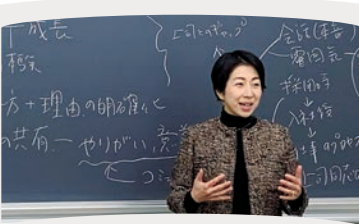
多様な専門分野それぞれに優れた研究者が揃っているので、ゼミは幅広い分野に展開されています。ゼミでは、リサーチやディスカッションを通して得られた研究成果を学内外に発表したり、学外にも開かれたイベントの企画・運営を通して、学問の探究や社会実践方法の習得を目指します。国際日本学部では学生の皆さんのニーズに応じて、ひとつのテーマを深く探究したり、複数の異なるテーマの演習を組み合わせて受講することもできます(*一部の演習は3年次以降のみの開講となる場合があります)。

広告の理論実証を学び、日本の魅力を世界に発信



私は「広告の理論実証研究」のゼミを選択し、広告効果について学びました。人を動かす力がある「広告」を、「マーケティング」の観点から学ぶことで、身近なはずの商品・サービスへの見方が飛躍的に向上しました。企業活動の背景にある意図・狙いが理解でき、その意図・狙いと活動が適切にリンクしているか理論的・実証的に分析する力が身につきました。将来は、こうした理論実証の力を活用して、グローバルに活躍するマーケターになることが私の目標です。学部内の多くの授業で、日本から世界を、世界から日本を考える視点を学びましたので、それに加えてゼミで広告を学んだ人間として、日本の魅力を世界に発信していきたいです。

国際日本学科3年 山下 栄実さん
(静岡県立静岡高等学校卒業、小野雅号ゼミナール所属)



授業レポート

日本的流通システム論

戸田 裕美子 准教授

日本的流通システム論は、日本の流通の発展を歴史的に振り返るとともに、流通における近年の変化にも目を向け、過去と現代の対話を通じて、流通現象への理解を深めます。また、諸外国と日本の流通構造を国際比較することで日本の流通システムの特長性を明らかにし、「流通」を切り口に、日本と世界のつながりを考察します。



授業レポート

アフリカと近現代世界

溝辺 泰雄 教授

今のアフリカを取り巻く諸問題を理解するためには歴史的視点とグローバルな視点が不可欠です。この講義では、学期ごとにフェアトレードや多文化共生、民主主義、開発支援などのテーマを設定し、アフリカ各地の事例を取り上げて学びを深めていきます。

目指す将来イメージ

- マスコミ関係(テレビ・ラジオ局、新聞社)、出版関係、メディア産業、インターネット関連業種

- 旅行・交通業(航空・鉄道・海運)、観光開発関連産業、知財関連業種、広告産業、映画産業、コンピュータ・グラフィックス関連業種

- コンテンツ産業、文化芸能関連業種、知財関連業種、広告産業、映画産業、コンピュータ・グラフィックス関連業種

- 大学院進学、外資系企業、政府系国際機関

教員紹介・研究テーマ

※2024年4月1日現在
※退職等により変更となる場合があります。

科目	氏名・職名	研究テーマ
国際関係論	Vassiliouk, Svetlana 教授	Japan's foreign relations in the Indo - Pacific Region ; Russia-Japan Relations ; Russia's Arctic policy
日本的ものづくり論	呉 在 恒 教授	日本的ものづくり・システムの国際競争力、その海外移転、各国ものづくり・システムとの比較
言語と文化	大須賀 直子 教授	英語教育、中間言語語用論、言語学習方略、日英の言語文化比較
英語学	大矢 政徳 教授	依存文法の枠組みに基づいた自然言語の統語構造の明示的定量的比較対照研究
組織マネジメントと文化／知的財産と企業戦略	小笠原 泰 教授	テクノロジー革新と融合するグローバル化による国家、企業、個人間でのパワーシフト・バランスについての研究
インターネットと社会／共生と学びのデザイン論	岸 磨貴子 教授	教育工学、学習環境デザイン、アートベース・リサーチ
アジア太平洋政治経済論	金 ゼンマ 教授	アジア国際関係論、アジア太平洋の制度的経済統合とTPP、FTAをめぐる政策決定過程の日韓比較
近現代日本文学	小谷 瑛輔 教授	日本近代文学、文学理論、文芸批評、近現代日本文化
日本語教育学／日本語	小森 和子 教授	第二言語としての日本語の習得の難易を決定づける認知的・言語的要因の解明
日本社会システム論／ヨーロッパ政治経済論	鈴木 賢志 教授	国民の価値意識と社会心理、日本と北欧を中心とした社会システムの国際比較
映像文化論／映画史概論	瀬川 裕司 教授	映画分析の方法論、映画ジャンル論、娯楽文化研究
日本語学／日本語の歴史	田中 牧郎 教授	日本語語彙の歴史的研究
ラテンアメリカの歴史と文化／スペイン語	旦 敬介 教授	アフロ・ブラジル文化、アフリカ大陸とアメリカ大陸の間の人と情報の往来、ラテンアメリカ文学、読書論、Creative writing
武道文化論／スポーツ・身体運動文化	長尾 進 教授	日本武道の特性と、その国際展開に伴う諸問題について
舞台芸術論／日本とドイツ	萩原 健 教授	現代の舞台芸術(主に日本とドイツ)
心理と言語	廣森 友人 教授	外国語学習の科学：理論・研究・実践
漫画文化論／ジェンダーと表象	藤本 由香里 教授	少女マンガ。特に「性別越境」や価値観・表現の変化を追う。マンガの国際比較論
世界のなかのアフリカ／アフリカと近現代世界	清辺 泰雄 教授	アフリカ独自の近代化・自立的発展論に関する歴史的研究
宗教と哲学／日本の哲学	美濃部 仁 教授	西田幾多郎とドイツ観念論における絶対的なものの研究
日本漫画史／アニメーション文化論	宮本 大人 教授	漫画、アニメーションの歴史的研究。特に昭和戦前・戦中期における戦争とのかわり
多文化共生論／移民政策論	山脇 啓造 教授	日本の外国人政策および多文化共生のまちづくり
English	Rugen, Brian D. 教授	Literature and language teaching; discourse and identity; English language teacher education
フランス文化論	鶴戸 聡 准教授	フランス語圏アラブ＝ベルベル文学、地中海文学、台湾語文化
広告とメディア	小野 雅琴 准教授	広告等のマーケティング・コミュニケーションの様々な情報が、消費者の製品評価に与える影響をテーマに、現象を包摂して説明する理論モデルを構築し、実証する研究
テクノロジーと日本社会	田中 絵麻 准教授	ICT政策論、コンテンツ産業論、メディア・リテラシー論
日本的流通システム論	戸田 裕美子 准教授	現代日本流通の歴史的研究
異文化間教育学	平井 達也 准教授	多文化共修を通しての多様性理解、キャリアカウンセリングとポジティブ心理学を活用した幸せな生き方の創造、自分らしいリーダーシップの開発など
English	McLoughlin, David A. 准教授	Second language learning motivation; second language learners' causal attributions; the role of affect in self-directed language learning.
日本表象文化論	眞嶋 亜有 准教授	近現代日本のグローバル化とアイデンティティをめぐる諸相、生活文化・家族・精神構造といった日常生活からみる比較文化論
日本先端文化論／現代都市とデザイン	森川 嘉一郎 准教授	漫画・アニメ・ゲームを中心とする現代日本の輸出文化、およびそのアーカイブ構築や展示手法の研究。都市、建築デザイン
日本語教育学／日本語	柳澤 絵美 准教授	日本語の音声知覚にかかわる手がかりの解明とその発音教育への応用
ツーリズム・マネジメント	佐藤 郁 専任講師	観光学、ツーリズムを通じた産学地域連携、観光地のマネジメント
日本の宗教／比較宗教論	Ward, Ryan M. 専任講師	近代日本宗教史、死生観
English	Groff, David K. 特任准教授	Translation studies, presentation of traditional Japanese culture in English, meditation and language learning, neurobiology of consciousness, language, and meditation.
English	Davies, Brett J. 特任准教授	Intercultural communication, course and materials design, learner autonomy and peer learning, the use of authentic materials in the classroom, and film theory.
ホスピタリティ・マネジメント論	Mary, Quek 特任准教授	ホスピタリティマネジメント、ホテル経営史、観光業
English	Weinberg, Joel 特任准教授	Promoting fluency, motivation, comprehension, and confidence in L2 reading assignments via the integration of technology into the learning process.
日本語教育学／日本語	安高 紀子 特任講師	日本語学習者の「話す」「書く」能力の育成と評価
English	Ellis, Sara K. 特任講師	Creative writing as a means of fostering audience awareness and reflective writing practices, pop culture and genre fiction.
English	Garside, Paul 特任講師	Development of fluency and interactional competence
比較文化学／東アジア文化交流史	張 佳能 特任講師	大衆音楽を中心とするカルチュラル・スタディーズ
日本の文化伝統	馬場 小百合 特任講師	日本上代文学における漢字表現、韻文の役割について
English	Frazier, Erin 特任講師	CALL in TESOL using virtual reality(VR),augmented reality(AR),artificial intelligence(AI)
アカデミック・ICTリテラシー／学術的文章の作成／国際日本学基礎演習	眞崎 光司 特任講師	ゼミナールにおける学習、大学教育
English	Leto, Mario A. 特任講師	Ecological linguistics, social semiotics, critical discourse analysis, positive discourse analysis



留学制度 国際日本学部主催

国際日本学部では、学生たちの多面的な日本理解を促進し、高度な国際感覚を育てることを目的に、初年次から参加できるものも含め、多数の留学プログラムを用意しています。これらのプログラムで修得した単位は一定条件のもと、国際日本学部の単位として認定されるため、海外留学をしても4年間で卒業することができます。また、留学に伴う経済的負担を軽減するために、明治大学の授業料の一部を助成する外国留学奨励助成金制度も用意されています。

※感染症や各国の情勢等により、プログラムを実施できない場合があります。

アカデミック・インターンシッププログラム

アカデミック・インターンシッププログラムでは、国際日本学部が協定を結んでいる大学で授業を受講したのち、インターンシップに参加ができます。実際に海外での業務実習を経験できる、学部が主催するプログラムです。

ウォルト・ディズニー・ワールド提携 フロリダ州立大学アカデミック・インターンシッププログラム

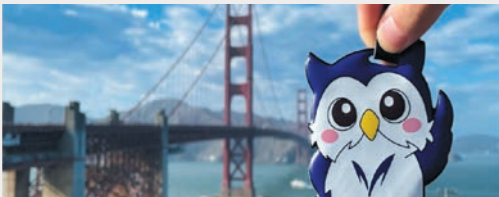
フロリダ州の州都タラハシーに所在する総合大学、フロリダ州立大学(FSU)で1週間程度の導入授業を受け、異文化理解について学んだ後、オーランドにあるウォルト・ディズニー・ワールドにて実際に「キャスト」としてインターンシップを行います。インターンシップ中も継続的にFSUの授業を受講し、授業で学んだ異文化コミュニケーションを現場で実践することができる人気プログラムです。FSUで修得した単位は、帰国後、国際日本学部の単位認定申請をすることができます。このプログラムに参加するには、学部内選考に加えて、ディズニー社の採用担当者による英語での面接を受け、合格する必要があります。



アカデミック留学プログラム

アカデミック留学プログラムは、国際日本学部が協定を結んでいる協定校への約半年から1年間の留学プログラムです。現在協定を結んでいるアメリカ・イギリス・スウェーデン・シンガポールの17大学・コミュニティカレッジにおいて、現地の学生と一緒にキャンパスライフを送ることができます。

参加条件などは、
右の二次元コードからウェブサイトでご確認ください。



留学中の1コマ：アメリカ・ゴールデンゲートブリッジ

海外ボランティアプログラム

海外ボランティア・インドネシア(ブティルフル大学)

国際日本学部では、夏休みに約3週間、インドネシア共和国の首都ジャカルタにあるブティルフル大学において海外ボランティアプログラムを実施しています。ブティルフル大学の学生と英語でコミュニケーションを取りながら、現地の小学校や中学校で日本語や英語を使って教員のアシスタントを行ったり、孤児院等を訪れ日本の文化を紹介したり、炊き出しを行うなど多彩な交流と社会貢献活動が組み込まれています。3週間の短期プログラムですが、長期の留学から得られる経験に勝るとも劣らない大変充実した内容のプログラムです。



日本文化ワークショップ



ブティルフル大学のキャンパス

OB・OG MESSAGE

総合商社で大学の学びを活かせるリスクマネジメントを担当。



双日株式会社 サプライチェーンリスク管理部

和泉 実樹さん 国際日本学科2023年卒業(千葉県私立昭和学院高等学校卒業)

私の人生の大きな目標は教育の普及です。しかし、国が平和で豊かでないと、教育までは手が届かないと大学で学びました。そのため、発展途上国とかかわる仕事がしたい、人々の暮らしを豊かにする仕事がしたいと思い、総合商社へ入社しました。私が勤める双日では、海外で病院や鉄道の建設等を行っており、東南アジアでの事業も盛んな企業です。私の志や興味とマッチしていると感じ、入社を決めました。現在の配属先では、トレーディング事業のリスクマネジメントをしています。営業担当者が提案する案件や企業が、会社のリスクにならないよう考え、管理する仕事です。まだ未熟ですが、営業担当者からの相談を受けることもあり、やりがいを感じています。学生時代は、国際日本学部で主に言語と国際関係について学びました。ゼミではアジア太平洋地域の政治経済について学び、議論していました。授業ではプレゼンをすることが多かったので、人前で話すことにも慣れ、職場でも萎縮せず自分の意見を持って仕事ができている。今は直接海外とかかわる機会はありませんが、ゆくゆくは大学で学んだことがより活かせる部署への異動や海外外向を希望しています。